

若森社遺跡

農業集落排水事業本郷東部地区処理施設新築工事
埋 藏 文 化 財 発 掘 調 査 報 告 書

2001

飯 島 町
飯島町教育委員会



写真1 調査地全景（上空より）



写真2 調査地から北東方向の景観（上空より）

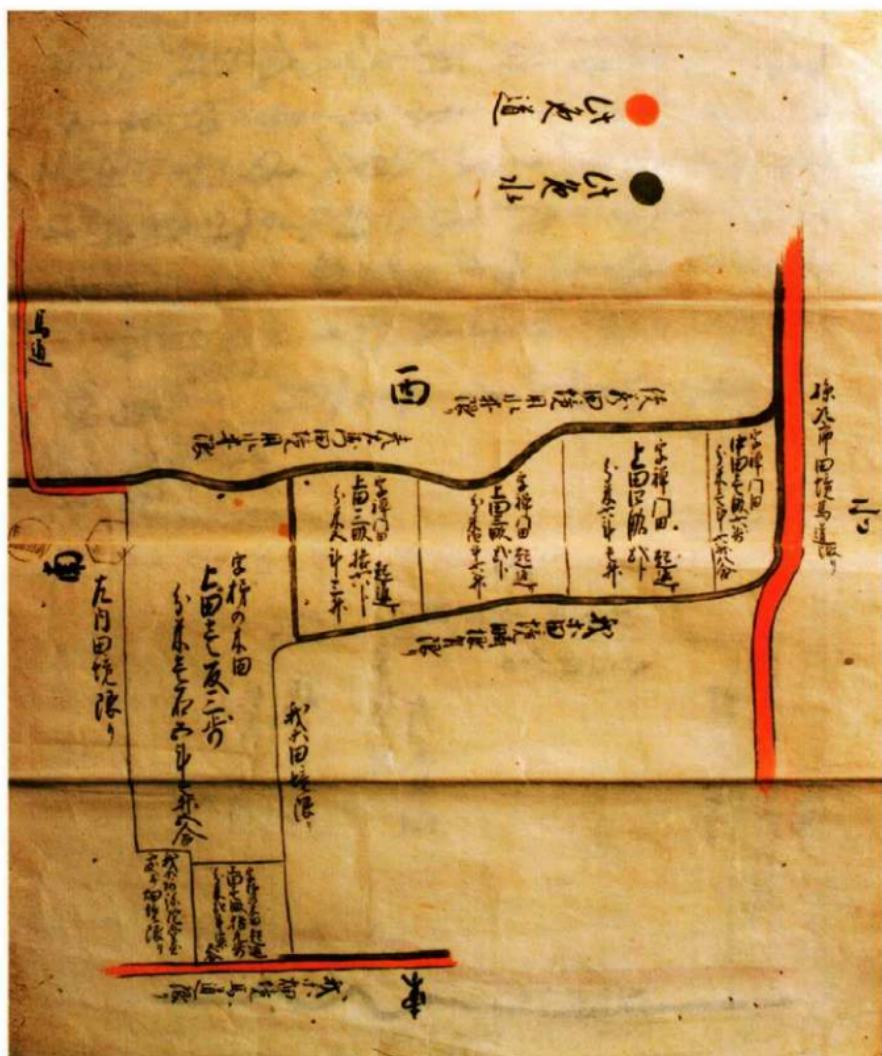


写真3 寛政9年の絵図（調査地に隣接する地域、河野通昭氏所蔵）

今回の調査地は絵図の範囲には含まれず、枠外左下あたりの位置。単農道調査地は、「字柿の木田」から絵図左下にかけての位置。

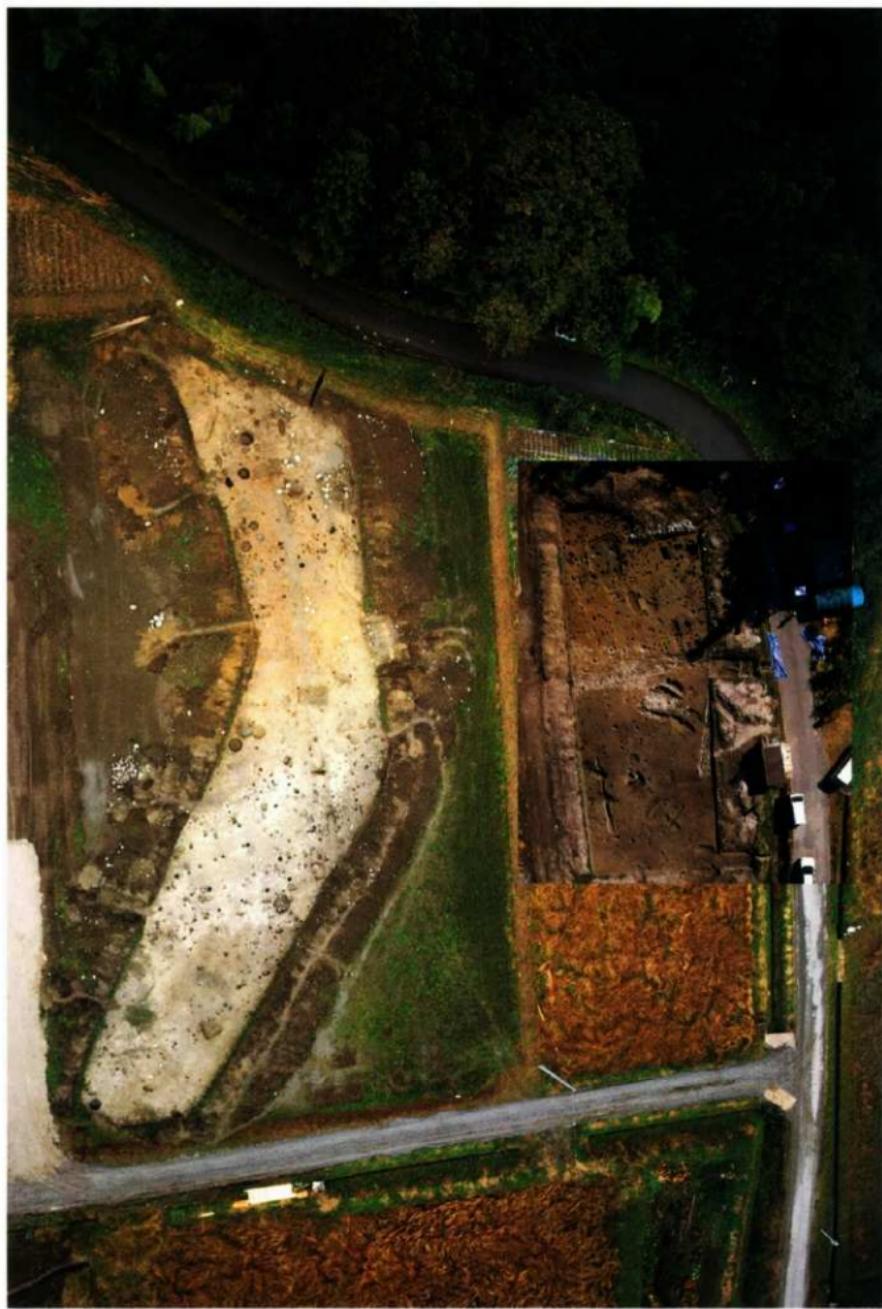


写真4 空中写真イメージ合成（東半農道調査地の写真に今回の調査地写真を合成）



写真5 園場整備前の本郷地区（昭和40年11月撮影）

発刊にあたって

平成11年度より、飯島町の農業集落排水事業のなかで、本郷東部地区に処理施設が建設されることにともない、県教育委員会と事業者・町教育委員会が協議した結果、発掘調査が実施されることになりました。今回の調査に先立ち、平成10年度、県営県単農道整備事業において若森社遺跡内の隣接地すでに発掘調査が実施されており、とくに中世の遺物・遺構には注目されるものが出土したため、今回の調査でも関連する成果が期待されていました。

調査の実施にあたっては、調査員・作業員の皆様に、現地調査から整理作業までたいへんなご努力をいただきました。また、大勢の方々にご指導・ご助言・ご協力を賜り、地権者や地元の皆様にも多大なご理解・ご協力をちょうだいしました結果、この地域の歴史を考える上で貴重な資料となる多数の遺構や遺物が見つかり、ここに本書が完成しました。関係されました各位に、心から感謝を申し上げます。

調査は、2年間という限られた時間でおこなったため、十分なまとめができたとはいいがたい面もありますが、本書の刊行によって、これから研究がますます充実することを願うものです。

飯島町教育委員会

例　　言

- 1 本書は、飯島町の農業集落排水事業本郷東部地区処理施設新築工事にともない、平成11～12年度に実施した若森社遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 調査は、飯島町（水道課）より委託を受け、飯島町教育委員会が実施した。
- 3 本文の執筆は、目次のとおり分担しておこなった。遺構・遺物の実測図は、原則として縄文・弥生・古代を太田 保が、中世を倉沢敏一が作成した。
- 4 若森社遺跡では、平成10～11年度、県営県単農道整備事業にともない、今回の調査地の北東側に隣り合う地籍すでに発掘調査を実施し、報告書を刊行した（上伊那地方事務所・飯島町教育委員会『若森社遺跡・南羽場遺跡 県営県単農道整備事業・本郷地区埋蔵文化財発掘調査報告書』2000年）。関連が強いので、そちらも参照いただきたい。本書では、この調査を「県単農道調査」と略称し、同報告書を『若森社遺跡・南羽場遺跡』と呼ぶ。なお、本書の第2章2・3は、「若森社遺跡・南羽場遺跡」で触れなかった事項のみを記述することとし、重複を避けた。
- 5 出土遺物については、ほとんどが小破片だったため、本文の記述は主に図に表すことのできた遺物を中心説明をし、ほかは表8～12に示した。本文中で遺物を示した番号数字は、一部を除き図中の番号数字と対応する。
- 6 本調査の出土品・記録類は飯島町教育委員会が保管している。

本文目次

発刊にあたって

例　　言

第1章 調査の経過と体制	(九山浩隆) —— 1
1 保護協議と調査の経過	1
2 調査体制	2
第2章 遺跡の環境	3
1 遺跡の位置	(九山浩隆) 3
2 地形・地質と土層の特徴	(九山浩隆・太田保) 4
3 調査地周辺の歴史	(中島淑雄) 5
(1) 周辺の縄文時代遺物	5
(2) 県単農道調査の成果概要	6
第3章 縄文・弥生・古代	(太田保) —— 7
1 遺構	7
(1) 縄文時代の遺構	7
(2) 弥生時代・古代の遺構	7
2 遺物	7
(1) 縄文時代の遺物	7
(2) 弥生時代の遺物	8
(3) 古代の遺物	8
3 まとめ	9
第4章 中世	(倉沢敏一) —— 11
1 遺構	11
(1) 据立柱建物1	11
(2) 据立柱建物2	12
(3) 据立柱建物3	12
(4) 据立柱建物4	12
(5) 土坑	13
(6) 垣状遺構	15
(7) 風倒木底	15
2 遺物	16
(1) 貿易陶磁器	16
(2) 施釉陶器	17
(3) 榆鉢	19
(4) 妾・広口壺	19
(5) 片口鉢・こね鉢	19

(6) 山茶碗・小皿	20
(7) その他の陶器	20
(8) 内耳鍋	20
(9) 金属製品・鉄滓	20
(10) 銭貨	21
(11) 砥石	21
3 まとめ	21

第5章 近代の瓦捨て遺構 (中島淑雄) —— 23

1 遺構・遺物の概要	23
2 本郷の瓦製造	23

第6章 遺跡周辺の概観—まとめにかえて (丸山浩隆) —— 25

1 縄文～中世	25
2 中世の景観	25
(1) 前提とすべき古代	26
(2) 18世紀後半の絵図	26
(3) 道・天竜川・社寺・市	28
(4) 近世への展望	32
(5) 調査地の中世のすがた	34

表 目 次

表1 遺構・遺物の残存状況	5	表7 グリッド別柱穴一覧	43
表2 周辺遺跡の縄文時代遺物	6	表8 縄文・弥生・古代土器一覧	45
表3 飯島町内出土の釣手土器	9	表9 石器一覧	46
表4 近隣市町村出土の釣手深鉢土器	10	表10 中世陶磁器産地別一覧	47
表5 瓦の粘土	24	表11 中世陶磁器出土グリッド別一覧	52
表6 柱穴一覧	36	表12 中世陶磁器年代別一覧	53

図 目 次

図1 発掘調査地 (1:2,500)	1	図13 土坑実測図 (1:40)	61
図2 周辺の遺跡 (1:20,000)	2	図14 土坑実測図 (1:40)	62
図3 遺跡の位置 (1:50,000)	3	図15 土坑実測図 (1:40)	63
図4 土層柱状図	4	図16 土坑・風倒木痕実測図 (1:40)	64
図5 近世の社寺・道・水路と周辺要図	30	図17 風倒木痕実測図 (1:40)	65
図6 若森社遺跡全図 (1:100)	55・56	図18 風倒木痕実測図 (1:40)	66
図7 埋甕状遺構実測図 (1:10)	57	図19 坂状遺構実測図 (1:60)	67
図8 挖立柱建物1・豎穴実測図 (1:60)	58	図20 碓の盛り上がり実測図 (1:40)	68
図9 挖立柱建物2実測図 (1:60)	59	図21 瓦捨て遺構実測図 (1:60)	69
図10 浅くくぼんだ遺構配石図 (1:60)	60	図22 繩文土器実測図および拓影 (1:3)	70
図11 挖立柱建物3実測図 (1:60)	60	図23 繩文土器・弥生土器・古代の土器実測図および拓影 (1:3)	71
図12 挖立柱建物4実測図 (1:60)	61		

図24 石器・石製品実測図(1:3、2:3) ……72	図30 金属製品実測図(1:3、錢貨のみ1:1) ……78
図25 石器実測図(1:3) ……73	図31 グリッド列ごとの世紀別陶磁器点数 ……79
図26 陶磁器実測図(1:3) ……74	図32 グリッド列ごとの2時期別陶磁器点数 ……79
図27 陶器実測図(1:3) ……75	図33 世紀別陶磁器総点数 ……79
図28 陶器・土器実測図(1)(1:3) ……76	図34 2時期の陶磁器産地別組成 ……79
図29 陶器・土器実測図(2)(1:3) ……77	図35 各世紀のグリッド別陶磁器出土状況 ……80

写 真 目 次

卷頭図版	写真33 陶磁器(5)
写真1 調査地全景(上空より)	写真34 陶磁器(6)
写真2 調査地から北東方向の景観(上空より)	写真35 陶磁器(7)
写真3 寛政9年の絵図(調査地に隣接する地域)	写真36 陶磁器(8)
写真4 空中写真イメージ合成	写真37 陶磁器(9)
写真5 園場堅備前の本郷地区(昭和40年)	写真38 陶磁器(10)
図 版	写真39 陶磁器(11)
写真6 埋甕状遺構上部	写真40 陶磁器(12)
写真7 埋甕状遺構下部	写真41 陶磁器(13)
写真8 振立柱建物1内竪穴上部	写真42 陶磁器(14)
写真9 振立柱建物1および土坑1、3、4、6~10	写真43 陶磁器(15)
写真10 振立柱建物2内浅くほんだ遺構上部	写真44 陶磁器(16)
写真11 振立柱建物2	写真45 陶磁器(17)
写真12 土坑3・4	写真46 陶磁器(18)
写真13 土坑4・5	写真47 錢貨・青銅製品
写真14 土坑6	写真48 埋甕状遺構出土縄文土器
写真15 土坑9上部配石	写真49 縄文時代土製品と竪穴内出土の土器
写真16 土坑11・14・15・16	写真50 石器(1)
写真17 土坑11・14・15・16	写真51 石器(2)
写真18 土坑12・13・18	写真52 石器・石製品
写真19 土坑17	写真53 中世土器(1)
写真20 坑道遺構、土坑19・20・21	写真54 中世土器(2)
写真21 土坑23、風倒木痕5・6	写真55 柱穴内出土の中世土器・陶器
写真22 風倒木痕1断面	写真56 弥生・古代土器
写真23 坑道遺構、土坑22	写真57 縄文土器(1)
写真24 瓦捨て遺構	写真58 縄文土器(2)
写真25 瓦捨て遺構	写真59 鉄製品(1)
写真26 風倒木痕3	写真60 鉄製品(2)
写真27 風倒木痕9	写真61 鉄製品(3)
写真28 錢貨出土状況	写真62 鉄滓
写真29 陶磁器(1)	写真63 瓦(明治時代)
写真30 陶磁器(2)	写真64 宝暦10年、調査地に隣接する地域の絵図
写真31 陶磁器(3)	写真65 文久2年の本郷村絵図
写真32 陶磁器(4)	写真66 文化5年の本郷・飯沼境墨引絵図

第1章 調査の経過と体制

1 保護協議と調査の経過

調査の原因事業 飯島町が進める農業集落排水事業で、平成11～12年度、本郷東部地区の処理施設が、周知の埋蔵文化財包蔵地である若森社遺跡の範囲内に新築されることになった。農業集落排水事業とは、いわゆる下水道の整備事業である。

保護協議 当該地は、江戸時代以来水田として利用されてきた土地で、圃場整備が未実施のため造構の残存状況がよいと推測されていた。また、平成10～11年度、隣接地で実施した県単農道調査で中世の造構・遺物が多数検出され、この地域が埋蔵文化財包蔵地として重要であることがますます認知されることになった。それに先立つ平成9年8月12日、および平成10年10月8日、事業者である飯島町（水道課）と長野県教育委員会・飯島町教育委員会の3者で上記施設建設予定地の埋蔵文化財の保護について協議し、建設によって破壊される部分について発掘調査を実施することになった。さらに平成11年7月8日、事業者と町教育委員会の2者で協議を重ねた。

発掘調査の経過 平成11年9月1日、発掘調査を開始した。調査地に5m方眼を設定し、30cm程度の表土（耕作土）を除去していった。その作業中からすでに中世陶器片が現れ、繩文土器片・黒曜石剝片も少量出土した。造構確認面に近づくと遺物は数を増し、多い地点では5m四方から30点以上の土器・陶器が出土した。

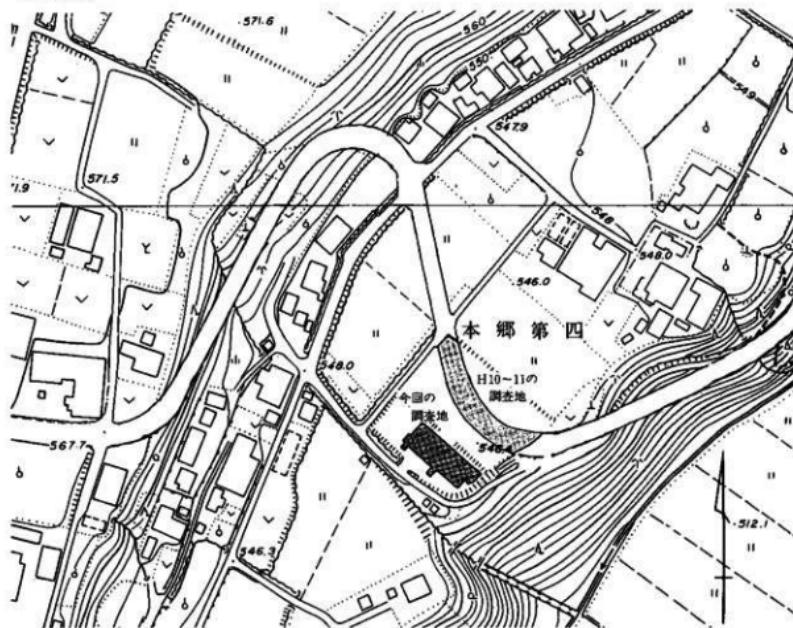


図1 発掘調査地 (1:2,500)

9月9日以降、遺構確認面で柱穴・土坑・竪穴状遺構を確認した。9月中旬から下旬にかけては雨天の日が多く、思うように作業が進まなかった。9月下旬から、土坑を掘る作業に入った。10月中旬から11月初旬にかけて、450基もの柱穴の検出作業をおこなった。11月初旬、近代の瓦が敷き詰められている遺構を検出した。11月10日、ラジコンヘリによる空中写真撮影を実施した。その後、測量や補足調査をおこなった。11月27日に現地説明会を開催し、35人が見学に訪れた。11月30日、現地調査を終了し、以後、飯島町文化館で整理作業に入った。

2 調査体制

調査責任者 飯島町教育委員会教育長：片桐 俊

調査担当課等 社会教育課課長：高坂 浩 文化係長：堀越和己

調査員 丸山浩隆（主任） 太田 保 倉沢敏一 中島淑雄

作業員 社団法人駒ヶ根伊南広域シルバー人材センター：新井正雄 鎌倉寿夫 宮下春男

清水好実 後藤春雄 浦野常寿

重機オペレーター：富永吉国（御宮下建設）

記録整理：吉沢のり子

指導・協力者 発掘調査指導：原 明芳（長野県教育委員会） 伊藤 修（中川村教育委員会）

（敬称略） 地質調査：寺平 宏 松島信幸

遺物鑑定指導：藤沢良祐（瀬戸市埋蔵文化財センター）

遺物写真撮影：唐木孝治

空中写真撮影：駒みすず綜合コンサルタント

ビデオ撮影：三石 繁

このほか、飯塚政美・片桐市明・気賀賀進・小池 孝・河野通昭・河野美智・佐々木茂武・友松 諭・林 茂樹・福島 永・桃沢茂樹・桃沢匡行の各氏から、指導・協力をいただいた。



図2 周辺の遺跡 (1 : 20,000)

第2章 遺跡の環境

1 遺跡の位置

若森社遺跡は、長野県上伊那郡飯島町本郷区にある。飯島町本郷区は、天竜川の右岸（西）に位置し、西にそびえる中央アルプスから天竜川に流れ込む与田切川と子生沢川に挟まれている。

調査地は河岸段丘の端近くに位置し、南東は急斜面で下る段丘崖、南西は沢、北西は湿地帯に囲まれている。地番は飯島町本郷551番地、標高は約546mである。



図3 遺跡の位置 (1 : 50,000)

2 地形・地質と土層の特徴

今回の調査地を含む周辺の地形・地質については、県単農道調査による報告書『若森社遺跡・南羽場遺跡』で触れているので参照いただきたい。ここでは、今回の調査地の特徴のみを記す。

地形調査地は、約4～3万年前に天竜川・与田切川が浸食した河岸段丘の突端近くに位置する。この段丘面は、上部（北西側）の段丘面より約20m低く、下部の面（南東側に広がる天竜川の河原）よりも約30m高い。調査地のすぐ南東が急勾配で下る段丘崖で、この崖下の面を天竜川が流れている。

調査地の南西脇を通る道路沿いに、沢が流れている。この沢は、上部の段丘面から流れてきてこの段丘面を横断し、天竜川の面へ急斜面を流れ落ちる。自然の沢と思われる。明治から昭和初めごろ、調査地からこの沢をはさんだ反対側に製糸工場があったので、この沢は地元では「製糸の沢」と呼んでいた。また、昭和30年代まで、ここから下る急流を利用して発電がおこなわれていた。

調査地の位置する段丘面は微妙に高低差があり、わずかながら段丘突端に近いほうが高く、段丘付け根のほうが低い。調査地北側の段丘付け根に近い一帯は、古くから湿地帯だった。宝暦10年（1760）に記されたとみられる絵図（写真64）には「沼田」と記され、現在も水田が営まれている。この水田は、基盤整備前まで排水に困るような水田だったという。段丘崖付け根の道路に沿って連なる沼田部分の地名は「古瀬^{コシ}」、その南東に「中溝^{ナカニシ}」と呼ばれる水路があり、さらに南東が調査地を含む区域で、「市村」の地名で呼ばれている。

地質調査地の地山面（耕作土を除去した土面）は、南東側と北西側で色調が異なっている（写真1）。その境界となる部分には、礫層が地山面まで盛り上がりしている。『若森社遺跡・南羽場遺跡』に記されているとおり、この段丘の南東端に近い地域では、礫層の上に堆積する砂層は天竜川の砂と同一で、多様な岩石の風化岩・長石・石英・ざくろ石などが混じっている。それに対し、北西側は天竜川による堆積もあるが花崗岩の風化岩片が多いことから与田切川の砂も流入していると考えられる。境に露出している礫層は、この段丘端を浸食しながら流れていた時期の天竜川が押し出した礫が堤防状に盛り上がった自然堤防で、その後与田切川から流れ込んだ土砂はこの自然堤防を越えることなく堆積したものとみられる。

色相の違いは、姶良Tnテフラの有無が原因と思われる。南東側には約2.5万年前ごろに降下した姶良Tnテフラが薄く載っているため黄灰褐色であるのに対し、自然堤防よりも北西側は、それ以降与田切川から流入した土砂が姶良Tnテフラを押し流してしまったため明灰褐色であるものとみられる。

土層の特徴 調査地は調査開始前まで水田で、土層の一番上は黒褐色の水田耕作土が覆っていた。耕作土下の土層は調査地内でも違いがあり、おおまかには天竜川の向きと直角方向に変化していた。土層の違いを、天竜川に近い南東側から順にみていくと、つぎのようである。

①硬い黄灰褐色土が10cm前後堆積し、その層またはその下の明灰褐色土層に拳大～頭大程度の天竜川系



図4 土層柱状図

- の石が多く混じる地域……A-0、B-0、B-1の南東側半分、C-1の南東側半分
- ②黄灰褐色土層、明灰褐色粘土層、灰綠色粘土層と続き、灰綠色粘土層の下部は粒子の細かい砂が混じるようになり、砂層、礫層となる地域……A-1からA-2、B-1の北西側からB-2、C-1の北西側からC-2
- ③薄い黄灰褐色土層中に拳大の石が、その下層の灰褐色土層中には拳大～頑大の石が多く入り、以下は礫層となる地域（前述の自然堤防部分）……A-3からA-4の東側、B-3からB-4、C-3からC-4
- ④基本的に明灰褐色土層、灰綠色粘土層、砂層、礫層の層序をなす地域……A-4の北西からA-7、B-5からB-7、C-5からC-7

ただし、④のB-6からC-6、B-7からC-7には、上面に黒褐色土が帯状に2本入っていた。これは調査地の北側にあった沼地や南西側を流れる沢に関する

係して、小規模な水溜りあるいは水の流入があったことを意味するともされる。④の地域では、水田の代播きの際注意しないと耕運機が落ち込んでいくことがあったということからも沼地との関係が考えられる。

このような土層の違いにより、②では柱穴などの輪郭が鮮明だったが、③からは遺構が検出しにくいなど、検出状況にも差が生じた。

なお、中世までの生活面は、江戸時代以来の耕作によって搅乱を受けており、遺構を検出した面は当時の生活面よりいくぶん低いレベルと考えられる。ただ、隣接する県単農道調査地では昭和55年（1980）に圃場整備がおこなわれたのに対し、今回の調査地は未実施である。

表1 遺構・遺物の残存状況

県単農道調査地	遺構	近世以来の耕作・圃場整備によって破壊されなかった遺構が残存
今回の調査地	遺物	豊穴・土坑・柱穴などの中から出土した遺物以外は、近世以来の耕作に加え、圃場整備の際大型重機によってもとの場所から大きく移動した可能性がある
今回の調査地	遺構	近世以来の耕作によって破壊されなかった遺構が残存（圃場整備は未実施）
今回の調査地	遺物	豊穴・土坑・柱穴などの中から出土した遺物以外は、近世以来の耕作によつてもとの場所から移動した可能性がある

3 調査地周辺の歴史

調査地周辺の歴史については、中世を中心に『若森社遺跡・南羽場遺跡』に記したので同書を参照していただきたい。ここでは、同書ではわずかに触れただけの縄文時代の遺物について、周辺の遺跡からの表面採集遺物を中心に(1)で紹介し、(2)では同書で明らかとなった若森社遺跡の性格について県単農道調査地を中心に触れておく。

(1) 周辺の縄文時代遺物

若森社遺跡の位置する段丘面には、周知の埋蔵文化財包蔵地として、南から「前田遺跡」「清水遺跡」「若森社遺跡」「八幡遺跡」がある。これらは、ほぼ縄文～中世の遺跡とみられるが、遅くとも江戸時代には広く水田化され、遺物が水田下に埋蔵されることになった。

各遺跡では、以下のような経緯で遺物の採集がおこなわれた。前田遺跡では、昭和40年代、一部の水田を果樹園に転換した際に遺物が表面採集された。清水遺跡では、昭和55年の圃場整備で大量の遺物が表面採集され、相の沢近くでは住居跡も認められた。若森社遺跡については、その北部の「古瀬」地籍は明治時代以降桑園から果樹園（梨）となって他地域より早くから遺物が確認されていたが、ほかの地籍では主に圃場整備がおこなわれた昭和55年に表面採集された。八幡遺跡では、昭和63年の圃場整備にともない分布調査がおこなわれた。こうして各遺跡からは主に表2の遺物が見つかっている。

表2 周辺遺跡の縄文時代遺物

遺跡名	地籍	縄文土器・土製品			石器
		中期	後期	晩期	
前田		加曾利E式土器片 釣手土器の釣手部分 顔面把手			環石 石錐 打製石斧
清水		平出3A式土器片 勝板式土器片 中期初頭土器片 加曾利E式土器片 釣手土器の釣手部分2点 中期土偶 小形土器	浅鉢口縁部 土器片口縁部	水式土器片	打製石斧 磨製石斧 石匙 石棒 石錐（大型） 石器（母岩） 黒曜石片 チャート片
若森社	市村	中期中葉土器片 台付土器	土器片口縁部		打製石斧 磨製石斧4点 黒曜石片
	古瀬	時期不明小破片			打製石斧 石錐 横刃形石器 黒曜石片
	東端				打製石斧
八幡		時期不明小破片			打製石斧

(2) 県単農道調査の成果概要

県単農道調査では黒曜石製尖頭器が出土し、すでに1万年前には人の営みがあったことが確認できた。縄文時代の遺物は、破片ではあるが中期後葉から後期の土器が多数出土した。石器も先述の尖頭器のほかスクレイパー・石錐・石錐状石器各1点や黒曜石剝片4点、打製石斧7点が見つかった。この時代のものと断定できる遺構はないが、縄文中期から後期にかけて人々の生活は厚みを増していたことが想像される。続く弥生時代にも人の暮らしがあったことは、下半部のみ検出された埋甕などからうかがうことができる。出土した土器には、弥生中期初頭から末期のものがある。

古代の遺物は調査地の南東付近の土坑から須恵器（8～9世紀）・灰釉陶器（9～10世紀）が各1点、遺構外から須恵器・土師器（ともに8～9世紀）が各1点出土した。数は少ないがこの時代にも生活が営まれたあかしといえる。

このときの調査で最も注目されたのは中世の遺構・遺物である。10.5m×5.9mの竪穴をともなう14.2m×7.8m以上の規模の掘立柱建物跡が見つかり、竪穴内からは13～14世紀を中心とする中国製の青磁・白磁や古瀬戸陶器・山茶碗（東濃産）・片口鉢（中津川産）・甕（中津川・常滑産）などの破片が出土した。器形としては日常生活で使うとみられる碗・鉢・甕などが多いが、中には四耳壺・梅瓶・水注などもある。また、南東部は墓域の可能性が指摘された。調査地を含む周辺一帯は、12世紀から営みが始まって13～14世紀に有力者がいた場所とみなされた。

その有力者は、中世、飯島周辺に大きな力を及ぼした飯島氏と考えられ、さらに「飯島氏は12世紀に片切氏から分かれて興った」との従来の説が正しければ、この場所がその最初の館である可能性があり、実態解明が課題として挙げられた。南羽場・松葉・竹ノ内・城などの館推定地や飯島城もあわせ、飯島氏の在地支配が終わるまでの時代の流れの中でその機能を明らかにしていく必要なども提起されている。

第3章 繩文・弥生・古代

1 遺構

(1) 繩文時代の遺構

埋甕状遺構（図7、写真6・7） 今回の調査で縄文時代の遺構として注目されたのは、いわゆる埋甕状に、深鉢形土器が埋められていた遺構である。C-7区西南から単独で発見された。深鉢形土器は上部が耕作によって削り取られ、胴部から底部を検出した。通例では、埋甕土器は住居跡内の出入口付近から発見され、埋甕に蓋石を載せ、蓋石の上面が床面と平らになるように埋められている。今回埋甕状遺構が出土した地点が住居跡内とすれば、床面はすでに破壊されているものと判断される。しかし、住居跡とすれば周囲にあるべき柱穴は検出できなかった。

一方、埋甕の底部直下には上部を意図的に欠いた砂岩（24cm×16cm×12.5cm）がやや斜めに立った状態で埋まっていた。まず穴の中に一部を打ち欠いてくぼみをつけた石を入れ、甕をそのくぼみに据えて埋めたものと考えられ、住居跡内に埋納する埋甕とは趣が異なっている。

柱穴・土坑など 埋甕状遺構以外の縄文時代の遺構については、縄文土器の破片が出土している柱穴や土坑は少なくないが、ほとんどが小破片で文様や断面が磨滅したものばかりであるため、それらをこの時代の遺構とは決めるには躊躇せざるをえない。土器片は柱穴・土坑内ばかりでなく、B・C-5・6区あたりを中心に調査地全域から出土しているが、遺構と判断できるものはなかった。

(2) 弥生時代・古代の遺構

弥生時代～古代について、遺物の検出はあったものの遺構は確認できなかった。

2 遺物

(1) 縄文時代の遺物

土器（図22・23、写真48・49・57・58） 縄文土器は調査地の全域から出土し、数は約500点になるがほとんどが細片だった。全体に文様や割れ面が摩滅しているのは、水田耕作の影響と思われる。

1はC-8区出土、縄文早期中ごろの押型文土器で、横円文を施している。豊母の混在する胎土で、赤く焼成されている。

2はA-3区出土、細い半截竹管文を施した薄手小型土器の破片で、時期は中期初頭である。

その他は縄文中期後葉から中期最終期の土器が多い。口縁部は、平縁のものがほとんどで、それ以外では小さな山形をなす11や図には示さなかったが把手状の写真58-28がある。3・7・8・9は外反する器形で、口唇部に平行する1条の浅い幅広の沈線をつけ、その下部に縄文を帯状に施文している。口唇部下に爪形文を加飾する12の例もある。25・27・29・61はくびれた頸部・胴上部の破片で、ここが口縁部と胴下部の文様帯を分ける文様分岐帯であることを示している。今回出土したこの時期の土器文様は、一部には隆起文もみられる（44）が、多様な幅の縦の沈線を刻んで縄文を施した施文区と、磨消し区を設けているタイプが多い。このことは、出土土器の多くが胴部以下の破片であるため、上部には変化に富んだ文様帯がみられたのかもしれない。

20・64は、遺構の頂でみた埋甕状遺構の深鉢形土器で、C-7区から出土した。上部を欠き、胴部以下

が割れた状態だった。底部直径は7.3cm、接合できた胴上部までの高さは17.5cm、胴上部付近の直径は20.7cmである。厚さは胴部4mm、胴下部から底部にかけて4~7mmである。文様は刷毛状工具で上下に器面を整形したのち、胴部を中心に先端が丸い棒状の工具で単線ないし2重線の縦長楕円文を施文し、楕円内に細かい繩文を施文している。胴部から底部の胎土は粉末の長石が多く、少量の黒色砂が混じる。17・19の胴上部破片の胎土はいっそう緻密で、器内面に赤みを帯びた粘土を塗って横位に整形し、器壁を薄くついている。胴のやや上部から上の外面、および底部の外面には煤が付着している。胴の下部には煤がない。精選されよく練られて締まった胎土、ていねいな仕上げ、内部の赤みを帯びた粘土などから、この埋甕土器は釣手深鉢土器としてつくられ、のちに埋甕に転用されたものではないだろうか。文様構成から、縄文時代中期後葉でも終末期の土器である。

土製品(図23、写真49) 断片だが釣手土器の一部が、1・2の2例出土した。3は、土偶の一部ではないだろうか。4・5は、土器破片を利用した土製円板である。

石器(図24・25、写真50・51) 5・6は黒曜石製石鎌で、5は透明度の高い石材で薄く仕上げたもの、6は三角鎌である。7・8は黒曜石剝片を利用し、先端を加工した石器である。

1・2・3は小型磨製石器だが、3固体とも刃部が折れており、全体像は不明である。

9は礫石錐で、半分に割れている。礫石錐は表採で2点出土した。

打製石斧は、10・16・17・21・24の黄色砂岩製でやや軟質のもの、22・23の白色砂岩製でやや硬質のもの、13・14・15・20のガラス質を多く含む石でつくられたものの3種類がある。11は軟質砂岩製の大型石匙である。

4は微細な平行線が多方向に残る砾石で、硬い物体を研磨した磨石だろう。

25・26は敲き石と思われ、25は、先端が尖り反対側が太く丸い形態で石質は重い。26は砂岩製で両端ともに丸い。

(2) 弥生時代の遺物

弥生土器(図23・写真56) 弥生時代の土器と断定できるものは1点の破片(6)のみで、波状横目文を施す後期中島式土器である。

(3) 古代の遺物(図23・写真30・31・56) *この項のみ写真番号で遺物を示し、図番号はカッコ内に示す。

灰釉陶器 写真30-15(図なし)は壺の胴部、写真31-17(図15)は長頸瓶の口頸部破片で、どちらも猿投窓初期(黒笠期)、9世紀のものである。ロクロ整形は細かくていねいで硬く焼成され、灰釉は光沢がある。

須恵器 写真39-11(図17)は、高台のある小形容器の底部破片である。写真34-22(図なし)は、厚さ7mm、ロクロ目が全体にみえ、胎の調子から陶器に近いつくりである。9世紀ごろのものではないだろうか。

土師器 写真56-1(図14)・写真56-4(図13)は高台付甕の底部から脚部破片で、前者は底部の内部が黒色に塗られ、外面には刷毛整形が残る。写真56-8は内黒土器壺の胴部破片、写真56-9は壺形土器の頸部破片、写真56-7は強く外反する口縁部破片である。7と9は5~6世紀、1・4・8は9世紀ごろの土師器だろう。

その他の土器 写真34-15(図16)は明るい赤褐色の土師質土器だが、内面に緑色釉が施されている。底部径が3cmの壺形容器ではないだろうか。写真42-9(図なし)は厚さ2~3mm、口径15cm前後になる口縁部である。白く焼成された陶器で詳細は不明だが、古代のものと思われる。

3 ま と め

縄文時代 今回の調査における縄文時代の遺物には、埋甕のような状態で胴部以下が検出された深鉢形土器と、500点に及ぶ土器の小破片、および石器27点があった。時代を追ってみていくと、まず縄文時代早期の押型文土器の出土は、前年隣接地で出土した草創期の石器に続く時代の遺物として注目できる。また、中期初頭の土器は隣接地でも出たが、今回も出土した。数では圧倒的に多いのが中期後葉でも末期に位置付けられる土器で、縄文時代の早い時期からの人の営みが、このころ一つのピークを迎えたとみられる。後期とはっきりわかる遺物は出土しなかった。

つぎに、特徴的な遺構・遺物について述べる。

今回深鉢形土器を出土した埋甕状遺構は、あまり出土例のないものと思われる。埋甕は住居内出入口付近から発見される例が多いが、今回の遺構は住居跡内のものとは考えにくい。検出地点は調査地の北西区域で、ここは調査期間中も雨が降ると軟弱になるような地盤だった。この西の一带は古くから湿地帯で、検出地点付近は土層を観察した際にも沼地に関係した水溜りや水の流入が考えられた場所である。こうしたことと考え合わせると、この深鉢形土器は降雨時には浸水が予想されるような水辺にあった可能性が高く、水を利用する何らかの遺構ではないだろうか。具体的な用途は不明だが、考えるヒントとしては、栗林遺跡（長野県中野市）や赤山陣屋跡遺跡（埼玉県川口市）で木組みの水槽や櫛物などが発見され、ドングリ類を水にさらしてあく抜きするためのものと考えられていることがあるだろう。両遺跡で出土した場所は小さな沢に続く湿地帯で、当遺跡の出土地点と類似する。土器が石の上に据えてあったことについては、安定させるためあるいは沈下を防ぐための工夫かとも思われるが、石の埋められている角度が縱向きに近い（垂直から約25度東に倒れる）ことは十分に説明できない。土器には外面に煤が付着しているところから、火を受けるような用途に使われたものが、のちに水辺で使う道具に転用されたと考えられる。出土はしていないが、木などを材料にした櫛・杭などの存在を想像したくなる遺構である。

今回の調査でもうひとつ注目しておきたいのは、釣手深鉢土器の釣手部分が出土したことである。釣手土器には、大別して釣手浅鉢土器と釣手深鉢土器の2種があり、釣手浅鉢土器は諏訪・松本・伊那の各地

表3 飯島町内出土の釣手土器

遺 跡 名	遺 構	出土した釣手土器(数)	共 伴 遺 物	備 考
山 溝	土坑群	深鉢の釣手部分(多数)	土偶・硬玉大珠・土製円板	
	5号住居址	深鉢の釣手部分破片	土製円板・耳栓	
岩 間 上 山		ほぼ完形の深鉢(1)		鳥居龍藏調査
高 尾 第 一	41号住居址	浅鉢(1)		
石 曾 根 堂 前				
町 谷	柱穴付近	深鉢の釣手部分破片(多数)	土製円板・異形土製品・蜂の巣石	
十 王 堂 坂 の 上	BP66土坑	ほぼ完形の深鉢(1)		
前 田		深鉢の釣手部分		
清 水		深鉢の釣手部分		
尾 越	4号住居址(1)		有孔鉄付土器(破片)・器台	
		深鉢の釣手部分破片(多数)		

表4 近隣市町村出土の釣手深鉢土器

市町村	遺跡名	遺構	出土部分
中川村	上の原遺跡	3号住居址	釣手部分
		5号住居址	釣手部分
辻沢南遺跡		40号住居址	釣手付深鉢土器一部
		土坑337	深鉢部分
駒ヶ根市	原垣外遺跡	土坑77	釣手付深鉢土器一部
		土坑171	釣手付深鉢土器一部
的場門前遺跡		土坑19	釣手深鉢土器全形
		21号住居址	釣手部分2点
宮田村	中越遺跡	遺構外(廻収された状態)	釣手部分と深鉢全形2点

域や山梨県などに出土例が多く分布も広いが、釣手深鉢土器は松本・伊那に出土例があるものの数は浅鉢ほど多くない。しかし、飯島町の場合、表3のとおり釣手浅鉢土器の出土例は2遺跡の2点だが、深鉢は当遺跡を含めると8遺跡から多数が出土している。また、飯島町の南隣の中川村では上の原遺跡で2例、北隣の駒ヶ根市では辻沢南遺跡で2例、原垣外遺跡で2例、的場門前遺跡では完形品に近い1例と釣手部分の2例、宮田村の中越遺跡でも2例が出土している(表4)。ように、この地域に密度が濃いことが指摘できる。当遺跡の周囲を見ると、北隣に位置する清水遺跡や、さらにその北隣の前田遺跡からも釣手部分が出土しており、この段丘面の縄文中期後葉の共通点ともいえそうである。飯島町域で出土した釣手深鉢土器は、共伴遺物からみて、生活用具というより祭祀など精神生活上の容器と考えられることから、この地域に独自の精神生活、風習、祭祀の方法があったのか、興味がもたれるところである。外面に煤が付着したものもあり、煮沸に使用されるものもあったとみられる。

前述した埋甕状遺構から出土した深鉢形土器について、元の形は釣手深鉢土器だった可能性を考えている。硬く焼成され製作もていねいであること、また、釣手深鉢土器の釣手部分が出土したことがそう考えられる理由である。外面に煤がついていることから元は煮炊きに使われた容器で、その後水辺の生活用具に転用されたと考えたい。

弥生時代 弥生時代については、後期の土器1点が出土した。

古代 古代の遺物は、いずれも小破片で、灰釉陶器2点、須恵器2点、土師器5点、出土例の少ない小破片2点の合計11点が出土した。中でも黒釜期の灰釉陶器の出土は伊那地方では少なく注目される。その後大量生産された折戸期の灰釉陶器でも、墓址ではない生活址から出土する製品は碗・皿類が主流で、壺・長頸瓶は少ない。2点ではあるが今回出土した黒釜期の壺・長頸瓶は、9世紀、ここにいた人の地位の高さを示す遺物とみなされる。

第4章 中世

1 遺構

(1) 掘立柱建物1(図8、写真8・9)

概要 遺構はA-0・A-1・B-0・B-1区にかけて存在し、地形的には河岸段丘の突端に位置する。竪穴をともなう遺物跡である。掘立柱建物2の北東側に接する。柱穴は竪穴内とその周辺に50基ほどある。建物の主軸方向(長い軸=桁方向)は、西から約35°北へふたばは北西-南東方向をさす。竪穴内では、掘り下げ時に上層から焼土や炭の広がり、焼けたものを含む大小の礫、柱穴跡を検出した。さらにその下層からは、大きなロームブロックにより構成される硬化面やそれを振り込む柱穴跡、一番下の地山面からは土坑や柱穴跡を検出した。したがって、この遺構は2時期もしくは3時期にわたって使用されたと考えられる。

柱穴 建物は3間×3間の純柱建物で、一番下の生活面で桁行6.5m、梁行3.8mを測る。柱穴は竪穴を取り囲んでおり、竪穴住居跡といつていい。柱穴間隔はほぼ1.6~2.0mだが、竪穴の南北両壁の外側を構成する柱穴列と、それぞれの内側の柱穴列との間隔は1.2mである。竪穴内のコーナー部近くには、4つの柱穴がある。それぞれ平面形が隅丸方形か楕円形であり、規模は56~40cm角を測る。床面から38cmの深さがあり、礫層まで掘り込んでいた。竪穴外の柱穴は、平面が方形を呈するものが多い。深さは55~23cmを測る。また柱穴195や203のように、上層に32~16cm角の石を設置した柱穴もある。遺物は、柱穴180から縄文土器片が出土している。

その上層の大きなロームブロックにより構成される硬化面からもいくつかの竪穴内柱穴と竪穴を取り囲む柱穴を検出した。掘立柱建物跡に復元はできないが、柱穴間隔はほぼ1.3mである。柱穴の平面形は方形で、一辺が20cm前後である。深さは19~48cmを測る。遺物は出土していない。

竪穴 竪穴は、平面形が東西4.56m、南北3.44mの隅丸長方形である。竪穴内には、先述したとおり、①焼土や炭の広がり、焼けたものを含む大小の礫、柱穴跡を検出した上層、②柱穴跡を検出した大きなロームブロックにより構成される硬化面、③土坑や柱穴跡を検出した地山面と、3つの生活面が確認できる。遺構の掘り込み確認面から一番下の地山面までの深さは最大56cmを測る。

竪穴の壁は、南壁と西壁については垂直に立ち上がる。北壁はやや内湾しながら立ち上がり、東側はゆるい2段の階段状に立ち上がる。地山面から一段上がった平坦面は、大きなロームブロックにより構成される硬化面と同じレベルのため、ある時期に竪穴の床面として使用していたと考えられる。

遺物は、ほとんど上記①の面あるいはそれより上層から出土した。内容は、縄文土器片7点、黒曜石製の剥片石器、古瀬戸灰釉平碗(15世紀中~後)5点、古瀬戸壺鉢(15世紀後半)、古瀬戸天目茶碗(14世紀後半~15世紀)、常滑産の甕(12世紀?)、中津川産の甕(13世紀後半)、鉄滓である。土器・陶器はすべて小片である。また、地山面上からは縄文土器片が出土している。

竪穴の北コーナー部に付設して、径80~72cmで平面円形の土坑を検出した。土坑は竪穴の底面より深く、底部は平坦である。南側半分は竪穴底面と変わらない暗黄灰褐色土で周りを固めていたが、中側はやわらかかった。したがって、円形の土坑を掘った後、竪穴のコーナー部に床として土を固めたことが考えられる。また、竪穴中央部にも82×70cmで平面不整楕円形の土坑を検出している。断面形は浅い皿状である。どちらも遺物は出土していない。

(2) 掘立柱建物 2 (図9・10、写真10・11)

概要 遺構は、B-1・B-2・C-1・C-2区にかけて位置する。浅くくぼんだ遺構を取り囲んでいる大きな建物跡である。掘立柱建物1の南西側に近接する。柱穴は浅くくぼんだ遺構内とその周辺に60基ほどある。建物の主軸方向は、西から約37°北へふたつには北西-南東方向をさす。南側と東側が調査範囲外のため調査していないが、建物は5間以上×3間以上の、一部に礎石が使用された建物である。桁行9.3m以上、梁行5.8m以上の規模である。

柱穴 浅くくぼんだ遺構外の柱穴は、ある程度の深さをもってガッチャリ通っており、北辺では礎石が使用されていて柱穴間隔はほぼ1.8~2.1mである。浅くくぼんだ遺構内の柱穴は、確認できるもの通っていないところもあり、柱穴間隔もまちまちである。柱穴の平面は1辺48~24cmの方形あるいは隅丸方形が多い。深さは、浅くくぼんだ遺構外の柱穴で35~70cmを測り、浅くくぼんだ遺構内の柱穴で20~34cmを測る。

浅くくぼんだ遺構 浅くくぼんだ遺構は、掘立柱建物2の中にある。遺構内には土坑15・17などが重複するが、新旧関係は不明である。東西7.32m、南北5.56mを測り、平面が不整楕円形である。深さは最大12cmである。

遺構確認面において 32~4cm角の石が確認できた。石は配置がバラバラで据えられていないため、礎石とは考えられない。中には焼けた石も少々ある。

遺物 遺物は、建物柱穴226から鉄津、230から中津川産の片口鉢(13世紀後半)、236から古瀬戸灰釉平碗と古瀬戸灰釉縁白小皿(15世紀中~後半)、248・251・320から繩文土器片、273・282から古瀬戸灰釉平碗(15世紀後半)、295・317・326から内耳鍋、323から繩文土器片、339から木片が出土している。浅くくぼんだ遺構からは繩文土器片7点、チャート製の磨石?、古瀬戸灰釉直線大皿(15世紀半ば)、尾張産の山茶碗(12世紀後半)、中津川産の甕3点(13世紀後半)、常滑産の甕2点(12世紀後半)、内耳鍋15点、鉄釘が出土している。浅くくぼんだ遺構と重複する土坑17から繩文土器、古瀬戸灰釉平碗(15世紀後半)、内耳鍋が出土している。

(3) 掘立柱建物3 (図11)

A-4・A-5・B-4・B-5区にかけて検出した。垣状遺構の北西側、掘立柱建物4の南東側に位置する。建物は20基ほどの柱穴で構成される。主軸方向は、北から約38°東へふたつには北東-南西方向をさす。北東側が調査範囲外のため調査していないが、建物は2間以上×2間以上の総柱建物で、桁行5.7m以上、梁行5mを測る。柱穴間隔は、北東-南西方向で2.1m、北西-南東方向で2.4~2.5mである。柱穴の平面形は40~20cm角の方形あるいは隅丸方形が多いが、円形も多少ある。深さは21~45cmを測る。遺物は、柱穴1から木片、柱穴17・26から繩文土器片が出土している。

(4) 掘立柱建物4 (図12)

A-6・A-7・B-6・B-7区にかけて検出した。掘立柱建物3の北西側に位置し、風倒木痕1を切る。風倒木痕3・4に重複して柱穴があると考えられるが、風倒木痕に切られる。建物は24基ほどの柱穴で構成される。主軸方向は、北から約48°東へふたつには北東-南西方向をさす。北東側が調査範囲外のため調査していないが、建物は3間以上×3間の総柱建物で、桁行6.8m以上、梁行6.3mを測る。柱穴間隔は、建物の一一番外側がやや短く1.5~1.8m、建物の中央部が2.3~2.9mである。柱穴の平面形は40~16cm角の隅丸方形が多いが、円形もある。深さは20~58cmを測る。遺物は、柱穴478から繩文土器片が出土している。

(5) 土 坑

土坑は23基検出した。中でもA-0・B-0区・A-1区で検出された土坑1~9は、土坑内が焼けている場合があったり、周辺から六道錢と考えられる錢貨が出土しているため、墓坑である可能性がある。とくに土坑6・7・8は、県単農道調査を実施した際に若森社遺跡調査地（今回の調査地に隣接する地域）や1つ上の段丘面に位置する南羽場遺跡から検出された円形土坑と規模や土層堆積が類似している。円形土坑の性格は不明だが、前回の調査でも墓域の可能性がある地域から検出された。しかし土坑内から遺物の出土はなく、墓坑を裏付ける痕跡はなかった。

土坑1（図13） A-0区北側に位置する。土坑底部南側には柱穴432が重複するが、新旧関係は不明である。平面形は72×54cmの隅丸長方形である。土坑の深さは最大7cmで、断面形は浅い皿状である。遺物は、下層から黒曜石剣片が出土している。

土坑2（図14） A-0区中～東側に位置し、土坑3や土坑4に近接する。土坑東側は調査範囲外のため調査していないが、平面形は径約120cmの不整円形を呈すると考えられる。土坑底部は凸凹があるため、3つほどの土坑が重複している可能性があるが、新旧関係は不明である。土坑の深い部分は砾層まで掘り込んでいる。土坑の深さは最大23cmで、断面形は不整形である。遺物は出土していない。

土坑3（図14、写真12） A-0区中央部に位置する。土坑2や土坑4に近接し、いくつかの柱穴と重複している。平面形は径124×124cmの不整形である。土坑の深さは最大12cmで、断面形は浅い皿状である。底部には東西80cm、南北24cmの焼土塊が広がっている。厚さは1~2cmで硬く焼け紋まっている。土坑北側には掘り込み面に東西36cm、南北24cm、厚さ1~2cmの焼土塊がある。焼土塊は硬く紋まっていた。遺物は、網文土器細片と被熱した黒灰色の石片が出土している。

土坑4（図14、写真12・13） A-0区中央部に位置する。土坑5を切り、土坑2や土坑3に近接する。土坑東側は調査範囲外のため調査していないが、平面形は一辺132cmほどの隅丸方形を呈すると考えられる。深さは最大12cmほどである。土坑4と土坑5の間には黄色土の盛り上がりの壁を築く。土坑中ほどには48~32cm角で厚さ16cmほどの扁平な石を立てた状態で設置する。石と土坑5との境までの間は焼けて明る褐色を呈す。遺物は、黒曜石剣片が出土している。

土坑5（図14、写真13） A-0区中央部に位置し、土坑4と柱穴に切られる。土坑東側は調査範囲外のため調査していないが、平面形は一辺104cmほどの隅丸方形を呈すると考えられる。深さは最大12cmである。土坑4との境周辺が暗赤褐色に焼けて、土坑4の壁状の盛り上がりの下にもぐりこむ。遺物は、古瀬戸後IV期の天目茶碗（15世紀中～後半）と、製品ではないかもしれないが、石片が出土している。

土坑6（図14、写真14） 県単農道調査による報告書「若森社遺跡・南羽場遺跡」でいう円形土坑である。A-0~B-0区に位置し、柱穴430に切られる。平面形は径約76cmの円形である。深さは最大22cmで、砾層まで掘り込んでいる。底部は平坦であり、断面形は長方形である。土坑内はしまりのない黒褐色土が堆積し、0.5~3cm大のロームブロックやローム粒を多く含む。また、炭もごくわずか含む。土坑内からの遺物の出土はないが、60cmほど南の遺構確認面直上から5枚銷着した錢貨が出土している。

土坑7（図14） 土坑6と同様、円形土坑である。B-0区西側に位置する。平面形は約76×68cmの円形である。深さは最大31cmで、砾層まで掘り込んでいる。底部は平坦で、断面形は長方形である。土坑内はしまりのない黒褐色土が堆積し、0.5~3cm大のロームブロックやローム粒を多く含むなど土坑6と同様である。土坑北側の上層には30×19cmで厚さ5cmの焼土塊がある。遺物は出土していない。

土坑8（図14、写真15） 土坑6・7と同様、円形土坑である。A-1区東端に位置し、土坑9に切られる。平面形は約68×56cmの梢円形である。深さは最大43cmである。底部は平坦で、断面形は長方形である。土坑内は黒褐色土が堆積し、1~5cm大のロームブロックを多く含む。遺物は出土していない。

土坑9（図14、写真15・16） A-1区東端に位置し、土坑8、柱穴172・173・174を切る。平面形は118×

94cmの隅丸長方形である。土坑上層には、径20~7cmの河原石を土坑いっぱいに配石する。石はほぼ同じ高さに配されており、被熱を受けた石が3分の1ほどある。また、配石北東側に東西27cm、南北10cm、厚さ6cmの焼土塊がある。配石下は炭や焼土粒を含む土が浅く堆積し、その下層は焼け絞まった感じはないが、焼面が広がっている。その下層から土坑や柱穴が検出できた。土坑の深さは最大13cmで、断面形は浅い皿状である。遺物は出土していない。

土坑10(図14) A-1区西端に位置する。東側で細い溝状の造構が切っていると考えられるが、造構下部しか残存していないため、全体像は不明である。平面形は60×56cmの不整円形である。深さは、溝状の造構のところで10cm、浅いところで5cmである。遺物は出土していない。

土坑11(図15、写真17) B-1区北側に位置し、土坑14に切られる。平面形は76×72cmの不整円形である。深さは最大7cmで、断面形は浅い皿状である。遺物は出土していない。

土坑12(図15、写真18) A-2区西側に位置し、柱穴140・146に切られる。また、土坑13に近接する。平面形は160×136cmの不整円形である。深さは最大14cmで、断面形は浅い皿状である。遺物は出土していない。

土坑13(図15、写真18) A-2区西側に位置し、土坑12に近接する。平面形は64×60cmの不整円形である。深さは最大9cmで、断面形は浅い皿状である。遺物は、青銅製の飾り金具が出土している。

土坑14(図15、写真17) B-2区東側に位置し、土坑11を切り、くぼみ状造構、土坑15に近接する。平面形は244×100cmの長方形である。深さは最大18cmで、断面形は浅い皿状である。遺物は、縄文土器片が出土している。

土坑15(図15、写真17) B-2区東側に位置し、くぼみ状造構に切られると考えられる。また、土坑14に近接する。平面形は東西220cm、南北132cmの不整形である。深さは最大33cmで、断面は不整形である。土坑東側では、84cm×36cmの範囲で地山の土が赤っぽく酸化している。遺物は出土していない。

土坑16(図15) B-2区西側に位置する。平面形は120×80cmの不整円形である。深さは最大19cmで、断面形は浅い皿状である。土坑覆土である黒褐色土が、造構確認面よりやや盛り上がっていた。遺物は出土していない。

土坑17(図15、写真19) C-2区北側に位置し、柱穴346・348などに切られる。また、くぼみ状造構に切られると考えられる。平面形は東西164cm、南北100cmの不整形である。深さは最大38cmで、断面は不整形である。土坑上層には、8~20cm角の角礫が多く散らばる。重複するくぼみ状造構にも配石が見られるため、くぼみ状造構に関連する配石と考えられる。土坑下層は他層との境界がはっきりせず、土坑南側にもぐりこむため、風倒木痕である可能性がある。遺物は、縄文土器片、古瀬戸灰釉平碗(15世紀後半)、内耳鍋が出土している。土坑を切る柱穴346から焼けて砕けた石が出土している。

土坑18(図15、写真18) A-2区北端に位置する。いくつかの土坑やピットが重複すると考えられるが、残存部分が少ないため、新旧関係などは不明である。土坑北側は調査範囲外のため調査していないが、平面形は南北124cm、東西100cm以上の不整橢円形を呈すると考えられる。深さは最大12cmで、断面は不整形である。遺物は、土坑西側から縄文土器細片が出土している。

土坑19(図16、写真20) A-3区南端で、土坑20の北側に位置する。柱穴114・115・116に切られる。柱穴の深い部分や土坑底部の一部は砾層まで掘り込んでいる。平面形は96×92cmの方形である。深さは最大26cmで、断面形は不整形である。土坑中央部には、38~24cm角の石が立った状態で頭を出している。遺物は、土坑南端から縄文土器細片、小型の鉄滓、焼けた礫が出土している。

土坑20(図16、写真20) B-3区東端で、土坑19の南側、土坑21の北側に位置する。平面形は72×72cmの不整形である。深さは最大7cmで、断面形は浅い皿状である。土坑底部の一部は砾層まで掘り込んでいる。遺物は出土していない。

土坑21(図16、写真20) B-3区南東側で、土坑20の南側に位置する。柱穴379、径72~60cmの小さな土坑に切られる。平面形は140×120cmの隅九方形である。深さは最大9cmで、断面形は浅い皿状である。遺物は、縄文土器片2点、竈泉窯系青磁碗(13世紀後半~14世紀初頭)、中津川産の片口鉢(13世紀後半)、灰釉綠釉小皿(15世紀中ごろ)が出土している。また、重複する小さな土坑は、礎層まで掘り込んでいた。

土坑22(図16) C-3区中央部で、土坑17の東側に位置する。境界がはっきりせず、モヤモヤした造構である。西側は、垣状造構がほぼ北東~南西方向にのびる。北側に土坑が存在するが、非常に浅い。また、柱穴374に切られる。平面形は112×68cmの隅丸長方形である。深さは最大11cmで、断面形は皿状である。遺物は出土していない。

土坑23(図16、写真21) B-6区西側に位置する。近接する風倒木痕4・5を切ると考えられる。また、柱穴に切られる。平面形は156×136cmの隅丸方形である。深さは最大13cmで、断面形は浅い皿状である。遺物は出土していない。

(6) 垣状造構(図19、写真20・23)

造構は、A-3、B-3、C-3の各区にまたがる。ほぼまっすぐにのびており、溝のように浅くくぼんだ造構である。方向は、北から約45°東へふたたび北東~南西方向をさす。造構はいくつかの柱穴や、明治時代の瓦捨て造構に切られる。垣状造構の幅は188~44cmを測る。深さは19~7cmを測る。北東側を中心にして礎層まで掘り込んでいて、拳代ほどの石が多く頭を出している。だからといって北東側が特別深いわけではなく、太古の天竜川の作用により礎層が盛り上がりながら伸びていて、すぐに礎層に達するのである。断面は浅い皿状だが、造構底部は凸凹が多い。とくに南西端は、拳大ほどの浅い小穴が密集して検出された。浅い溝状の造構の中に小穴群があるため垣状造構としたが、その特徴がみられるのはC-3区の一部である。それより北東側は礎がゴロゴロしていて、同じ機能を果たしていたかどうかを考えにくいくらい。

遺物は、縄文土器片8点、白磁の壺か瓶(14世紀以前)、擂鉢3点(15世紀後半)、古瀬戸灰釉盤類(15世紀中~後半)、東濃型山茶碗(13世紀前半)、中津川産の片口鉢(13世紀後半)、中津川産の甕2点(13世紀後半)、鉄釘と用途不明の鉄製品が1点ずつ出土している。

(7) 風倒木痕

9基検出した。風などの要因によって倒れた木の跡である。黒褐色土や暗茶褐色土が地山土の黄灰褐色土や黄白色土と逆転していく、地山土のまわりに黒褐色土や暗茶褐色土が確認できる。柱穴やピットに切られ、内部から微小な縄文土器や陶器が出土しているものが多いため、縄文時代以降のものが多いと考えられる。

風倒木痕1(図17、写真22) A-6区に位置し、風倒木痕2と近接する。掘立柱建物跡4を構成する柱穴51・70・479などに切られる。北東側が調査範囲外のため調査していないが、平面形は344cm以上×324cmの楕円形である。深さは最大59cmほどである。遺物は、縄文土器片が出土している。

風倒木痕2(図17) A-5区に位置し、風倒木痕1と近接する。平面形は212×160cmの楕円形である。深さは最大70cmほどである。遺物は、上層から縄文土器片が出土している。

風倒木痕3(図17、写真26) 主にB-5からB-6区にかけて存在し、風倒木痕4と近接する。掘立柱建物跡4に切られると考えられる。平面形は228×204cmの楕円形である。深さは最大61cmを測り、断面形は楕形である。遺物は、上層から中津川産の片口鉢(13世紀後半)、鉄釘と用途不明の鉄製品が1点ずつが出土している。中世以降の風倒木痕と考えられる。

風倒木痕4(図17) B-5区に位置し、風倒木痕3と近接する。柱穴45に切られる。平面形は120×115cmの楕円形である。

cmの不整円形である。深さは最大35cmである。遺物は、縄文土器片と鉄棒が出土している。中世以降の風倒木痕と考えられる。

風倒木痕 5 (図16、写真21) B-6区に位置し、風倒木痕 6 と近接する。据立柱建物跡 4 を構成する柱穴81・87などに切られ、土坑23に切られると考えられる。平面形は332×144cmほどの長い楕円形である。深さは最大37cmほどである。遺物は出土していない。

風倒木痕 6 (図16、写真21) B-6・B-7・C-6・C-7区にかけて存在し、風倒木痕 5 と近接する。柱穴60・82などに切られ、土坑23に切られると考えられる。平面形は336×244cmほどの楕円形である。底部まで確認してないため、深さは不明である。遺物は出土していない。

風倒木痕 7 (図18) C-7からC-8区にかけて存在し、風倒木痕 8 と近接する。中央部で、黒褐色土と地山土である黄灰褐色土の境に、この風倒木痕を切って縄文時代中期後葉の深鉢形土器が設置される。平面形は346×200cmほどの楕円形である。深さは最大50cmほどである。

風倒木痕 8 (図18) C-7区に位置し、風倒木痕 7 と近接する。平面形は230×196cmほどの不整円形である。深さは最大39cmほどである。遺物は黒曜石製の剥片石器が出土している。

風倒木痕 9 (図18、写真27) C-4区に位置する。太古の天竜川の作用で地表まで石が盛り上がった部分を切り、柱穴47・48などに切られる。平面形は380×268cmほどの楕円形である。深さは最大40cmほどである。遺物は、上層から縄文土器が4点出土している。

その他 土坑17は、土坑下層において覆土が南側にもぐりこみ、他の層との境界がはっきりしないため、風倒木痕を切って柱穴や土坑を設けた可能性がある。

2 遺 物

中世の遺物は、陶磁器や金属製品を中心に約526点が出土した。陶磁器は主に12世紀～15世紀までの時代幅がある。陶器の説明については、基本的に器形別に分類したが、説明の便宜をはかけて大きくまとめた箇所もある。

(1) 貿易陶磁器 (図26、写真29・33・37・38・40・41)

破片で84点が出土した。そのうち青磁製品が39点、白磁製品が43点である。ほかに青白磁水注、染付皿がある。年代や型式の分類は、大宰府の貿易陶磁器編年を参考に記述した。

同安窯系青磁 3 は同安窯系の青磁皿である。口径は約8.6cmを測り、色調は淡灰褐色を呈する。C-5区から出土した。4～5と9は同安窯系の青磁碗である。4はB-8区から出土した。底径約4.8cmを測り、色調は淡緑黄褐色を呈する。底部は無釉で、高台内に粘土をかき取った跡がある。外面、内面ともに備描文を施す。5はB-5区から出土した。底径約9.3cmを測り、色調は淡緑黄褐色を呈する。底部は無釉で、内面に備描文を施す。9はC-7区から出土した。底径約6.7cmを測り、色調は淡緑黄褐色を呈する。底部は無釉で、内面に備描文を施す。3～5と9は12世紀後半から13世紀前半の製品である。同安窯系の青磁皿や碗はほかに9点出土している。

竜泉窯系青磁 1、2、7、8、10、11は竜泉窯系の青磁碗である。1はC-6区から出土した。口径は約12.9cmを測り、色調は緑黄褐色を呈する。外面には織運弁文を施す。2はB-4区から出土した。口径は約13.6cmを測り、色調は淡緑黄褐色を呈する。外面には運弁文を施す。7はB-4区から出土した。底径約4.8cmを測り、色調は緑褐色を呈する。底部は無釉である。8はC-7区から出土した。底径約6.4cmを測り、色調は淡青灰褐色を呈する。外面に片彫りで織運弁文を施す。6は青磁碗である。備描と片彫りで割花文を施す。底部外面には線描きの沈線が一周する。1、2、7、8はB-1群に分類され、13世紀

後半から14世紀初頭の製品である。10はC-1区から出土した。口径は約14.8cmを測り、色調は緑黄褐色を呈する。外面口縁部には雷文帯を施す。11はA-7区から出土した。口径は約15.5cmを測り、色調は緑黄褐色を呈する。外面には線描きの細かい運舟文を施す。10、11は15世紀前半の製品である。

白磁 12-14、16-20は白磁碗である。形態的には4類に分類される。12世紀後半から13世紀前半の製品である。12はC-6区から出土した。口径約14.0cmを測る。13はB-4から出土した。口径約19.4cmを測る。14はB-7区から出土した。口径約15.9cmを測る。16はB-5区から出土した。底径約6.0cmを測る。高台部は無釉である。17はC-6区から出土した。口径約15.6cmを測る。18はC-7区から出土した。口径約16.7cmを測る。19はC-5区から出土した。底径約5.8cmを測る。無釉の底部外面には工具による整形痕や押圧痕が残る。20はC-3区から出土した。底径約4.8cmを測る。

15は白磁碗である。形態的には4類以外に含まれ、12世紀後半から13世紀前半の製品である。C-6区の礫溜まり中より出土した。口径約9.8cmを測る。

21、23、26は白磁製品だが、器形や年代は不明である。21は白磁皿と思われる。C-5区から出土した。口径約10.8cmを測る。23は白磁壺か瓶の類である。柱穴410上層から出土した。26は白磁碗と思われる。B-1区から出土した。底径約4.6cmを測る。23、26は14世紀以前の年代が考えられる。24、25は白磁口禿皿である。13世紀後半から14世紀初頭の製品である。24はC-6区から出土した。口径約15.2cmを測る。25はC-3区から出土した。底径約8.6cmを測る。

その他の貿易陶磁器 22は中国産の染付皿である。C-4区から出土した。底径約12.2cmを測る。胎土が粗いためか染付の文様も粗いが、見込みと高台上部に文様を施す。15世紀前半の製品である。

(2) 施釉陶器

ここでは瀬戸・美濃産の施釉陶器をまとめた。破片で85点が出土した。そのうち21点が大窯期の製品で、そのほかは古瀬戸製品である。古瀬戸製品の年代は、ほぼ古瀬戸後III~IV期、15世紀代にまとまる。

古瀬戸製品（図26・27、写真29~36・38・39・42・46） 27~29は古瀬戸後期の天目茶碗である。27はA-0区から出土した。口径約9.0cmを測る。後IV期古段階の製品である。28はC-2区から出土した。口径約14.1cmを測る。黒色の釉を全体に施し、口縁部にのみ茶褐色の釉がかかる。後IV期、15世紀中~後半の製品である。29は土坑5上層から出土した。口径約11.6cmを測る。黒色の釉を全体に施し、口縁部にのみ茶褐色の釉がかかる。後III期、15世紀前半の製品である。

30は灰釉小壺か小瓶である。B-2区から出土した。内面に緑褐色の灰釉を施し、外面には緑白褐色の灰釉を施す。古瀬戸後III~IV期の製品である。

31は鉄釉仏供具である。B-1区から出土した。底径4.8cmを測る。底部には糸切り痕が残る。釉の色調は茶褐色である。古瀬戸後IV期古段階の製品である。

32、33は灰釉盤類である。古瀬戸後IV期の製品である。32はC-4区から出土した。底径約5.4cmを測る。底部には糸切り痕が残り、見込部はナデ整形を施す。見込には灰釉が円形にたれる。33はA-1区から出土した。底径約10.0cmを測る。底部にはヘラ切り痕が残り、見込部はナデ整形、外面はケズリによる整形を施す。底部3ヶ所に高さ0.5cmほどの足がつく。

34は鉄釉持腰形香炉である。B-1区から出土した。口径約12.0cmを測る。上半部に黒褐色の釉を施し、口縁部にのみ茶褐色の釉がかかる。古瀬戸後IV期新段階の製品である。

35、36は灰釉卸皿である。35はC-1区から出土した。口径約11.0cmを測る。口縁部に緑色の釉がかかり、内側に卸目がある。古瀬戸後IV期と考えられる製品である。36はD-3区から出土した。底径約7.6cmを測る。底部には糸切り痕が残る。古瀬戸後期の製品である。

37~44は灰釉平碗である。37、38は古瀬戸後IV期古段階、39~44は新段階の製品である。37は掘立柱建

物1の豊穴内から出土した。口径約17.5cmを測る。淡灰緑褐色の釉が残存部分全体に施される。38は37と同様に据立柱建物1の豊穴内から出土した。口径約13.0cmを測る。内面は全面、外面は口縁部にのみ施釉する。39は据立柱建物1の豊穴内や周辺の遺構外から出土した破片を接合した資料である。口径約16.6cm、底径約4.8cm、器高6.0cmを測る。内面は全面に施釉するがはがれて薄くなっている。外面は口縁部にのみ施釉する。40は柱穴417から出土した。口径約14.8cmを測る。41はB-1区から出土した。口径約16.6cmを測る。42はC-2区の配石下から出土した。口径約14.0cmを測る。釉が厚く、貢入がある。43はC-1区から出土した。底径5.4cmを測る。高台は左回転系切りの後、削り出す。44は柱穴236やB-1区から出土した破片を接合した資料である。口径約16.8cmを測る。

45、46は鉄釉内耳鍋である。古瀬戸後III~IV期の製品である。45はC-2区から出土した。底径約12.6cmを測る。外面側面と底面にヘラ削りを施す。46はC-3区から出土した。

47、48は灰釉綠釉小皿である。古瀬戸後III~IV期の製品である。47はC-1区から出土した。底径約4.2cmを測る。底部には糸切り痕が残る。見込部には胎土目と鉄釉がわずかに付着する。底部の一部には灰釉が付着する。48はA-1区から出土した。底径約4.6cmを測る。底部に糸切り痕が残り、底部の外側には灰釉が付着する。

49~50は鉄釉綠釉小皿である。49はA-0区から出土した。口径約11.2cmを測る。口縁部に施されたものと同じ茶褐色の釉が見込部の一部にたれる。古瀬戸後IV期古段階の製品である。50は柱穴236から出土した。底径約4.2cmを測る。底部には右回転の糸切り痕がのこる。底部や底部近くの外面には鉄釉が付着する。古瀬戸後IV期の製品である。

51は灰釉壓折皿である。A-3区とB-7区礎上から出土した破片を接合した資料である。底径約4.5cmを測る。底部は無釉で高台は削り出す。見込部には綠褐色の釉を施し、貢入がある。古瀬戸後IV期新段階の製品である。

52は灰釉卸目付大皿である。B-3区から出土した。口径約31.8cmを測る。全面に淡緑黄褐色の釉が施されるが、外面は所々剝離する。古瀬戸後IV期古段階の製品である。

ほかにB-4区礎溜まり上やC-7区礎上から灰釉四耳壺（古瀬戸前~中期、13世紀前半~14世紀中ごろ）、C-6区から灰釉梅瓶と考えられる破片（古瀬戸中期、14世紀前半）、B-1区から鉄釉小壺か小瓶（古瀬戸後期）などが出土している。

大窯期の製品（図27、写真30・31・33・36~39・42） 57、62は灰釉端反皿か丸皿である。ともに大窯1期か2期、15世紀末~16世紀後半の製品である。57はA-6区礎上から出土した。底径約5.6cmを測る。淡緑褐色の釉が全体を多い、全面に貢入がある。62はB-5区から出土した。底径約9.4cmを測る。淡緑褐色の釉を全体に施す。

58、59は灰釉丸皿である。大窯3期、16世紀後半~末の製品である。58はB-7区礎上から出土した。口径約10.0cm、底径約6.4cm、器高2.0cmを測る。底部を除き、全面に緑褐色の釉を施す。59は58と同様、B-7区礎上から出土した。口径約10.2cm、底径約6.0cm、器高約1.9cmを測る。全面に緑褐色の釉を施す。

60は灰釉内壳皿である。B-5区から出土した。底径約5.0cmを測る。図示した部分はすべて無釉である。大窯3期後葉の製品である。

61は大型の灰釉端反皿と考えられる。遺構外出土遺物だが、出土地点は不明である。口径約22.8cmを測る。年代は、大窯期もしくは近世に下るものと思われる。

63は鉄釉殺皿と考えられる。C-6区から出土した。口径約16.4cmを測る。釉の色調は茶褐色である。外面には口縁と平行して黒色の釉着痕がある。大窯2期、16世紀前~後半の製品と考えられる。

64は灰釉ハサミ皿と考えられる。C-2区から出土した。底径約5.0cmを測る。図示した部分はすべて無釉である。底部には糸切り痕、見込部には回転によるナデ整形痕がある。大窯1期、15世紀末~16世紀前

半の製品と考えられる。

65～67は天目茶碗である。65はA-4区から出土した。口径約12.2cmを測る。黒色の釉を全体に施し、口縁部にのみ茶褐色の釉がかかる。大窯4期前葉、16世紀後半～末の製品である。66はA-6区から出土した。底径約4.0cmを測る。外面は銷釉が覆う。大窯1期の製品である。67は遺構外出土遺物だが、出土地点は不明である。底径約4.0cmを測る。外面は銷釉が覆い、内面は黒褐色でつやのない釉が霜降り状に施される。大窯2期の製品である。

近世の陶磁器 B-4区から志野鉄絵皿(第1小期、17世紀前半)、耕作土中から黄瀬戸鉢(出土地点不明、第1小期、17世紀後半)が出土している。ほかにも近世の陶磁器は多く出土している。

(3) 擬鉢(図27、写真29・33・35)

破片で13点が出土した。すべて古瀬戸後IV期(15世紀中～後半)から大窯1期(15世紀末～16世紀前半)の製品である。

53、54、56は古瀬戸後IV期新段階の製品である。53はC-5区から出土した。口径約26.5cmを測る。全体的に角の部分が非常に磨り減っている。54は掘立柱建物1の豊穴内から出土した。口径約36.1cmを測る。56はC-2区から出土した。底径約9.8cmを測る。底部には糸切り痕が残る。外面の底部近くには工具による押圧痕がある。55は大窯1期の製品である。遺構外出土遺物だが、出土地点は不明である。口径約28.8cmを測る。

(4) 頭・広口壺(図28、写真32・33・36・44～46)

破片で98点が出土した。そのうち49点が常滑産の頭または広口壺で、44点が中津川産の頭である。

常滑産 68～70は常滑産の頭である。12世紀第3四半期の製品である。68はB-6区から出土した。口径約19.8cmを測る。69はB-6区疊層中から出土した。細かい破片のため、口径は不明である。70はC-6区とB-7区から出土した破片が接合した資料である。

71は常滑産の広口壺である。B-1区とC-1区配石上層から出土した破片が接合した資料である。肩部上側には耳が付き、下側にはタタキ痕がある。12世紀後半の製品である。

中津川産 72、73は中津川産の頭である。13世紀後半の製品である。72は遺構外出土遺物だが、出土地点は不明である。底径約19.2cmを測る。内側には自然釉がかかる。外面の底部近くには、装飾と思われるヘラ状工具による連続刻み痕がある。73はB-7区疊上から出土した。底径約23.6cmを測る。

(5) 片口鉢・こね鉢(図29、写真29・32・33・36・43・46)

破片で50点が出土した。そのうち尾張産のこね鉢は12点を数え、すべて12世紀末の製品である。ほかは中津川産の片口鉢で、すべて13世紀後半の製品である。

尾張産 84～87は尾張産のこね鉢である。おおむね色調は灰褐色で、硬質である。84は耕作土から出土した。口径約25.4cmを測り、片口が付く。85は遺構外出土遺物だが、出土地点は不明である。口径約23.2cmを測る。86はC-4区とB-5区から出土した破片が接合した資料である。87はC-4区から出土した。底径約13.6cmを測る。

中津川産 88～98は中津川産の片口鉢である。尾張産のこね鉢に比べておおむね軟質で色調は白っぽい。88はC-7区から出土した。口径約35.1cmを測る。89はC-7区から出土した。口径約26.2cmを測る。90は遺構外出土遺物だが、出土地点は不明である。91はB-3区から出土した。口径約20.5cmを測る。92はA-5区耕作土から出土した。93はB-4区から出土した。口径約17.5cmを測る。94、95、97は遺構外出土遺物だが、出土地点は不明である。96はB-4区から出土した。98はB-3区から出土した。底径約13.5

cmを測る。

(6) 山茶碗・小皿 (図28、写真29・30・33・36・42・43・45)

破片で36点が出土した。小皿の出土は4点で、ほとんどが山茶碗である。

東濃型 74～79は東濃型の山茶碗である。13世紀初頭の製品である。74はB-7区罐上から出土した。口径約13.3cmを測る。色調は淡灰褐色を呈する。75はB-5区から出土した。口径約12.1cmを測る。色調は淡白黄褐色を呈する。76はA-7区から出土した。口径約12.9cmを測る。色調は白灰褐色を呈する。77はA-3区溝状構造から出土した。口径約14.9cmを測る。色調は淡灰褐色を呈する。78はB-4区から出土した。底径約5.2cmを測る。色調は淡灰褐色を呈する。内側は、見込部を除いて淡綠褐色の釉がかかる。79は柱穴445上層から出土した。底径約7.8cmを測る。色調は淡灰褐色を呈する。内側は見込部を除いて淡綠褐色の釉がまばらにかかる。

東濃型子持ち山茶碗 80は東濃型の子持ち山茶碗である。C-4区から出土した。底径約6.5cm、3.0cm(小)を測る。色調は、赤みが強い淡灰褐色を呈する。外面の底部近くには淡黄褐色の釉がかかる。12世紀中ごろの製品である。81は東濃型の小皿である。C-5区から出土した。底径約3.3cmを測る。底部には糸切り痕が残り、見込部はナテ整形を施す。底部中心部は、胎土中の礫が取れたためか、えぐれる。色調は淡灰褐色で、やや白っぽい。12世紀後半～13世紀前半の製品である。

尾張型 ほかに尾張型と考えられる山茶碗が1点出土している。12世紀後半の製品で、東濃型の製品と年代差はない(ただ、柱穴122からは15世紀中ごろの東濃型山茶碗が1点出土している)。

(7) その他の陶器 (図28、写真34・35)

破片で4点が出土した。

82は瓦器である。A-6区から出土した。色調は淡橙褐色を呈する。口縁外に大小の正方形を4重に重ねた文様を連続押印する。15世紀の製品である。83は産地不明の鉢である。C-6区から出土した3つの破片が接合した資料である。底径約10.8cmを測る。色調は灰褐色を呈する。同様の遺物は、耕作土からも何点か出土している。年代は不明である。

(8) 内耳鍋 (図28、写真53～55)

破片で65点が出土した。ほとんどが2～5cm角の小破片で図示できる遺物は少ない。

99はC-2区から出土した。底径約20.2cmを測る。色調は底部が赤褐色、内面と外面が暗黄褐色を呈する。年代は不明である。

(9) 金属製品・鉄滓 (図30、写真47・59～62)

金属製品が約50点、鉄滓が34点出土した。年代は不明だが、周辺から出土した陶磁器の年代から、中世の遺物が多いと考えられる。しかし、近世から近現代の遺物も含まれる可能性がある。

青銅製分銅 100は青銅製分銅である。B-1区から出土した。高さ4.6cm、最大幅2.7cm、重さ約96gを測る。八角形の塔形を呈し、頂上に直径約0.3cmの穴をうがつ。

鉄 鐵 102～104は鉄鐵である。102はB-3区から出土した。全長6.1cm、最大幅約1.3cmを測る。鐵身體と範被部境の断面は六角形を呈する。103はC-1区から出土した。全長6.1cm、最大幅約1.1cmを測る。鐵身體には鏽があると考えられる。104はB-7区から出土した。全長5.4cmを測る。鐵身體と範被部境の断面は六角形を呈すると考えられる。

火打金 105は火打金である。B-1区から出土した。全体を鎧が覆うが、長軸約6.7cm、短軸約3.2cm、

厚さ0.4cmを測る。

用途不明鉄製品 106～109、111、112、114～119は用途不明の鉄製品である。106はB-2区から出土した。一辺3～4cmの鉄片だが、やや湾曲している。107はB-5区から出土した。鉄釘とも考えられるが、出土したほかの鉄釘よりも大きいため、鉄釘ではないと判断した。108はA-1区遺構確認面直上から出土した。109はB-1区から出土した。径1.5～1.8cmの球形を呈する。鉄砲の弾とも考えられるが、詳しい用途は不明である。111はC-5区から出土した。全長3.9cmを測る。くぼみがある圓上部の断面は六角形を呈する。圓下部の断面も六角形を呈する可能性がある。112はC-1区から出土した。先端がとがりながら屈曲し、平らな鉄製品である。113はB-6区から出土した。全長約10.0cmを測る。屈曲しているが、鉄釘と考えられる。114～119は用途は不明の平らな鉄製品である。幅は幅が1.0～1.5cmで、厚さが0.3～0.6cmの範囲におさまる。114はC-3区から出土した。先端がとがる。115はC-1区から出土した。116はC-4区から出土した。117はA-6区から出土した。圓の横断面はやや湾曲し、圓の縦断面はゆるいS字状に湾曲する。湾曲してくぼんだ側に橢円形のくぼみがある。118はB-2区から出土した。119はC-1区から出土した。欠損しているが、先端は細くなりながら屈曲する。

クサビ 110は鉄製のクサビである。B-1区から出土したもの、近現代の遺物の可能性がある。

鉄釘 15点ほど出土している。最大幅は0.5～1.0cmを測るものが多い。

青銅製飾り金具 ほかに土坑11から青銅製の飾り金具が出土している。

(10) 銭貨 (図30、写真28・47)

101はB-0区の遺構確認面直上から出土した。5枚鏡着しており、一面は「至道元宝」(北宋錢)、もう一面は「祥符元宝」(北宋錢)である。六道錢の可能性があるが、錢貨出土地付近の土坑が墓坑であるという決定的な痕跡はない。

(11) 砕石 (図24、写真52)

4点ほど出土した。使い込まれて擦り減っている礫石が多い。26はB-5区から出土した。破損しているものの縦5.1cm以上、横3.0cm、厚さ最大0.9cmを測る。一番広い面の裏面にのみ擦痕がない。27はC-3区の柱穴385から出土した。破損しているものの縦9.6cm以上、横2.7cm、厚さ最大2.2cmを測る。ボロボロと崩れる素材の石で、荒礫と考えられる。28はA-0区の柱穴439から出土した。破損しているものの縦6.5cm以上、横2.6cm、厚さ最大2.1cmを測る。一番狭い面のみ使用していない。

ほかに出土したのは、破片と思われる小さな礫石である。

3 まとめ

今回の若森社遺跡の調査において、中世の遺構は、掘立柱建物4基(内、竪穴を伴う掘立柱建物は2基)、土坑が10基ほど、垣状遺構を検出した。中世の遺物は、陶磁器、土器、金属製品、鉄錆、石製品などが約526点出土している。そのほかに時代は不明であるが、土坑10基ほど、風倒木痕を10基ほど検出した。そのうち風倒木痕3と4は、くぼみの中から中世の遺物が出土していて、中世以降に倒れた木痕であると考えられる。縄文時代以前と考えられるのが風倒木痕7、縄文時代以降と考えられるのが風倒木痕1・2・8・9である。

中世の遺構について、竪穴を伴う掘立柱建物1は2～3時期の変遷があるが、遺物はほとんど竪穴上層から出土している。古瀬戸灰釉平碗の出土が多いことが特筆できる。掘立柱建物2は浅くくぼんだ遺構を伴い、東西9.3m以上、南北5.8m以上の大きな建物である。浅くくぼんだ遺構の外側の柱穴がガッチャリし

ているのに対し、浅くくぼんだ造構内の柱穴は、通っておらず柱穴間隔もまちまちである。また浅くくぼんだ造構の上層では多くの石を確認できた。その層や周辺柱穴からは遺物が45点出土している。遺物は甕、内耳鍋が多い。建物は内側が広くなっているため、倉庫的な性格を想定しているが、倉庫的な建物にはたして内耳鍋が多いのか、内耳鍋の用途を含めて今後の課題としたい。垣状造構は北東—南西方向にのびる。南西端は小穴が密集していて木の根と考えても良さうだが、北東側は礫層が盛り上がりでいてすべてが垣として機能していたかは考えにくい。上記した3基の造構の年代は、掘立柱建物2から12世紀後半の山茶碗が出土しているが、ほぼ13世紀代と15世紀代に分かれ。このうち13世紀代の遺物は甕や片口鉢であり、15世紀代の遺物は古瀬戸後期の陶器である。造構が2時期に分かれる可能性もあるが、掘立柱建物1の出土遺物のほとんどが同じ層から出土しているため、造構の変遷をあまり重視せずに考え、年代の新しいほうをとって15世紀代と考えられる。したがってこれら3基の造構は互いに関連していたことが想定でき、掘立柱建物1・2とそれを区画するような垣状造構を復原できる。河岸段丘突端部で、遺跡南東側のこの地域は、現在も東側に宅地があり、水はけも良く段丘下段を見下ろせることから、居住に適した場所である。

掘立柱建物3・4は垣状造構の北西側、礫が盛り上がった自然堤防の内側に並んでいる。遺物は出土していないが、グリッドの4のラインから北西にかけて12~13世紀の遺物が造構外から出土している。また建物は遺跡の調査範囲を越えてさらに北東へのびると考えられ、当遺跡の20mほど北東に位置する県単農道調査範囲で検出した中世建物との関連が重要になる。県単農道調査の中世建物は13~14世紀を中心とする造構で、年代的にも重なるからである。今回は2つの調査の十分な比較検討ができなかったため、今後の課題としたい。土坑では、土坑6・7・8にみられるような円形土坑に注目したい。当遺構は県単農道調査においても検出しているが、性格は以前不明のままである。しかし当遺跡内の円形土坑は掘立柱建物1の周辺にあり、土坑6のそばから六道鏡の可能性のある銭貨が出土していることは、重要な検出例をまたひとつ増やしたといえよう。

遺物は耕作土下や造構外から青磁、白磁製品、古瀬戸の製品、甕が多く出土している。造構内からは古瀬戸灰釉平甕、甕、内耳鍋の出土が多い。青磁、白磁製品、甕、片口鉢、山茶碗の年代が13世紀代なのに對し、古瀬戸の製品の年代が15世紀を中心とすることは、器の使われ方や流通関係の変化を表していると考えられる。また特筆しなければならないのは、金属製品の多様さである。ほとんどが造構外出土であるが、青銅製分銅、青銅製飾り金具、鐵鐵3種、火打金などがある。この中で商業に使う分銅と武器が出土地ことは、当時の領主の性格を象徴しているようで興味深い。鐵滓も出土しており、軽いものから鐵を含んで重いものまで種類も異なっているため、鐵製品の製作を行っていたことが考えられるが、工房や炉跡は確認できなかった。

飯島氏の館の存在を指摘されてきた当遺跡を調査したが、前回の県単農道調査とあわせて考えても居館を想起させるような明確な造構は検出できなかった。前回分の調査またはもっと広い地域を含めて居館の境界はどこか、あるいはないのか、さらに検討するのは今後の課題である。しかし建物を区画する垣状造構は絵画資料に描かれた武士の館の垣を想像させるし、遺物の種類や密度をみても在地領主の存在が想定できる。これら在地領主に関連する13世紀から15世紀後半までの造構や遺物を確認できた意義は大きい。

第5章 近代の瓦捨て遺構

1 遺構・遺物の概要（図21、写真24・25・63）

遺構はD-3区からC-5区にかけて位置する。耕作土下の褐色土をはぐと厚さ30~40cmの河原砂の層があり、その下に炭に混じって瓦がぎっしりと埋められていた。判明する範囲で3m幅で12m以上におよぶが、調査範囲の境であるため全体は明らかではない。

瓦は多くが割れたものである。中には割れていない瓦もあるが、本来濃灰色に焼けるべきものが薄い灰色に焼けている。周辺の古い家や蔵に今も載っている瓦がおそらくその完成品で、近代に焼かれたものとみられる。砂の層からは、近代の磁器片が検出されている。このような状況から、この遺構は製品にならなかった瓦を意図的に埋めた跡とみられる。

2 本郷の瓦製造

地元には、明治時代、この付近の土を使って瓦が焼かれたとの話が伝わっている。当時は家々の屋根が茅葺き・板葺きから瓦葺きに変化していく時期で、瓦の製造は当時の先端産業の一つといえた。瓦屋根への転換は、この地域では蔓草・製糸による農家の現金収入増と関係が深いと思われる。しかし、小規模で一時的だった地域の産業や職人をめぐるこの時代の歴史的具体相はすでに多くが忘れられつつある。今回この遺構の検出を契機に、本郷区在住の佐々木茂武氏（昭和7年生まれ）、桃沢茂樹氏（大正12年生まれ）、および七久保区高遠原の瓦職人＝片桐市明氏（大正15年生まれ）に若干の聞き取りを試みたので以下に紹介する。

本郷区での聞き取り 本郷での瓦製造といえば、明治時代に河野家（屋号：松永）がおこなったものだ。そのころ河野家は発掘調査地西の段丘崖際にあった。現在の地名は本郷第3耕地、字は屋古下である。

瓦にする土を探ったのは河野家の目の前の水田（発掘調査地からみると南西一帯に広がる水田）で、字名でいえば松葉を中心にその周囲である。水田の下に「瓦土」「青土」と呼んだ粘土があり、これで瓦を焼いたと聞いた。

瓦を焼いた場所は、はじめは現在の上前家（屋号：松葉）付近で、その後自宅裏の段丘崖中段で焼くようになった。子供のころ、割れた瓦が積まれた小山に登って遊んだ。この跡は昭和50年代に急傾斜地崩落防止工事のために消えてしまった。

高遠原の瓦職人の話 瓦の技術はすべて三州（愛知県）から来た。三州の職人を呼ばなければ瓦はできなかつた。経営は地元の人だとしても、職人は三州から来たはずだ。

あれだけ焼けていれば瓦の技術は結構だ。ただ、全部すかすように釜積みしないと白黒のブチの瓦になる。これを「ハトボッポ」と言った。みっともなくて売れない。「鬼」はすばらしい。「鬼師」という三州からまわってくる渡り職人がいて、高遠原にも1ヶ月くらい留まって渡っていった。この職人（鬼師）は、石膏ができ、それで型をとるようになってからだめになった。

今、南箕輪村田畠の瓦職人で、先祖が船島で瓦を焼いていたという人がいる。卒石という姓だが、この家人の人がここで瓦を焼いたとも思われる。むちいし

瓦を見た感じでは、作られた年代は明治30年過ぎではないかと思う。「トモエ」「破風」「マル」は手作りで機械ではない。機械でないので明治ごろだ。

瓦にする粘土には、はなどろが腐った土（漂積粘土）と、花崗岩が腐った土（残留粘土）がある（表5）。本郷の粘土は漂積粘土で、天竜川で運ばれたものだ。

12月から3月までは瓦が凍って焼けないので、土掘りを専門にする。遺跡は、四角く直線に土採りをし、その跡へ焼け損ないを捨てた跡だと思う。土採りは、次のはね土を入れるために直線にはっきり境をして進んでいったのだろう。冬に土採りをし、田植えまでには田にして田の持ち主に返したのだと思う。

掘った土は2年以上腐らせないとダメで、2年目ごとの土を使って瓦に焼いた。この工程は今は1週間で済むようになった。

昔農家の屋根材はすべてカヤだった。後になって栗板が使われるようになった。はじめは「板屋」という屋号がつくほどまれだった。みんな栗板になると栗の木がなくなってきて、瓦になった。栗板の屋根は3年ごとに屋根替えをしなければいけないが、瓦は長持ちし30年に1回ぐらい並べかえればよいので、金がかかっても瓦が好まれるようになった。

表5 瓦の粘土

片桐市明氏による		『かわら日本史』(雄山閣、1972年) 218ページによる	
近在での所在地	説明	区分	説明
高遠原西の山中	花崗岩が腐った土	残留粘土（一次粘土）	風化したまま元の土地にある
東伊那 南箕輪 大田切 苫郷	はなどろが腐った土	漂積粘土（二次粘土）	川水で流れ移って沈殿 瓦の粘土は二次粘土が多かった

第6章 遺跡周辺の概観一まとめにかえて

県単農道調査、そして今回の調査と、隣接地での連続して実施した調査が一通り終了する。今回の調査の結果判明した事項は各章末のまとめのとおりだが、本章では、考察の対象を今回の調査地内に限定せず、共通する事項が多い両調査地の成果から、若森社遺跡として登録されている調査地周辺の歴史を概観する。まず1で縄文時代から中世までの歩みを概観し、2で中世の成果に関してやや掘り下げてみたい。

1 縄文～中世

最も古い遺物としては県単農道調査で縄文時代草創期の石器が出土し、つづく早期の土器も県単農道調査および今回の調査で見つかった。この周辺地域では約1万年前から人の営みがあったといえる。中期後葉になると遺物が爆発的に増える。しかし、江戸時代以来の水田耕作によって中世以前の生活面は破壊されており、生活面レベルでの遺構を検出することはできなかった。唯一断定できた遺構は、その下部のみが残存していた中期後葉の埋甕状遺構である。これは水辺にあった遺構とみられ、当時の人がこの段丘面の北西側に広がっていた湿地や南西側の沢と関わって暮らしていたことをうかがわせ、今後その用途の解明が期待される。また、今回、釣手深鉢土器の釣手部分が破片で出土したが、これは周辺の遺跡でも確認されており、祭祀あるいは精神生活に使用される土器としてこの地域に一般的だった可能性がある。

弥生時代については、今回の調査からそう断定できるものは後期の土器破片1点のみだが、県単農道調査で検出された弥生末期の埋甕状遺構は住居の存在を示すものと考えられる。

今回5～6世紀とみられる土師器破片2点が出土している。これ以外の古代の遺物は、ほぼ9世紀前後の時期にまとまり、すべて破片で、今回の灰釉陶器2点、土師器3点のほか、県単農道調査地の土師器1点、須恵器2点、灰釉陶器1点がある。このうち灰釉陶器3点は、いずれも日常生活に使われるものではない壺・長頸瓶で、当時的一般人では持てなかつた什器といえる。

中世の成果では主な遺構として建物跡を挙げると、県単農道調査と今回の調査をあわせて5軒検出した。県単農道調査では1軒で、平らでない底面の竪穴をともなう大型の建物で年代は13～14世紀、今回調査の4軒には、深い竪穴をともなう建物、平らでない底面のくぼみをともなう大型建物、隣り合う位置にある竪穴のない建物2軒があった。ほかにも時期不明の柱穴はおびただしく見つかっており、実際はもっと多くの建物が存在した可能性が高い。今回は、居住区を区画するとみられる垣の跡も検出した。遺物は陶磁器を主として多数出土した。県単農道調査の大型建物跡の竪穴から主に13～14世紀の陶磁器が出土し、今回の調査では調査地北西側を中心にはほぼ全面から12～13世紀の陶磁器が、調査地南東側の竪穴建物跡およびくぼみをともなう建物跡を中心に15世紀の陶磁器が多く出土した。両調査地とも割合は多くないが16世紀の遺物も混じっており、中世を通じて人の営みがあったことをうかがわせている。

2 中世の景観

発掘調査の成果から、この地域の中世について確実にいえることは何だろう。

近在で12世紀の陶磁器をこれほど出土した遺跡はこれまでになく、15世紀までの陶磁器についても豊富である。このことから、調査地周辺は、当時有力者が関わった地域であることはまちがいない。中世、この地にいた有力者となると、文献資料などから知られる銀嶋氏の一族以外に思い当たる節はない。直接的な証拠を見つけているわけではないが、このことはほぼ確実といっていいだろう。

中世の遺構については、そのひとつひとつについて現在のところそれが何なのかということを特定するまでにはいたっていない。遺構の分布は調査範囲外におよぶことは確実なので、その範囲を予想しながらこの地域全体がどのような場だったかを考えることが重要になる。調査の成果を地域の歴史にどう結び付けるのか見通しをつけておくことは調査担当者の勤めのひとつと考えるが、簡単に結びつかないとすればどんな点に問題があるのかという点を示しておくことも意味があるだろう。紙幅の無駄との指摘は甘んじてお受けすることとするが、以下では、現在何がわからないのか、どんな可能性があるのかを、示しておくことにしたい。

(1) 前提とすべき古代

2度の調査では、9世紀ごろの灰陶陶器の壺・長颈瓶の破片が合わせて3点出土した。このことから、この場所は12世紀になって初めて有力者が住んだわけではないことを指摘できる。しかし、9世紀と12世紀では300年の隔たりがある。この間は空白だったのか、それとも資料はないが脈々と代を重ねたのか。

現在のところ飯島氏の起りについては、「尊卑文脈」を根拠として、飯島氏は12世紀末に片切氏から分かれて興ったというのが定説になっている。しかし、そのころの本郷、またはその前代の本郷はどうあつたのかという共通理解は得られていない。飯島氏は、だれもいないところへやってきて土着したのか。それとも、そこにいた人を威圧して入りこんだのか。はたまた、そこにいた人が成長したものなのか。

9世紀の有力者の當みがその後断絶したと考えると、飯島氏の本拠地とされる飯島町本郷地籍で12世紀の遺物をこれだけ出土している地点はほかにないのだから、「尊卑文脈」に基づいて、片切氏から分かれて飯島（現飯島町本郷）に定着した飯島氏が最初に館を構えたのをこの場所とみることもできる。逆に、300年間には空白がないと考えると、そこにいた人を威圧したのか、それともそこにいた人が飯島氏となったのか、ということになるだろう。後者については、「尊卑文脈」の系図を血筋として信用しなければ、たとえば從前からこの地にいて力を蓄えてきた者がそのころ片切氏と接触して結びつくようになったとしてもできるし、系図自体を後世のつじつま合わせと疑うこともできる。

なお、本郷地籍には、土師器や須恵器など古代の遺物を出土している遺跡は少なくなく、住居跡も3遺跡から5軒が確認されている。遺物や住居跡の年代は8~10世紀が多く、11世紀は少ない。この傾向は、本郷だけでなく、飯島町域の古代の遺跡全般にいえる（「飯島町誌」上巻（1990））。11世紀ごろ飯島町域からは人が消えてしまったのだろうか。たまたま見つかっていないのか、みる目が誤っているのか、それとも土器はないが人はいるのか。若森社遺跡の空白の300年間が本当に空白だったのかは、この地域全体の中でも考えるべきだろう。

(2) 18世紀後半の絵図

江戸時代の絵図で、この付近について描いたものが2点ある（写真3・64）。また、本郷全体を詳細に記した明治9年の地引絵図がある（これをもとに図5を作成した）。ここでは、中世のこの地域を考える上で参考にできそうな情報を、近世の2点の絵図からとりだし、検討を加えてみたい。なお、絵図はどれも河野通昭氏所蔵だが、目録などは整備されていない。

宝暦10年の絵図（写真64）　宝暦10年（1760）のものとみられる1点は、質地証文（宝暦10年「一札之事」）の付図として作成されたようである。絵図にみえる「ヤシキ」の主である河野家（屋号：若森）の所持地などをほぼ正方形の枠内に描き、その四至がだれの耕地かを記している。絵図では、正確には北西にあたる方角を「西」、北東にあたる方角を「北」としている（地元では現在もそのように方角を呼び習わしている）。絵図にある「柿田」は県半農道調査地からみつかった暗渠排水から北東側の水田、「ヤシキ」は河野家の宅地、「草場」「竹藪」「林」は段丘崖にあたる。

絵図でいう西側枠外には「梅三郎殿沼田」と記されている。そこは昔から沼地だったといわれる地域である。「ナワテ」とあるところは、現在シメジ栽培場の脇を通って宅地に延びる道路である。縄手（隈）は道のことである。絵図だと南にあたる枠外に「佐内殿ニ譲候田二ツ」とある。したがって、もとはこちら側の田2枚も河野家が所持していたことがわかる。「字市村之内メ三拾三俵壱斗六升」は、記された田畠の取れ高と思われる数字の合計と一致するので、この範囲は当時「字市村之内」と認識されていた地域とわかる。

寛政9年の絵図（写真3） 江戸時代のもう1点の絵図は、寛政9年（1790）「賃地絵面帳」と題された縦帳に描かれている。宝暦10年の絵図が境界を直線で引いているのと比べると、こちらのほうが実態に近いイメージといってよい。沼田との境および境付近の4枚の田を水路が巡っている。道は、宝暦10年の絵図にある「ナワテ」が太い「馬道」として描かれ、これより狭い「馬道」が、段丘面の縁にあたる部分と、「柿の木田」と沼田の向こうを結ぶように（直角に曲がって）記されている。宝暦10年の絵図によるとこの範囲は市村という字名で呼ばれているが、その内には「宇津門田」「宇柿の木田」というさらに小さな字名がある。宝暦10年の絵図にも「センモン田」「柿田」は記されているが、ことに「宇津門田」については沼田側の4枚の田を指していることが確かめられる。また、「我等阿弥陀堂屋敷并畠境限り」と記された一角があり、宝暦10年の絵図と対比すると、阿弥陀堂の敷地は宝暦10年絵図で空欄になっている部分とわかる。この阿弥陀堂は「我等」つまり河野家が管理していることが明らかである。

この地域の圍場整備前の航空写真（写真5）をみると、絵図に描かれた水田の区画は、昭和55年の圍場整備まで、さほど変わらずに引き継がれたとみられる。

ここでとくに注目したいのは「宇津門田」の字名と「阿弥陀堂」である。

宇津門田という地名 ゼンモンダの由来は何だろう。考えやすいのが「宇津門」の「田」である。「日本国語大辞典」（小学館）によると、宇津門には「①禪宗の法門。また禪宗。②禪定（ぜんじょう）の門に入ったものの意で、仏門にはいった男子を言う。在家（ざいけ）のままで、髪をそり、僧の姿となった居士（こじ）。入道。③乞食（こじき）をいう語。」の意味がある。「宇津門田」を、②の宇津門とかかわりのある田と考えると、その人物を中世の飯島氏一族に求めることができそうである。「西岸寺規式」（西岸寺所蔵、「信濃史料」『飯島町誌』中巻に採録）の「文書目録」をみると、飯島氏一族には「～入道」と呼ばれる者が多いからである。したがって、飯島氏の直営田だった可能性が考えられる。

なお、「西岸寺規式」は西岸寺6世住持の大徹至純によって制定された寺規で、応安6年（1373）に西岸寺が室町幕府から「諸山」に加えられてほどなく制定されたとみられる。末尾に添えられた「文書目録」は、そのころ寺が所持していた文書をリストアップしたもので、文書のほとんどは沽券・寄進状・譲状などが占めている。「文書目録」には7世住持の藍田堅瑛の書き加えがあり、文書を入手した年代は14世紀後期ごろまでとみられる。

阿弥陀堂 「阿弥陀堂」で思い起こされるのは、「若森社遺跡・南羽場遺跡」に記した「阿弥陀塔」である。阿弥陀塔は昭和44年まで、2基の五輪塔とともに県単農道調査地の南東隅近くに立っていた。その場所は、絵図からわかる阿弥陀堂の位置と一致するので、阿弥陀塔と五輪塔は阿弥陀堂の敷地内に立っていたとみられる。阿弥陀塔はその銘から元禄15年（1702）に建立されたものとわかり、五輪塔は室町時代のものと推測されている。阿弥陀塔の真下には骨蔵器である陶磁器などが埋納され、周囲の土中には手のひらに載る程度の大きさの経文石が多数散在していたという。しかし、阿弥陀堂の規模や建立年代は不明で、河野家にも「昔、阿弥陀堂があって、尼が住んでいた」との話が伝わるだけである。明治9年の絵図ではこの土地が「墓地」と記されており、すでに堂は存在しなかったと思われる。

阿弥陀塔を建立した人物として可能性が高いのは、河野家系図に記される5代目当主の善左衛門である。系図には、善左衛門は現在の下伊那郡豊丘村の内にある河野村の河野家（屋号：地勝寺）から養子に来た

と記されており、この家が「河野」姓を名乗るのはこの人が菱子に来て以来ではないかと推測される。この推測が正しいとしたら、塔には「施主 河野氏」と刻まれていることから、施主は善左衛門以降の代と考えられる。善左衛門は正徳6年（1716）に87歳で死んでいるので、元禄15年時点では73歳である。

問題はこの地が中世からの墓域あるいは信仰の地だったかどうかである。つまり、阿弥陀塔は後世の建立としても、五輪塔や阿弥陀堂が以前から同じ場所にあったかどうかである。ここで結論を出すことはできないが、今後解いていくべき謎の一つといえる。阿弥陀塔の下から出土した陶磁器の年代は、12世紀後～13世紀初（常滑産窯）、13世紀前（骨蔵器である古瀬戸灰釉四耳壺2個体）、14世紀前（古瀬戸鉄釉梅瓶）、15世紀（古瀬戸灰釉小壺）、18世紀後（染付陶器）と多様で、注目されるのは中世を通じて祭祀が営まれた可能性があることだろう。しかし、陶磁器は阿弥陀塔の直下に納められていたことから、それらは一度掘り出され、元禄15年にあらためて埋納され供養されたものと判断できる。したがって、その場所を中世以来の墓域と即断することはできない。埋納物には18世紀後期の陶器があるので、元禄15年の塔建立より後の年代に移転された可能性もないとはいえない。とはいっても、それは供養塔を新たに建てることが目的で、再び同じ場所に埋められたことも十分考えられる。元禄15年に墓を移して新たに阿弥陀堂と阿弥陀塔を建てたと考えるか、室町時代から五輪塔のあった場所に元禄15年に阿弥陀堂と阿弥陀塔を建てたと考えるか、堂は五輪塔とともにすでに存在し、元禄15年にはその場所に阿弥陀塔を増設して供養しなおしたとみるかである。なお、ここを中世以来の墓域とするならば、五輪塔の年代以前はどうだったかも課題となる。

（3）道・天竜川・社寺・市

若森社脇の道と天竜川 現在の河野家宅地の東隣には、用水路を挟んで、かつての若森社の跡がある。この若森社の北東側は、段丘崖の斜面があたかも山城の縦堀のようになっており、その底を道が通っている。これはおそらく城館跡にともなう縦堀というより、道としてきわめて重要だったと考える。

この地点から道を下ると天竜川の河原に出る。この天竜川右岸の河原は「島」とか「島河原」と呼ばれており、「西岸寺規式」にみえる「島平」はここのことと思われる。「西岸寺規式」からは、島平に「深山田」「渠口二段田」「塩免一斗六升蔵」「池田」「冷田」と呼ばれた田や「屋敷」があったことがわかる。つまり、天竜川の氾濫原ではあるが通常は流路とならない場所に屋敷があり、水田が営まれていた。

道のさらに先は、天竜川を渡って飯沼（現中川村飯沼）へ至る。「西岸寺規式」の文書目録からは、西岸寺が飯沼の有力者は飯沼氏とも関係をもち、寄進を受けたり買入れて飯沼の土地を所持していたことがわかる。そのためにはこの付近に渡しがあったはずで、この道筋は飯沼と本郷を結ぶ重要なルートだった可能性がある。天竜川左岸地域との交通の場を押さえることは、中世の在地支配者にとって重要な意味を持つていただろう。

河野通昭氏所蔵文書によると、江戸時代後期には、寛政元年（1789）まで字「道禁」辺りに飯沼からの渡船の船着場があったが、洪水によって着船が困難となったため、それ以降字「平松」に変わった。この変更には、飯沼から本郷へ一札が入れられ、その願書を受けて本郷が認めるという手続きをとっている。この付近の天竜川には、江戸時代に西岸寺の朱印地となった中州があり、字道禁は中州の北で川が別れ始める右岸、字平松は島河原の南で川が再び合流するあたりとみられる（図5、写真66）。

これをヒントに中世の渡しを考えてみたい。1艘の船で渡したとすると、その候補地は中州の南北どちらか、つまり江戸時代と同じ2か所となる。長い期間には流路の状況によって渡船場の変更が繰り返された可能性は否定できないが、それでも道禁付近の天竜川の流れは「泡ヶ瀧」と呼ばれ、大きな石が川面に顔を出すようなところであり条件のよいところとは思われない。道禁の河原へ出るには、若森社脇の道ではなく、もっと北で段丘崖を下りると思われる。道禁に比べると平松は渡しやすいところで、こち

らへは若森社脇の道が通じる。渡しは川岸の両者が協同で運営したわけではなく、より優位にある者が支配したとすると、飯島氏が条件のよいほうを押させていたことが考えられる。

なお、江戸時代後期には、平松の渡しから登ってくる道は、川岸からすぐに二手にわかれる（写真65）。北に向かうのが今述べている道で、もう一方は西側に向かい古町・上村方面に登っている。西に向かう道沿いにも、松葉の館や南羽場の館など中世の飯島氏一族の居館候補地が存在する。

ところで、この時代には天竜川の上流・下流を結ぶ船運はなかっただろうか。あったとすれば、飯島氏がそうした流通に力を及ぼしていたことが考えられる。『西岸寺規式』からは、ここから約6km下流の中川村中村に「舟津」があったことがわかるが、それは渡しなのか、船運の港なのか。

河原は「あの世とこの世を結ぶ場所」といわれる。河原からこの道を通って急斜面を登りきったところに鎮座する若森社は、このことと関係ないだろうか。若森社を川に関係した社と考えると、天竜川をはさんで若森社と対峙する飯沼大宮神社にも興味が持たれる。飯沼大宮神社の成立年代は不詳だが、中世にさかのばる可能性は否定できないようである（伊藤修氏による）。文化5年（1808）の絵図（本郷区有文書、写真66）をみるとその場所には「八幡」（八幡社）と白鷺（白鷺社）が並んでいる。社を意図的に渡しの両側に配置したとするならば、当時の人に、川を単に地理的な境界とみる現代人とは異なる感覚が備わっていたことを指摘できる。あるいは、飯島氏が支配する平松の渡しに対応する社が飯沼の八幡で、逆に飯沼から道禁への渡しに対応するのが本郷の八幡社（若森社から北東へ350mの同じ段丘面に鎮座）との構図も想像できなくはない。

神社や寺院 この道には、天竜川と反対方向にも特徴をみつけることができる。それは、道の先々に神社や寺院の跡があることである（図5）。ただ、若森社と八幡社は中世に存在したと考えられるが、それ以外については中世にまでさかのばるという確たる根拠はない。地蔵寺（京都妙心寺末寺、本尊は地蔵菩薩）は天和4年（1684）、利生庵（西岸寺末寺、本尊は薬師如来）は元禄10年（1697）、大福院（修驗道）は安永6年（1777）以前の成立といわれている。利生庵と大福院についてはここでの検討材料を持たないが、地蔵寺についてやや気になる点を示してみたい。それは、この寺が西岸寺の住持を開山とされているにもかかわらず、その本山が西岸寺ではなく妙心寺である点である。西岸寺は中世には五山派の寺院だったが、17世紀後期ごろ妙心寺派に変わったとみられている。西岸寺の住持が開山となって17世紀後半に成立したといわれる寺院は多いが、当然ながらみな西岸寺の末寺となっている。このことは、かつての地蔵寺が、飯島氏の氏寺であった西岸寺と対等の関係にあったことを想像させる。

若森社遺跡と同様に飯島氏一族の拠点と考えられる南羽場周辺では、中心地域の北側に社宮司社と喜入寺がある。若森社遺跡では、北東方向に位置する若森社が鬼門除けだった可能性がある。

ちなみに江戸時代、本郷では八幡社・美射山社・若森社・社宮司社の4社が、村持ちの社地として石高算定対象外となっていた。4社は明治29年（1896）までに美射山社の位置に合祀されて本郷神社と称するようになった。若森社は美射山社の「御旅所」といわれており、合祀の際に残された記録の中には「美射山社の祭礼の際には神官が若森社に詣でてその明神を客として美射山社に迎え、仮屋に安置して祭典をとりおこなっていた」という慣例があったことが記述されているといい〔飯島町教育委員会『飯島町神社誌』（1981）〕、両社の関係について考えさせられる。なお、合祀の際の記録には、社宮司社について、「諏訪社の御頭役が触れ当てられた際、附与された御符は社宮司社へ納めていた」ということも記されているという〔前同書〕。

東市場と飯島弥三郎 ところで、調査地付近は、字名としては「市村」のうちにに入る。『飯島町誌』では、この地名について、「市場があった」という説と「一番の村」という説があるとしている。市との関連について、今回の調査でB-1区から出土した青銅製分銅は興味が持たれる品である。この場所の市としての可能性を探ってみたい。

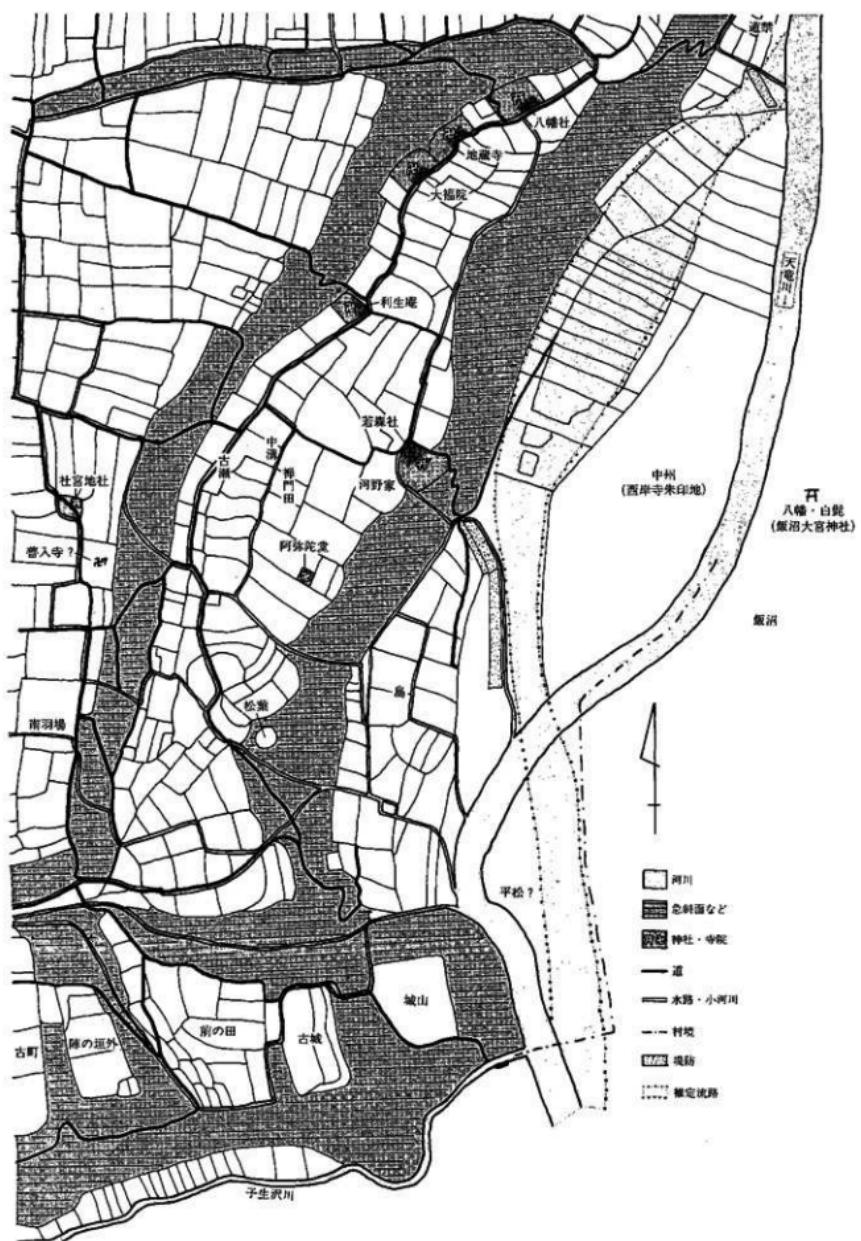


図5 近世の社寺・道・水路と周辺要図

『西岸寺規式』の「文書目録」に「東市場」の語がみえる。その1文は「一通、飯島弥三郎入道女子尼法玉之沽券、東市場在家」で、飯島弥三郎入道の女子の尼法玉が、東市場の在家を西岸寺に売り渡したときの証文1通を西岸寺が持っている、ということである。この東市場について、「飯島町誌」では美射山社の門前の字「古市場」と考え、「長野県史」では字「古宿」あたりと考えている。しかし、売り渡された在家の所在する場所を文字通り東の市場とみなすと、字「市村」はその候補地として注目されてよいと思われる。市村は本郷全体でみて東の端に近い位置である。西岸寺からみた方角でも、ちょうど真東にあたる。

尼法玉は飯島弥三郎の女子で、在家は弥三郎から相続したものと考えられる。弥三郎はこのときすでに故人となっていたのではないか。弥三郎は飯島氏一族でどのような位置にいる人物か。飯島家の系図〔飯島絵『飯島氏および飯島家』(1988)、『飯島町誌』中巻(1996)など〕によると、「為重(飯島弥三郎)」という人がいる。系図上は、初代とされる為綱の長男をたどった6世代目にあたる。4代目の男子4人のうち総領家を継いだのが2男だったので、弥三郎の父の代=5世代目から庶流ということになる。為重の活動した年代について、1180年代にはじめて飯島氏を名乗ったとされる為綱や、1221年の承久の乱に出陣した2代目為光から、1世代20~30年程度とみて単純に試算すると13世紀後半~14世紀中葉ごろのうちではないかと思われる。系図によると、弥三郎の後は途絶えている。

東市場をここと考え、在家がもとは弥三郎に属したとすると、弥三郎がその近く、つまり調査地周辺に住んだ可能性が出てくる。「禪門田」が禪門=入道の田に由来する地名と捉えた場合も矛盾はない(飯島氏一族の多くは入道となっていることから、あくまで矛盾しないという程度である)。弥三郎は系図上長男の流れなので、この地を為綱に始まる飯島氏初期の総領家—5代目からは総領家ではないか—が代々居住したところとみるとことはできないだろうか。5代目以降総領となる家が、たとえば南羽場などの土地に移ったとする見方である。かりに、中世前期には父系直系の血の系譜で代々継承したわけではなく、弥三郎まで「長男の流れ」のように記されている系図が後世のつじつま合わせだったとしても、つじつまを合わせようとしたときに「あそこに住んでいた人がもとの総領家の流れ」と意識されたとすれば、この説が補強されることになる。

こう考えると、13世紀、系図では2世代目から4世代目までの飯島氏庶流については、「承久記」に名前が登場するほどの岩間氏以外の記載はないが、そのような記載されなかった庶流が、飯島氏の支配圏内だった現在の飯島・田切地区などを代々分割相続していくうちに岩間・田切・石曾根などに広く拠点を展開したのではないかとの想像にかられる。系図上、飯島を名乗る一つまり飯島(現在の本郷)に住んだ一族が枝分かれするのが5世代目や6世代目で、さきのように幅をもたせた試算で13世紀中葉から14世紀中葉ごろに、本郷地区内部での分割相続が進んだとみることはできないだろうか。

県単農道調査の若森社遺跡から出土した遺物が13世紀前半~14世紀前半にピークを示していること、今回の調査地から出土した遺物には14世紀の遺物が少なく、ことに14世紀後半と確認できるものが1点もないこと、そして県単農道調査の南羽場遺跡での出土遺物が13世紀になって出現することも、のべてきた説に符合するかにみえる。しかし、うまくいかないのは「文書目録」の次の1文「一通、飯島弥三郎入道屋敷之東田五段、後室尼法勝之沽券」である。調査地辺りに弥三郎の屋敷を求めるに、その東に田がなければならないが、東は段丘崖である。若森社の北に字「北田」があるが、こここの水田は明治9年の地引絵図で1反7畝ほどで、5反の田は想定できない。段丘崖下の島河原の水田を指したとすれば広さは問題ないが、比高30mの崖を下ったところにある田を「屋敷之東田」と呼ぶかは怪しく、その屋敷を調査地付近に設定することは難しい。あくまで調査地の近くにこだわるならば、字市村の内ではなく字古瀬、つまり調査地北西側の段丘崖付け根に屋敷を想定し、沼田や禪門田を「屋敷之東田」と考えなければならない。弥三郎と同居していない後室尼法勝の屋敷を弥三郎の屋敷と誤認したするとその屋敷が調査地付近になくてよいが、この解釈は苦しい。したがって、残念ながらここまで述べてきた説も再検討を余儀なくされる。

しかし、なお字名や周囲の環境から、市場所在説を否定し去ることもできない。中川村中村の「六日市場」は、前述した舟津の近くと考えられており、市村の場合もこれと類似する可能性がある。市が無縁の地に立つという観点からは若森社との関係が想起されたり、河原とはいえないが近くであることは市の立つ場としての特性に近いものかもしれない。ごく近くに館があるとすると、飯島氏が直営して手数料を取り、その見返りとして商人たちの安全が確保された市とみることができる。ただ、その所在地を今回のB-1区あたりの調査地内に求めるるとすると、その面積をどの程度とみるかにもよるが、常時開かれたわけではない市の跡としてはいさか遺物の量が多すぎるようにも思われる。あるいは市の跡が15世紀になって墓域となつたと考えればよいだろうか。

(4) 近世への展望

寛文3年の飯島又右衛門【文書1】(河野通昭氏所蔵)は、寛文3年(1663)に、飯田藩の郡奉行(小川・角田)と代官(吉田)から、本郷村肝煎の六郎兵衛と同村の八兵衛・吉兵衛に対して出された田地付与状である。「本郷村の高160俵余りの所は、山林とともに飯島又右衛門の名田だったが、落ち度があるので取り上げ、永代付与するものである。三人が自ら年貢役儀などを滞りなく勤めよ。今より以後、これを妨げるものはない」との内容である。

飯島又右衛門の「落ち度」については【文書2】(河野通昭氏所蔵、嘉永元年に筆写された文書)に、「又右衛門は数年分の年貢・諸役を納めていない。未納分は200俵余りあり、それについて(又右衛門から)3年で納めないと訴えてきたところ、慈悲を加え5年で完納するよう仰せ付けた。しかし、その後一粒も納めず、田地も荒しているので、寛文3年には隣郷の者に作らせた。そのうえ義にそむくような申し分があるので田地を召し上げる。」と説明されている。そして、召し上げた山林付きの田地を六郎兵衛・八兵衛・吉兵衛の3人に付与することにしたわけだが、それは「又右衛門が未納していた200俵余り、田切村の半四郎・八左衛門への借金30両余を3人で完済した」ためだった。

又右衛門と飯島氏本家 この飯島又右衛門とはどのような人物だろう。文政5年(1822)に書かれた『飯島家訓』(飯島氏所蔵)(前掲『飯島氏および飯島家』『飯島町誌』中巻)に、次のくだりがある。「27代梶与右衛門為永同時代に本郷村に飯島又右衛門と言う者あり。これ両旦那(『西岸寺規式』で「三檀那」といわれた為光・為高・為盛のうち、本家筋でない為高・為盛のことか)の子孫にや。当家先祖の廟所は西岸寺境内にあり、又右衛門父祖より前、廟所いすかたにありけるにや知らず。万治年中、脇坂御領地の節梶与右衛門甥と兵衛と公訴のことありて飯島又右衛門落胆したことあり。その後家断絶して子孫なし。」「…そのころ本郷飯島又右衛門と言う者、為永親類にありけるにや、与兵衛を取り持ち、脇坂御領地のころ万治4年(1661)丑2月、与兵衛より出訴におよび、御年寄脇坂仁右衛門殿、同奉行角田吉右衛門殿・小川佐左衛門殿、大目付大藤六左衛門殿・福沢五左衛門殿御裁許にて、与兵衛事は同年3月9日に山を越し、御領より御追放になる。」

文政5年にこれを記した筆者は、又右衛門は本家筋ではないが親類にあたるかもしれないと推測している。親類の縁を頼って本家甥の与兵衛に飯田藩へ出訴してもらった。この出訴の内容は、【資料2】にある「未進年貢200俵余を3年で納める」ことの訴願かもしれない。なお、飯島氏本家は17代為延が関ヶ原・大坂夏の陣に出陣した後飯島郷へ帰ってくるが、なぜか本郷ではなく、北隣の石曾根村赤坂に定住するようになっている。文禄2年(1593)に飯田城主京極高知の政策で本郷から町屋を移動させて新設された飯島宿にほど近い場所である。その後、18代為忠は小笠原家に仕え、19代為水(与右衛門)は母方の水戸家家臣の梶氏に養われたため梶を名乗り、伊井家に仕え、晩年赤坂へ帰村した。又右衛門の事件が起ったのは、為永の帰村からほどないころだろう。

16世紀末～17世紀の本郷 天正10年(1582)、飯島氏15代為次は武田氏に従って高遠城で織田氏と戦い討

【文書1】寛文三年（一六六三）、田地付与状

本郷村高百六拾俵余之所、山林共二飯島
又右衛門職為名田、越度依有之取上、永

代令附与三人手御年貢役儀等
無浦可相勤候、自今以後妨ニ成者

有之間鋪者也

寛文三年癸卯十一月十六日 吉田八右衛門
正定（印）（花押）

吉田吉右衛門
正定（印）（花押）

小川佐左衛門
正定（印）（花押）

本郷村肝付

六郎兵衛殿

八兵衛殿

同所

吉兵衛殿

【文書2】寛文三年（一六六三）、田地付与添状（写）

本郷村又右衛門田地相渡添状之事

一數年御未進諸役相滞之事

一右之未進武百俵余有之二付、三年ニ被 召上被下候
梯ニと訴訟仕候處、結局被加御懲罰五年ニ相済候
得と被 仰付儀得共、其以後一粒も納所不仕、剩田

地をもあらし候ニ付、卯ノ年隣郷之者申付作らせ候、
其上不穀成申分有之付、田地召上候事

右之御未進武百俵余、又ハ田切村半四郎・同所
八左衛門方へ之借金三拾両余、其方三人として
相済候故、又右衛門田地山林共ニ右三人へ遣候、
則別紙之証文有之者也

寛文三年癸卯十一月十五日

吉田八右衛門
正定（印）（花押）

角田吉右衛門
正定（印）（花押）

小川佐左衛門
正定（印）（花押）

判 判 判

本郷村肝付

六郎兵衛殿

八兵衛殿

同所

吉兵衛殿

ち死にする。このあと本郷にはどのような変化があつただろう。このときの織田軍は、高遠攻めに先立つて飯島城に陣を張っており、この地域に大きな影響を及ぼしたことが想像できる。その際、飯島氏の一族には甲斐方面へ移住した者が多かったのではないだろうか。山梨県・埼玉県などに出自を伊那の飯島郷と伝える飯島姓の家が多くある〔前掲『飯島氏および飯島家』〕。16代為伸は徳川家康から本領を安堵されたと伝えられるが、その軍役を勤めるために本拠地を留守にすることが多かつただろう。また、文禄2年（1593）には隣村=石曾根村の内に新たに飯島宿を設けるため、飯島城下の古町に隣接する上村の町屋が移転させられている。その後17代は関ヶ原へ出陣後本拠地には帰っていない。こうして、本郷の村は新たな時代を迎えている。

本拠地には飯島を姓とする又右衛門の家系が残っていたことも確かだが、17世紀中葉にはその経営が破綻する。又右衛門の所持地160俵余とは、本郷全体ではどの程度の割合を占めるのだろう。本郷村の寛文12年（1672）の村高は約813石である。1俵を4斗とすると160俵は64石で、村全体の8%ほどである。前代の支配者の跡を繼いだといえるほどの数字ではないが、1人の村人としては低くない占有率だろう。一方興味深いのは又右衛門の未進年貢を肩代わりした3人である。200俵余=80石余の年貢と、近村への借金30余石を、短期間に用意できた人たちである。

(2)でのべたとおり、元禄15年（1702）に阿弥陀塔を建立した人は河野善左衛門の可能性があるが、この人が養子入りした家は上記の未進年貢を肩代わりした一人＝吉兵衛の家系とみられる。飯島氏出奔後、16世紀末から17世紀の本郷は新しい時代を迎え、ある部分では前代からのしがらみを引きずりながら新興勢力が村を再生はじめる。そのリーダーたちの家政が安定軌道に乗ってくるのが、飯島又右衛門の一件が片付いていく17世紀末ごろと考えると、元禄15年の供養祭の意味がみえてくる。善左衛門は、荒廃した村を立て直したあと、この地に眠る飯島氏一族の靈を慰め、新たにその地で自らの家が永続することを祈って名号塔を建て、礫石経を埋納し、供養祭をとりおこなったのではないか。

飯島又右衛門の所持地がどこだったのかは、山林とみられる1ヶ所についてわかるのみで、耕地については今のところ手がかりがない。その山林とは、与田切川が天竜川に合流する地点付近の「居丸山」である。嘉永元年（1848）に居丸山をめぐって争論が起きた際、「駿板公より拝領の…」と、このときの田地付与を根拠としていることからそうわかる。

（5）調査地の中世のすがた

建物群や遺物の範囲 ここで中世に立ち戻ってみよう。

『若森社遺跡・南羽場遺跡』では、大型建物跡が発見され、そこから多量の陶磁器が出土したことから、從来ささやかれていた飯島氏最初の居館所在地説を傍証する成果とみなし、調査地は居館内的一部ではないかと考えた。また、調査地を含む周囲の一定の区画内に、飯島氏の住む主屋のほか副屋・蔵・厩・厨などが備わることを想定した。いまその範囲について考えると、南東側は段丘崖、南西側は今回調査地のすぐ南西を流れる沢、北西側は湿地を境とみて、それらに囲まれた区域を想定できるが、北東側の境は明確にならない。

若干の地形の変化や道などを境とみて、いくつかの候補を設定することは必ずしも無意味ではないと考えるが、表面採集や過去の分布調査でみつかっている中世陶磁器は八幡遺跡の範囲にまで分布しており、館の境としての線を確定することは現段階では困難である。館の中心施設についても、県単農道調査地の大型建物を館の主屋と決定するだけの根拠がそろっているかと問われれば、規模などは問題ないとしても、竪穴の形状には疑問が残り、立地条件では沼地に近く水はけの悪いその場所がふさわしいとは考えにくい。居住性を重視するならば、むしろ現在の河野家宅地辺りのほうが考えやすい。ただ、主屋の位置を2度の調査地辺りから河野家宅地辺りまでの範囲内に求めることは、遺物の密度や、若森社を鬼門方向とした場合の位置関係からみてあながちの外れではないだろう。

ひとまず主屋探しはやめにして、南は沢で区切られる地形の端近くにまで建物群が及び、北は八幡遺跡にまで陶磁器の分布が及んでいることに注目したい。飯島氏の主屋を中心とする館はどこかにあったとしても、それをとりまく広い範囲に家人や従属者の住居が混み合い、あるいは散在したと考えられる。段丘上にある程度の広がりを持った村のような景観が想定できる。

そもそもこの地に存在した飯島氏の館は、堀や土塁などできっちり区画されたわけではないのではないか。関東地方では、武士の館が堀や土塁に囲まれたいわゆる方形館となるのは14世紀以後との説が提唱されている（鶴口定志「中世東国居館とその周辺—南関東におけるいくつかの発掘事例から—」（『日本史研究』330号、1990））。調査地付近でも、垣などによる区画はあったとしても、がっちりと防御施設で周囲をかためた方形館のイメージよりも開放的な空間とみて、飯島氏の館を中心に、従属する階層の人びとの生活圏を広く含んだ地域と捉えるほうが矛盾は少ないように思われる。飯島氏が防御施設を備えた拠点づくりを志向し始めるのは、この地での営みが低調になる直前の15世紀後半ごろと考え、新たな拠点を飯島城と考えるのが妥当ではないだろうか。

周囲の景観 調査地付近の北西側は、18世紀半ばには「沼田」といわれている。これを中世にまでさか

のほるとみると不自然ではないだろう。この段丘面の水田はここだけではなく、段丘付け根に沿って南は相の沢近くから北は八幡社辺りまで、細長く連なっていたことが推測され、飯島氏に従属する人たちの労働の場だったことが想像される。

耕地は当然水田だけでなく畠もあったと想像できるし、承久の乱に出陣した飯島氏にとっては馬にかかる場も考えないといけない。周囲に住む従属者には、鍛冶をはじめとする技術者もいただろう。

この段丘面に飯島氏を中心とする村の形が成立していたとするならば、若森社や地域の北に位置する八幡社のほか、場所を断定できないが寺や堂が計画的に配されていたとみてよいのではないだろうか。13世紀中葉の成立とされる西岸寺は2つ上の段丘面に位置してやや遠く、一つ上の段丘面の善入寺は、社宮司社とともに南羽場の館とセットとする見方ができ、この段丘面にも寺や堂を想定する場があるてよいよう思われる。近世には確かに存在する地蔵寺あたりがそのような信仰や祭りの場の候補に挙げられる。

まとめ 以上述べてきたうち、中世のこの地域のすがたとして可能性が高いのはつぎのことである。

①調査地周辺には、飯島氏の一族が居住した。

②館の四至は必ずしも堅牢な防御施設で囲まれていたわけではなかった。

③館の北東側には若森社があり、地域の北端には八幡社があった。

④若森社の北臨には、天竜川左岸地域に通じる道が通っていた。

今後慎重に検討を続けなければならないが、上記に対応して可能性のある事項を挙げておきたい。

①調査地周辺に居住した飯島氏一族は、初期の越領家の可能性がある。

②館の周辺には飯島氏の有力家人や従属する人たちが大勢住み、館に面した直営田をはじめ段丘付け根沿いの細長い範囲の水田に働き、また諸職に働いていた可能性がある。

③若森社は館の鬼門除けだった可能性がある。段丘面には若森社や八幡社のほかにも寺などが配された可能性がある。

④飯島氏は、天竜川左岸地域とのルートを重要視するとともに、そうした道を通じた交易の拠点として館のほど近くで市を運営した可能性がある。

言葉を換えて、再度この段丘面の中世のすがたを描いてみよう。ここにいた飯島氏の一族はこの段丘面に広く力を及ぼし、有力家人を周辺に住まわせ、社寺を要所に配置し、館に面した水田を直営田としていた。天竜川を通じて流通する物資や川を渡ってくる人や物の動きを監視できる位置に館を構え、「渡し」をとりしきり、「市」を管理した可能性もある。飯島氏や、その配下の有力者に従属する人びとは農業をはじめとする諸職に働いていた。

天竜川右岸を南北に結ぶ道など考慮しなかった点もあるが、のべてきたようなことからは、ここに住んだ飯島氏には、遠隔地の戦場に向かった武士でありながら、経済を中心とした合理的な地域支配を志向していた領主としての面が強くイメージされる。

絞れる限りの脳味噌を振り絞って、現段階で考えられる可能性を示してみたもののだが、今後の課題は尽きない。報告者としては、調査の結果生じた疑問を素直に申し惜しみせず報告することも今後の研究のためには捨石にはなるだろうと自らを慰めることにしたい。読者諸賢のご叱正・ご教示を切に願うものである。

表 6 柱穴一覧

No.	位置	上部平面形	下部平面形	上部(cm)		深さ 長軸 短軸 (cm)	底部(cm) 長軸 短軸	内容物 焼土 灰	開達確立 柱建物%	摘要
				長軸	短軸					
1	B-4	不整形	不整形	40	28	23	35	24	×	木片出土
2	A-4	不整円形	不整橢円形	39	31	21	34	20	○	下層に石2個
3	A-4	菱形	方形	27	26	15	16	16	○	丸底 繩文土器片出土
4	A-4	円形	円形	39	36	26	28	26	×	3
5	B-4	楕丸長方形	楕丸長方形	38	24	7	30	25	×	3
6	A-4	方形	方形	27	24	14	21	18	○	3
7	B-4	円形	楕丸方形	22	20	16	14	14	○	中層から縄文土器片出土
8	A-4	不整方形	不整方形	27	27	6	-	-	×	×
9	A-4	楕丸方形	楕丸方形			11			×	底は地山の石
10	A-4	菱形	楕丸方形	28	23	46	18	14	○	○
11	A-4	円形	円形	18	16	16	12	12	○	○
12	A-4	楕丸方形	楕丸方形	25	23	-	18	14	×	○
13	A-4	円形	円形	20	19	18	16	14	○	○
14	A-5	椭円形	椭円形	34	22	27	22	12	×	○
15	A-5	方形	方形	40	38	40	22	20	○	3
16	B-4	円形	円形	37	33	54	12	10	×	×
17	A-4	不整形 (3基重複)	円形			37	30	30	○	3
			円形						○	3
			円形						○	3
18	B-4	円形	円形	16	16	12	-	-	×	柱穴ではない
19	A-4	不整円形	精円形	26	25	16	18	14	×	○
20	A-4	方形	方形	24	22	28	20	14	×	3
21	A-5	不整円形	不整円形	42	40	32	28	24	○	3
22	A-4	椭円形	椭円形	30	22	8	-	-	×	○
23	B-5	不整円形	楕丸方形	20	19	30			○	○
24	B-5	長方形	長方形	26	20	55	16	12	○	○
25	A-5	楕丸長方形	楕丸方形	30	38	24	20	○	○	3
30	A-5	(2基重複)	楕丸方形	30	56	20	18	10	○	3
26	A-5	楕丸方形	楕丸方形	40	36	38	30	20	×	3
27	B-4	不整橢円形 (2基重複)	楕丸方形	50	28	33	18	16	○	3
			楕丸方形						○	3
28	B-4	楕丸方形	楕丸方形	34	30	30	26	18	○	3
29	B-5	椭円形	円形	23	17	19			○	○
31	A-5	円形	円形	30	26	43	24	20	×	○
32	A-5	楕丸方形	円形	24	19	23	14	12	×	○
33	B-5			20	18	24	14	13	○	3
34	B-4	不整方形	方形	40	34	45	16	16	×	3
35	A-5	方形	方形	33	28	7	25	18	○	○
36	A-5	椭円形	円形	35	17	45	16	16	×	○
37	A-5	楕丸方形	楕丸方形	20	19	15	18	15	×	×
38	B-5	方形	方形	15	15	18	10	10	○	3
39	B-5	長方形	長方形	15	14	18	8	6	×	○
40	B-5	椭円形	楕丸長方形	40	26	14	23	14	○	3
41	B-5	三角形	三角形	40	36	-	30	24		
42	B-5	楕丸形	楕丸長方形	42	26	48	28	16	×	○
43	A-5	椭円形	精円形	29	25	6	-	-	×	○
44	B-5	不整形	不整形	45	35	25			○	
45	B-5	椭円形	楕丸長方形	22	14	13	11	8	×	×
46	B-6	椭円形	椭円形	26	16	13	14	8	×	×
47	C-5	不整形 (2基重複)	楕丸方形	18	14	14	13	10	○	○
48	C-4	不整形	不整形	30	26	15	-	-	○	底部凸凹 縄文土器片出土
49	B-5	楕丸方形	楕丸方形	23	22	-	15	15	×	○
50	A-6	円形	椭円形	35	32	56	26	20	○	4 焼土・灰は上部に多い
51	A-6	円形	楕丸方形	38	38	49	22	20	○	4 焼土・灰は上部に多い
52	B-6	長方形	長方形	20	14	18	10	8	×	×
52	B-6	椭円形	椭円形	14	10	13	10	7	×	×
53	B-6	不整円形	不整円形	35	30	4	25	25	○	○
54	C-5	方形	方形	15	13	11	13	10	×	○
55	B-6	楕丸方形	楕丸方形	22	22	12	12	12	×	×
56	B-6	不整方形	楕丸長方形	26	20	13	16	12	×	×
58	B-6	不整形	不整形	50	30	43	24	22	○	4 底中央部のみさらに細くとがった穴になる 方形2基重複?
59	B-6	楕丸方形	楕丸方形	23	20	29	15	13	○	4
60	B-6	楕丸方形	楕丸方形	20	20	39	18	16	×	○
61	C-5	椭円形	精円形	21	17	16	17	10	×	○
61	C-6	円形	精円形	20	18	16	16	10	×	○
62	B-5	不整椭円形	椭円形	16	10	13	8	6	×	×
63	C-6	不整方形	不整椭円形	20	17	16	16	8	×	○
64	B-5	不整円形	不整円形	40	30	32	28	18	×	4 底部凸凹

No.	位置	上部平面形	下部平面形	上部(cm) 長軸 短軸	深さ (cm)	底部(cm) 長軸 短軸	内容物	周邊構立 柱建物No.	摘要	
									横軸	埋軸
65	A - 6	方形	方形	24 21	20	14 12	×	○	4	
66	A - 6	?	?	23 20	20	15 15	×	○		
67	B - 6	不整円形	不整円形	32 24	—	22 16	○	○		
68	B - 6	不整円形	不整円形	43 37	10	—	○	○		
69	A - 6	隅丸方形	隅丸方形	20 18	18	10 10	×	×		
70	A - 6	円形	隅丸方形	40 38	48	28 26	×	×	4	中心部12×11cmの隅丸方形に黒色土
71	A - 7	隅丸方形	円形	24 18	27	11 11	×	×	4	
72	A - 7	不整円形	不整円形	20 19	12	11 9	×	×		丸底
73	A - 7	不整円形	不整楕円形	27 26	16	20 14	×	○	4	丸底
74	B - 6	方形	隅丸方形	24 24	18	18 16	○	○	4	
75	B - 6	不整方形	長方形	17 16	20	12 9	×	×		
76	C - 6	方形	点	18 17	24	—	—	×		底部は細くとがる
77	C - 6	方形	方形	20 18	20	14 14	×	×		底中央部のみさらに細くとがった穴になる
78	A - 6	方形	不整円形	20 20	25	16 11	×	×		
79	A - 6	隅丸方形	長方形	24 24	27	18 6	×	×	4	
80	A - 7	不整形	不整形	40 30	22	—	—	—		
81	B - 6	不整円形	不整円形	22 22	18	18 18	×	×	4	底中央部のみさらに細くとがった穴になる
82	B - 6	長方形	長方形	21 13	11	18 11	×	×		
83	A - 7	不整形	円形	35 30	35	24 20	×	×	4	輪郭不明
84	A - 7	隅丸方形	不整円形	40 35	21	14 12	×	×	4	
85	A - 6	不整形	不整形	22 18	11	15 15	×	×	4	
86	B - 6	方形	隅丸方形	19 19	28	14 13	○	○	4	
87	B - 6	円形	円形	17 17	13	14 14	×	×	4	
88	B - 6	長方形	長方形	20 14	33	15 9	×	×		
89	B - 7	方形	円形	15 15	26	10 10	×	×		輪郭不明
90	B - 7	長方形	楕円形	33 24	34	24 12	×	×		縄文土器片出土
91	B - 7	不整形	不整形	—	—	—	○	○		縄文土器片出土
92	A - 7	円形	不整椭円形	16 16	18	10 6	×	×		
93	B - 7	隅丸方形	円形	22 18	20	7 7	×	×	4	
94	A - 7	不整形	円形	40 32	15	18 18	×	×		輪郭不明
94	B - 7	—	—	25 18	18	—	—	—		輪郭不明
95	B - 7	不整形	不整形	40 30	—	—	—	×		輪郭不明
96	B - 7	方形	方形	17 17	8	12 12	×	×		丸底 輪郭不明
97	A - 6	隅丸方形	隅丸方形	23 21	20	12 10	×	×	4	
98	A - 6	隅丸方形	隅丸方形	23 22	21	18 14	×	×	4	
99	B - 7	不整円形	円形	25 20	35	13 10	×	×	4	輪郭不明
100	B - 7	円形	隅丸方形	20 19	24	14 12	○	○	4	
101	B - 7	楕円形	長方形	22 19	20	13 10	○	○	4	内可駆鐵片3点出土
102	A - 7	不整方形	長方形	50 40	33	40 26	×	×		輪郭不明
103	A - 7	隅丸方形	隅丸方形	18 16	33	12 10	×	×		
104	A - 7	円形	隅丸方形	16 15	23	10 10	×	×		縄文土器片出土
108	A - 2	不整長方形	長方形	27 14	12	12 8	×	×		縄文土器細片出土
109	A - 2	円形	楕円形	34 34	12	22 12	×	×		
110	A - 3	不整円形	不整円形	28 28	13	18 16	×	×		底部に石 鉄釘出土
112	A - 3	不整形	不整形	38 36	19	34 30	—	—		
113	A - 2	方形	方形	25 21	39	16 15	×	○		底部に石
114	A - 3	隅丸方形	円形	24 22	30	12 12	×	×		
115	A - 3	楕円形	楕円形	26 20	22	14 10	○	○		石を塊に116と接する
116	A - 3	隅丸方形	隅丸方形	30 28	26	20 19	×	×		石を塊に115と接する
117	B - 3	楕円形	楕円形	19 15	13	14 8	×	×		
118	A - 2	楕円形	楕円形	50 30	—	36 20	×	×		
119	A - 2	不整形 (2基重複)	隅丸方形	41 26	20	24 20	○	○		炭化物あり
121	B - 3	不整長方形	不整長方形	29 27	14	26 22	×	×		2基重複？ 下層から鉄製品・縄文土器片出土
122	A - 2	不整形	不整形	35 30	14	—	—	○	○	山茶碗破片出土
123	A - 2	円形	隅丸方形	30 28	34	28 23	○	○		底部に20×14cmの平石 片口鉢破片出土
124	A - 2	円形	円形	23 21	18	20 14	○	○		上部に灰・焼土、その周りに小石あり 底部に石
125	B - 3	楕円形	楕円形	30 15	11	14 10	×	×		2基重複？
126	A - 2	円形	円形	25 25	13	20 16	○	○		
127	A - 3	不整円形	不整円形	25 20	18	14 12	—	—		
128	B - 3	円形	円形	23 23	20	18 16	—	—		
129	A - 2	隅丸方形	隅丸方形	26 25	29	18 18	○	○		縄文土器片・片口鉢破片出土
130	A - 2	円形	円形	20 20	10	10 8	—	—		
131	A - 2	不整形 (2基重複)	楕円形	25 20	18	20 13	○	○		底部に石
132	A - 2	長方形	方形	28 19	15	18 18	—	—		
133	A - 2	不整形	不整形	20 20	16	—	—	—		この付近は疊多く凸凹の地形
134	A - 2	楕円形	隅丸方形	34 20	11	16 13	○	○		
135	A - 2	円形	隅丸方形	24 24	11	22 18	—	○		上層に炭
136	A - 2	長方形 (2基重複)	楕円形	30 19	20	14 13	—	—		
137	A - 2	隅丸方形	隅丸方形	27 27	31	20 18	○	○		

No.	位置	上部平面形	下部平面形	上部(cm)		深さ(cm)	底幅(cm)	長軸 短軸	内 容 物	周邊樹立 柱建物%	構 墓 要
				長軸	短軸						
138	A-2	円形	円形	12	11	8	—	—	×	×	純文土器片出土
139	A-2	隅丸方形	隅丸方形	28	26	21	12	12	○	○	
140	A-2	方形	隅丸方形	28	28	60	21	21	×	×	
141	A-1	楕円形	円形	20	15	21	13	11	○	×	
142	A-2	隅丸方形	隅丸方形	22	22	32	18	18	×	○	底部に石
143	A-2	隅丸長方形	隅丸長方形	28	18	23	19	14	×	×	底部に石
144	A-1	隅丸方形	隅丸方形	24	24	17	14	12	○	○	
145	A-2	不整形	不整形	30	24	37	—	—	○	○	
146	A-2	円形	隅丸方形	47	46	47	18	16	○	○	炭化物あり
149	A-2	不整形	隅丸方形	—	—	43	20	16	×	○	柱状に黄褐色土が入る
148	A-2	(3基重複)	隅丸方形	—	—	58	22	20	○	○	柱状に黄褐色土が入る 下層に灰
150	A-2	隅丸方形	隅丸方形	—	—	48	20	16	×	○	
151	A-2	方形	方形	20	19	16	14	10	×	×	
152	A-2	楕円形	楕円形	40	24	35	22	16	×	×	
153	B-2	隅丸方形	不整円形	30	28	48	20	14	○	○	2
153	B-1	菱形	円形	—	—	—	—	—	—	—	1
154	A-1	隅丸方形	不整方形	25	25	25	20	16	○	×	
155	A-2	隅丸長方形	隅丸方形	30	22	21	18	18	×	×	
157	A-1	隅丸方形	隅丸方形	23	20	36	20	14	—	—	
158	A-1	隅丸方形	隅丸方形	23	22	38	20	16	—	—	
159	A-1	不整形	不整形	38	35	32	26	24	—	—	
160	A-1	長方形	長方形	32	21	33	28	12	×	×	
161	A-1	方形	円形	26	20	27	12	10	×	×	
162	A-1	方形	方形	22	14	15	14	12	×	×	
163	A-1	円形	円形	31	30	58	18	16	○	○	上層から中津川鹿片口鉢下部・胴部各1点出土 下層に炭
164	A-1	方形	不整方形	28	26	37	20	14	—	—	
165	A-1	隅丸方形	隅丸方形	22	22	14	14	14	—	—	
166	A-1	隅丸方形	隅丸方形	30	28	23	23	20	○	○	1
167	A-1	不整円形	不整円形	35	28	13	26	20	○	○	1
168	A-1	円形	円形	30	26	—	16	16	○	○	上層から鉄
169	A-1	隅丸方形	隅丸方形	40	33	30	12	12	○	○	1
170	A-1	楕円形	円形	26	16	10	10	8	○	○	中層に礎化物 土器片出土
170	B-2	(2基近接)	楕円形	24	20	—	16	12	○	○	
171	A-1	不整形	不整円形	28	24	9	16	16	○	○	
172	A-1	不整方形	不整方形	24	20	43	20	14	○	○	
173	A-1	長方形	長方形	23	20	30	20	14	○	○	土坑内にあり、土坑上面には配石
174	A-1	長方形	長方形	25	25	36	20	16	○	○	土坑内にあり、土坑上面には配石
175	B-2	方形	方形	24	24	23	18	12	×	×	土坑内にあり、土坑上面には配石
176	A-1	円形	円形	26	20	21	10	10	—	—	
177	A-1	方形	方形	23	21	26	12	10	○	×	1
178	A-1	方形	隅丸方形	25	24	60	—	—	○	○	底部に小角礫2
179	B-1	不整方形	隅丸方形	20	17	21	14	12	×	×	
180	A-1	隅丸方形	方形	32	30	55	18	14	○	○	1 純文土器片出土
181	A-1	隅丸方形	隅丸方形	28	28	23	14	14	—	—	1
182	A-1	長方形	方形	38	30	40	16	14	○	○	1 西南上面に石
183	A-1	方形	方形	18	17	11	12	10	—	—	1
184	A-0	隅丸方形	隅丸方形	30	28	30	20	20	—	—	
185	A-0	隅丸方形	隅丸方形	26	20	33	12	12	—	—	1
186	A-0	隅丸長方形	隅丸方形	37	26	26	16	16	×	○	1 上層に炭
187	B-2	楕円形	長方形	34	24	15	20	14	×	×	
188	A-1	不整方形	不整方形	22	26	20	18	16	—	○	1
189	A-1	方形	方形	20	14	10	12	10	×	×	1 純文土器片出土
190	A-1	楕円形	楕円形	25	18	49	12	8	—	—	1 純文土器片出土
191	B-1	隅丸方形	隅丸方形	26	26	35	20	20	×	○	1
192	A-0	不整方形	不整方形	38	23	45	28	20	×	○	下層に炭
193	B-1	隅丸方形	隅丸方形	29	29	22	18	18	○	×	1 中層から純文土器片出土
194	A-1	長方形	隅丸方形	32	20	—	14	13	○	○	1
195	A-0	隅丸長方形	隅丸方形	35	30	43	28	26	—	—	1 深さ7cmに30×30×14の平石あり
196	B-0	不整円形	不整円形	30	27	9	20	16	○	○	
197	B-0	不整方形	不整方形	40	—	9	25	—	○	○	
198	B-0	下盤円形	不整円形	32	30	17	22	20	○	○	
199	B-0	隅丸方形	方形	26	24	20	10	10	○	○	
200	B-0	方形	方形	40	36	34	—	—	○	○	2 中層・下層に石各1
201	B-2	隅丸方形	隅丸方形	24	20	18	16	14	○	○	
202	A-0	隅丸方形	隅丸方形	25	25	15	18	18	○	○	下層に焼土・炭
203	B-1	方形	方形	30	25	—	20	18	—	—	1 底部に14×14×10cmの石と小焼石
204	A-0	長方形	長方形	33	16	—	22	11	○	—	
205	A-0	方形	隅丸方形	18	16	8	14	10	—	—	
206	B-1	隅丸方形	隅丸方形	30	24	12	14	14	×	×	

No.	位置	上部平面形	下部平面形	上部(cm)		底面(cm)	内容物	関連発立 社建物No.	摘要
				長軸	短軸				
207	A - 1	方形	隅丸方形	34	28	18	24 16	×	下層から内耳鉢片4点出土 繩文土器片出土
208	A - 0	隅丸方形	隅丸方形	40	40	50	19 18	×	
208-A	0	隅丸方形	隅丸方形	28	24	40	20 16	-	
209	B - 2	不整形	不整方形	30	20	5	20 20	○	-
210	B - 2	隅丸方形	隅丸方形	16	16	10	13 10	○ ○	
211	B - 2	隅丸方形	方形	20	15	12	16 14	○ ○	
212	B - 2	隅丸方形	隅丸方形	22	21	28	18 16	○ ○	上層の壁に20×15×10cmの石
213	B - 0	隅丸方形	不整方形	26	25	30	20 16	○ ○	
214	B - 1	隅丸方形	隅丸方形	23	22	17	14 12	○ ×	1
215	B - 1	方形	方形	23	22	34	○ ○	-	1
216	B - 1	隅丸方形	方形	26	22	21	14 12	○ ○	1 下層から土器片出土
217	A - 1	長方形	長方形	35	30	33	28 26	○ ○	1
218	A - 1	楕円形	楕円形	48	36	42	28 24	○ ○	1 複さ12cmのところに平面を上にして石あり、さらに下層に合計4段10~25cmの石が重なる
218-B	0	隅丸方形	隅丸方形	22	20	42	14 12	○ ○	
219	A - 1	方形	方形	21	21	-	12 12	-	1
219-B	0	楕円形	隅丸方形	30	20	-	16 14	-	
220	A - 0	(2基重複)	不整形	70	48	23	20 18	-	1
221	B - 1	不整方形	不整形	30	20	-	18 14	×	
222	B - 1	隅丸方形	隅丸方形	28	26	43	18 16	○ ○	
223	B - 1	楕円形	楕円形	29	28	34	24 20	×	○ ブロック状灰
224	A - 0	不整形	不整形	38	37	32	24 20	○ ○	
225	A - 0	長方形	方形	22	16	-	12 12	×	上層から繩文土器片出土
226	B - 2	不整形	隅丸方形	34	28	62	24 16	×	2 次輪の柱穴を切る 鉄鋤出土
	(2基重複)	隅丸方形	隅丸方形	42	33	49	24 20	×	2 上面に大石 242と前窓の柱穴に切られる
227	B - 1	楕円形	隅丸長方形	28	20	43	21 14	○ ○	中層に22×16cm平石 平石上に炭
228	B - 1	円形	方形	30	30	60	23 18	○ ○	2 底部に石
229	B - 1	隅丸方形	方形	28	26	17	18 18	○ ○	2 片口鉢出土
230	B - 1	方形	方形	24	24	32	20 20	○ ○	2 鉄片出土
231	B - 1	隅丸方形	隅丸長方形	30	24	30	22 14	○ ○	2 鉄片出土
231-B	1	隅丸長方形	隅丸長方形	24	18	36	20 12	○ ○	2 鉄片出土
232	B - 1	不整形	楕円形	30	24	-	24 14	×	
233	B - 1	楕円形	円形	33	30	34	20 18	○ ○	
234	B - 1	隅丸方形	隅丸方形	35	35	42	30 20	○ ○	2 L形鉄製品出土
235	B - 1	方形	方形	40	36	10	30 24	○ ○	
236	B - 1	隅丸方形	隅丸方形	28	25	52	16 16	○ ○	2 上層東側に長径20cmほどの石 中層にも小石あり 底部から古瀬戸灰陶平輪平口縁部・古瀬戸鉄塊縁棒小豆底部出土
237	B - 1	隅丸方形	隅丸方形	21	20	22	16 16	○ ○	
238	B - 1	隅丸方形	隅丸方形	21	21	15	16 16	○ ○	2
239	B - 1	不整形	隅丸方形	28	16	9	14 13	×	
240	B - 1	楕円形	楕円形	23	19	6	18 12	×	
241	B - 1	方形	方形	20	20	22	12 12	○ ○	底中央に径8cmの円形ピットあり
242	B - 2	隅丸方形	隅丸方形	36	29	65	24 19	○ ○	2 226を切る
243	B - 1	円形	円形	27	25	27	16 12	-	-
244	B - 1	不整方形	方形	30	23	10	20 18	-	-
245	B - 1	方形	方形	24	23	7	18 16	○ ○	
246	A - 0	長方形	長方形	34	24	42	24 18	×	底部に木質廻り柱・柱材?
248	B - 1	隅丸方形	隅丸方形	23	20	-	15 13	○ ○	2 繩文土器細片出土
249	B - 1	円形	隅丸方形	28	28	56	22 22	○ ○	2
250	B - 1	隅丸方形	梅円形	28	28	65	24 19	○ ○	2 上面に20個の石、内割石9個
251	B - 1	隅丸方形	隅丸方形	20	18	23	14 13	○ ○	2 繩文土器細片出土
252	B - 1	隅丸方形	隅丸方形	20	20	43	-	-	2
253	B - 1	隅丸方形	隅丸方形	23	23	48	20 16	○ ○	2
254	B - 1	隅丸方形	隅丸方形	28	24	46	18 14	○ ○	2 下層に灰・焼土、繩文土器片
255	A - 0	長方形	長方形	26	16	11	18 8	○ ○	2 土器2枚出土
256	A - 0	円形	隅丸方形	36	34	38	20 20	○ ○	2 鉄製品破片出土
257	A - 0	方形	方形	18	16	15	12 10	○ ○	
258	A - 0	長方形	長方形	32	19	17	20 15	○ ○	
259	A - 0	不整方形	不整方形	21	16	15	12 10	○ ○	
260	B - 1	不動円形	楕円形	23	22	22	11 8	○ ○	
261	B - 1	不動円形	楕円形	30	30	30	22 16	○ ○	2
262	B - 1	長方形	後方形	32	21	26	24 16	○ ○	2 中層に丸石 下層に灰・焼土
263	B - 2	隅丸長方形	隅丸長方形	36	34	13	26 18	×	
264	C - 1	楕円形	梅円形	24	19	12	14 12	○ ○	底に丸石
265	C - 1	隅丸方形	不整形	26	22	8	16 12	○ ○	
266	B - 1	隅丸方形	隅丸方形	30	27	35	16 16	○ ○	
267	C - 1	円形	不整形	24	24	5	-	○ ○	底面凸凹
268	B - 1	長方形	長方形	24	20	20	18 12	○ ○	2 上層に鶴石多い 鉄片出土
269	C - 1	円形	円形	29	27	26	12 12	×	2
270	B - 1	方形	方形	29	26	39	22 18	○ ○	2 漏戸産指鉢副部出土

No.	位置	上部平面形	下部平面形	上部(cm)	深さ 長軸 短軸	底部(cm)	長軸 短軸	出土 土 士	内容物	調査結果	摘要
					(cm)					柱遺構No.	
271	B - 1	隅丸方形	隅丸方形	22	20 27	12	12	○ ○			
272	B - 1	方形	方形	19	16 38	14	14	○ ○			
273	B - 1	不整方形	不整方形	34	18 32	20	12	○ ○	2	古瀬戸灰陶平底口縁部出土	
273	B - 1	不整形	不整形								2
274	C - 1	椭円形	椭円形	30	24 25	24	18	○ ○	2		
275	C - 1	方形	方形	15	15 12	10	8	× ○	2		
276	B - 1	方形	方形	28	24 15	18	18	○ ○	2		
277	B - 1	楕円形	椭円形	24	22 13	20	14	○ ○			
278	C - 1	隅丸形	隅丸形	24	19 22	17	15	× ○		中層にブロック状炭 下層から土器片・石	
279	C - 1	隅丸方形	方形	22	20 11	13	12	○ ○		古瀬戸灰陶平底胴下部出土	
280	C - 1	椭円形	椭円形	35	30 55	30	15	○ ○	2	底近くに川原石	
281	C - 1	円形	内形	27	7 4	26	24	○ ○	2		
282	C - 1	椭円形	椭円形	42	30 23	36	28	○ ○	2	古瀬戸灰陶平底胴下部出土	
283	C - 1	不整方形	隅丸方形	40	30 55	24	22	○ ○	2	底部に炭化物	
284	C - 1	椭円形	内形	38	23 27	23	21	× ○		上層に炭化物多い	
285	C - 1	円形	内形	27	27 20	22	18	○ ○	2		
287	C - 1	隅丸形	隅丸形	21	19 23	20	16	× ○			
288	C - 1	隅丸方形	隅丸形	20	18 27	18	10	× ○			
289	C - 1	椭円形	隅丸方形	34	28 62	18	16	× ○	2		
290	C - 1	隅丸形	隅丸形	28	27 43	20	18	× ○			
291	C - 1	椭円形	隅丸方形	26	23 15	12	12	× ×			
292	C - 1			36	25 55	20	18	× ○			
293	C - 1	方形	方形	19	18 13	13	12	× ×	2		
294	C - 1	隅丸方形	楕円形	17	16 11	12	8	× ×			
295	C - 1	不整椭円形	内形	38	30 31	16	16	× ○	2	表面に灰・小焼割石 内耳鍋破片出土	
296	C - 1	円形	内形	25	24 14	18	14	× ×			
297	C - 1	長方形	長方形	29	19 9	20	10	× ×			
298	C - 1	方形	方形	22	22 35	17	16	× ○			
299	C - 1	不整方形	不整方形	28	25 25	22	18	× ○			
300	C - 1	不整形	不整形	28	20 18	14	14	× ○			
301	C - 1	方形	方形	17	21 20	10	8	× ○			
302	C - 1	方形	方形	26	- 45	12	12	× ○			
303	C - 1	不整方形	不整方形	28	20 27	20	18	× ○			
304	C - 1	不整方形	不整方形	30	25 20	26	24	× ○			
305	C - 1	隅丸形	隅丸方形	24	22 30	18	14	× ○			
306	C - 1	隅丸方形	隅丸方形	21	16 34	16	16	○ ○			
307	C - 1	椭円形	椭円形	23	26 27	17	14	× ○			
308	C - 1	不整形	不整形	22	22 25	16	12	× ○		中津川産變岐片出土	
309	C - 1	方形	方形	19	18 29	11	10	× ○			
310	C - 1	隅丸方形	内形	21	19 21	13	12	× ○			
311	C - 1	隅丸方形	隅丸方形	25	20 35	16	13	× ○			
312	C - 1	隅丸方形	隅丸方形	32	30 28	24	22	× ○			
313	C - 1	隅丸形	隅丸方形	32	28 32	20	16	× ○			
314	C - 2	方形	方形	22	20 13	12	10	× ○			
315	C - 2	不整内形	隅丸方形	28	27 51	18	14	○ ○	2	下層に炭化物あり	
316	C - 1	不整円形	隅丸方形	30	30 42	20	16	○ ○	2	中層に灰石 底部にブロック状炭	
317	C - 1	隅丸方形	隅丸方形	37	30 65	20	18	○ ○	2	内耳鍋破片 2点出土	
318	C - 1	円形	隅丸方形	30	30 20	20	18	× ○	2		
319	C - 2	隅丸長方形	隅丸方形	44	30 17	20	18	× ○		底部凸凹	
320	C - 2	長方形	方形	36	20 13	18	18	× ×	2	上層から繩文土器片出土	
321	C - 1	隅丸方形	隅丸方形	27	25 20	12	12	○ ○		底部凸凹	
322	C - 2	方形	方形	23	23 28	18	17	○ ○	2		
323	C - 2	隅丸方形	長方形	30	26 16	22	16	○ ○	2	上層に焼けた削れた石多い 上・中層からこね鉢破片・繩文土器片各1出土	
324	C - 2	方形	方形	25	22 19	13	13	○ ○			
325	C - 2	隅丸方形	隅丸方形	20	17 22	17	10	○ ○			
326	C - 1	隅丸方形	隅丸方形	28	22 12	18	16	× ○	2	内耳鍋破片出土	
327	C - 2	長方形	方形	20	15 17	15	15	× ○		底部凸凹	
328	C - 1	不整梢円形	不整形	45	20 17	24	12	○ ○		底部凸凹	
329	C - 1	不整形	不整形	21	21 8	14	10	× ○			
330	C - 2	楕円形	梢円形	20	16 19	11	10	× ×		古瀬戸灰陶平底破片出土	
331	C - 2	不整方形	方形	21	17 22	12	11	× ×			
332	C - 2	長方形	方形	20	15 14	14	14	× ×			
333	C - 2	楕円形	梢円形	25	20 26	16	10	○ ○		底部凸凹 條文土器片出土	
334	C - 2	不整形	不整形	34	28 19	14	14	× ○		中層に炭化物多い	
335	B - 2	隅丸方形	隅丸民方	22	26 14	16	10	○ ○		底中央部はさらに円形に偏る	
336	B - 2	円形	長方形	20	20 16	18	12	× ×		内耳鍋破片出土	
337	B - 1	方形	方形	17	17 6	12	9	× ×			
338	C - 2	円形	内形	17	15 34	16	14	× ○	2		
339	C - 2	楕円形	隅丸方形	30	30 60	18	18	○ ○	2	底部に魔敷木片様のものあり	
340	C - 2	楕円形	隅丸方形	44	28 56	19	18	○ ○	2		
341	B - 2	隅丸方形	隅丸方形	25	23 43	16	12	× ○			

No.	位置	上部平面形	下部平面形	上部(cm)		深さ 長軸 短軸 (cm) (cm)	底部(cm)	内容物 長軸 短軸 焼土 灰	開発断面 柱建物%	摘要		
				長軸	短軸					長軸	短軸	
342	B-2	不整形	長方形	28	17	14	18	12	○ ○	2		
343	C-2	不整円形	不整円形	33	25	10	-	-	×	2	九底	
344	B-2	不整形	不整形	55	40	43			○	2	石7個で柱穴上面をふさぐ	
345	C-2	不整形	隅丸方形	27	27	40	15	15	○ ○			
346	C-2	隅丸方形	隅丸方形	28	24	63	19	18	○ ○ ○	2		
347	C-2	隅丸方形	円形	25	24	65	10	10	○ ○ ○			
348	B-2	隅丸方形	隅丸方形	29	28	23	20	20	○ ○ ○	2		
349	C-2	不整形	長方形	33	17	14	20	12	○ ○	2	2基重複?	
350	B-2	楕円形	楕円形	32	27	52	25	20	×	○	2	下層に炭化物
351	C-3	隅丸方形	隅丸方形	25	22	30	14	12	×	○		
352	C-3	隅丸方形	隅丸方形	17	17	14	12	9	×	○		
353	C-2	隅丸方形	方形	21	21	25	14	14	×	○	2	
354	B-2	不整円形	楕円形	27	23	28	13	10	- -			
355	B-2	方形	方形	32	30	55	24	22	×	○	2	上層に焼御石あり 下層に炭多い
356	B-2	円形	隅丸方形	23	22	46	18	15	×	○	2	下層に炭化物あり
357	B-2	隅丸民方形	方形	21	17	15	16	16	×	○		
358	C-1	方形	方形	19	17	10	14	11	○ ○	2		
359	C-1	不整形	不整形	26	-	16	-	-	○ ○			
360	B-1	不整長方形	不整長方形	32	28	22	28	29	×	○		
360	B-1	不整形	不整形	42	24	-	32	18	- -			
361	B-3	隅丸方形	隅丸方形	29	25	23	16	16	×	○	2	釘状の鉄製品出土
362	B-3	楕円形	円形	18	16	19	8	8	×	○		
363	B-2	隅丸方形	隅丸方形	22	21	11	11	10	○ ○			
364	B-2	隅丸方形	隅丸方形	24	24	6	20	16	○ ○			
365	B-2	楕円形	楕円形	25	20	15	18	11	○ ○			
366	B-3	楕円形	楕円形	41	29	20	24	16	×	○		
368	C-2	長方形	方形	30	25	34	20	20	○ ○	2		
369										2		
370	C-2	円形	円形	23	22	70	20	19	×	○	2	上層は繪郭不明
371	C-3	方形	円形	19	18	21	13	12	○ ○			
372	C-3	楕円形	楕円形	22	20	22	18	15	○ ○			
373	C-3	円形	楕円形	25	24	9	17	13	○ ○			
374	C-3	隅丸方形	隅丸方形	22	22	21	12	10	×	○		
375	C-3	方形	不整方形	20	18	22	12	12	×	○		
376	C-1	不整椭円形	円形	37	27	40	23	23	○ ○			
377	C-2	不整形	不整形	25	20	34	13	13	○ ○	2		
377	B-3									2		
378	C-2	長方形 (2面近接)	方形 隅丸方形	47	28	25	22	20	○ ○	2		
379	B-3	方形	方形	22	18	20	14	14	×	○		
380	B-2	隅丸方形	隅丸方形	25	22	37	15	14	○ ○		九底 炭が多い	
381	B-3	不整形	不整形	20	16	9	12	8	○ ○		底部は西側が深い	
382	B-2	楕円形	楕円形	26	18	6	20	14	○ ○			
383	B-2	方形	長方形	22	20	19	15	7	○ ○			
384	C-1	隅丸方形	隅丸方形	24	24	26	-	-	×	○		
385	C-3	楕円形	楕円形	22	18	14	16	8	×	○		
386	B-3	隅丸方形	方形	22	20	15	14	14	○ ○			
387	C-3	楕円形	楕円形	19	15	7	11	7	○ ○			
388	C-3	不整椭円形	楕円形	25	19	9	16	10	○ ○			
390	C-3	長方形	楕円形	50	26	40	26	18	○ ○			
391	B-1	不整形	不整形	21	20	-	-	-	×	○	1	鉄製品破片出土
391	B-1	不整形	不整形	21	20	-	-	-	○	1	壁穴内 壁穴上層を掘り込み壁穴床面には進さない 底に石	
392	B-1	方形	方形	20	19	-	-	-	○	1	壁穴内	
393	B-1	隅丸方形	隅丸方形	26	23	48	-	-		2	壁穴内	
394	B-1	隅丸長方形		50	30	48			○ ○	2	壁穴内 上面焼け、削石あり 壁穴内には10~25cm大の石が3枚(間に土に入る)	
395	B-0	隅丸方形	隅丸方形	30	25	40	20	20	○ ○			壁穴内
396	B-0	隅丸長方形	隅丸長方形	24	16	45	17	14	○ ○			壁穴内
397	B-1			16	13	30	6	6	○ ○	2		
398	B-0	隅丸方形	楕円形	21	19	44	12	9	○ ○	1	壁穴内	
399	B-0	隅丸方形	隅丸方形	20	20	40	14	14	○ ○	1	壁穴内	
400	A-1	楕円形	楕円形	29	18	22	18	14	○ ○	1		
401	A-0	方形	方形	30	25	48	18	14	×	×	1	
402	A-0	円形	円形	34	33	47	22	22	×	○		中層に炭
403	A-0	不整円形	不整円形	30	28	42	24	20	○ ○			
404	A-1	楕円形	楕円形	40	37	46	26	20	- -			
405	A-1	不整形	不整形	40	27	14	28	28	○ ×			
406	A-0	楕円形	楕円形	16	13	22	9	7	×	○		
407	B-1	円形	円形	23	21	50	20	14	- -	1	壁穴内	
408	B-1	隅丸方形	隅丸方形	23	21	50	18	14	- -	1	壁穴内	
409	A-0	隅丸方形	隅丸方形	28	28	35	16	16	×	○		
410	A-0	円形	隅丸方形	28	28	18	23	20	○ ○		上面は燒土 中国産黒瓦の瓦脚部出土	

No	位置	上部平面形	下部平面形	上部(cm)	深さ(cm)	底部(cm)	内容物	調査概要	摘要
				長軸 短軸	長軸 短軸	長軸 短軸	焼土 炭	柱建物%	
411	A - 0	不整円形	不整円形	30 30	32	20 16	○ ○		
412	A - 0	楕丸方形	楕丸方形	26 25	37	12 12	○ ○		上層は焼土
413	A - 0	不整形	楕丸方形	30 20	25	18 16	○ ○		上面焼土
415	A - 0	楕丸方形	楕円形	23 21	29	22 14	× ×		底に石
416	A - 0	不整円形	不整円形	30 24	30	24 20	○ ○		下層に3~10cmの礫10個
417	A - 0	楕丸方形	楕丸方形	25 25	41	22 20	○ ○		中層から古瀬戸灰釉平楕口縁部出土 下層に炭
418	A - 0	楕丸方形	楕丸方形	27 24	41	18 18	× ○		
419	A - 0	四形	不整円形	24 22	36	16 16	○ ○		下層に平石
420	A - 0	楕円形	楕円形	37 26	40	24 20	—		底に九石
421	A - 0	楕丸長方形	楕丸長方形	35 26	42	26 18	○ ○		中層に石
422	A - 0	楕丸方形	楕丸方形	26 24	—	20 18	○ ○		中層に焼石、黒曜石1点出土
423	B - 0	楕丸長方形	楕丸長方形	50 40	40	44 36	○ ○		10~20cm大の石が投げ込まれたように3段入る鉄釘破片出土
424	A - 0	方形	方形	19 19	14	12 12	○ ○		
425	A - 0	不整方形	不整円形	29 25	15	25 25	○ ○		
426	A - 0	方形	不整方形	28 25	15	— —	— —		
427	B - 0	楕丸方形	楕丸方形	28 20	23	10 10	○ ○		
428	B - 0	四形	楕丸方形	33 33	33	26 22	○ ○		
429	A - 0	方形	方形	19 16	16	— —	○ ○		
430	A - 0	長方形	楕丸長方形	— —	36	40 36	○ ○		
431	B - 0	不整長方形	不整長方形	47 33	48	40 24	○ ○		上面に石
432	A - 0	方形	方形	23 20	23	16 13	○ ○		下層に炭
433	A - 0	楕丸方形	楕丸方形	23 20	12	14 12	○ ○		
434	A - 0	楕丸方形	楕丸方形	28 23	13	22 18	○ ○		底に石
435	B - 0	楕丸方形	楕丸方形	34 30	26	20 20	○ ○		
436	B - 0	方形	不整方形	18 16	16	10 8	○ ○		
437	B - 0	方形	方形	20+ 17	20	10+ 13	○ ○		
438	B - 0	不整椭円形	不整椭円形	35 25	11	25 20	○ ○		下層に石
439	B - 0	楕丸方形	楕丸長方形	44 42	41	42 32	○ ○		純石・要砾片出土
440	B - 0	不整方形	不整方形	45 37	37	34 30	○ ○		土器片出土 中層に石・燒制石
441	A - 2	方形	方形	26 26	30	24 20	○ ○		
441	A - 1	不整方形	不整方形						
442	B - 3	楕丸方形	楕丸方形	22 22	12	13 12	○ ○		5~12cmの焼石5個
443	B - 0	楕丸長方形	不整長方形	23 19	15	20 16	○ ○		
444	B - 0	不整方形	楕丸長方形	42 35	45	28 23	○ ○		
445	C - 3	楕丸方形	楕丸方形	22 19	19	10 10	○ ○		山茶柄破片・繩文土器片出土
446	C - 3	楕丸方形	楕丸方形	21 20	21	12 12	— —		
447	C - 3	楕円形 (2基近隣)	楕円形	25 17	17	7 7	○ ○		丸底
448	B - 3	不整長方形	長方形	27 22	40	22 12	○ ○	2	底は礁層
449	C - 3	不整長方形	不整長方形	22 17	32	20 8	— —		
450	C - 3	楕丸方形	楕丸方形	20 20	21	14 14	○ ○		
451	C - 3	楕丸方形	不整円形	23 20	23	16 16	○ ○		
452	B - 1	楕円形	楕円形	17 12	6	10 6	○ ○		
454	B - 1	楕丸方形	楕丸方形	19 19	15	9 9	○ ○		
455	B - 1	楕丸方形	楕丸方形	28 28	19	25 25	○ ○		
456	B - 1	方形	方形	20 20	18	15 13	○ ○	1	
457	B - 1	楕丸方形	楕丸方形	24 24	20	22 18	○ ○		鉄製品出土(現代?)
458	A - 1	不整形	不整形	24 15	6	20 10	○ ○		古瀬戸粗母焼茶葉碗片出土
459	C - 2	楕丸方形	楕丸方形	20 16	22	12 10	○ ○		
460	C - 2	方形	方形	17 16	35	10 10	○ ○		
461	C - 2	不整形	長方形	27 19	17	14 10	○ ○		
462	B - 2	方形	方形	28 28	35	28 28	× ×	2	
463	C - 1	楕丸方形	楕丸方形	18 18	9	10 10	○ ○		
464	C - 1	楕丸方形	楕丸方形	26 26	20	15 15	○ ○		
465	C - 1	楕丸方形	楕丸方形	24 24	20	12 10	○ ○		
466	B - 3	楕丸方形	楕丸方形	24 24	22	14 10	○ ○		
467	C - 3	不整円形	円形	18 14	20	8 8	— —		
468	C - 3	不整方形	不整方形	23 21	18	13 12	— —		
469	B - 3	不整方形	方形	24 20	25	14 13	— ○		
470	C - 3	不整方形	方形	25 20	13	14 14	○ ○		
471	C - 3	方形	方形	21 21	27	18 16	○ ○		下層に石あり
472	C - 4	楕丸方形	楕丸方形	20 17	14	8 8	— —		
473	C - 4	楕丸長方形	楕丸方形	23 19	18	— —	— —		
474	C - 3	楕丸方形	不整円形	22 17	13	6 8	— —		
475	B - 5	不整長方形	楕丸方形	38 29	36	20 15	× ×	3	底部凸凹
476	B - 5	楕丸方形	楕丸方形	20 18	16	10 10	○ ○		
477	B - 5	楕丸方形	楕丸方形	32 26	17	26 20	× ○	3	底部凸凹
478	A - 6	不整椭円形	楕丸方形	50 38	58	12 12	△ ○	4	繩文土器片出土
479	A - 6	不整椭円形	不整円形	30 25	55	20 20	○ ○	4	丸底
480	B - 5	楕丸方形	円形	18 17	26	11 10	○ ○		
481	B - 6	円形	楕丸方形	25 23	27	18 17	— —	4	

No.	位置	上部平面形	下部平面形	上部(cm)		深さ(cm)		底部(cm)		内容物	周辺埋立柱建物%	摘要
				長軸	短軸	長軸	短軸	焼土	炭			
482	B - 6	円形	隅丸方形	20	18	22	12	12	-	-	4	
483	A - 6	円形	円形	20	19	39	18	16	×	×	4	
484	A - 7	円形	長方形	21	19	28	17	15	×	×	4	
485	A - 6	隅丸方形	隅丸方形	23	23	20	20	18	○	○	4	
486	A - 2	隅丸方形	隅丸方形	31	27	45	20	18	-	-		
487	B - 7	不整形	円形	29	26	28	17	17	○	○		
488	A - 1	不整円形	円形	29	26	28	17	17	○	○	1	
	B - 5	不整方形	楕円形	22	16	47	12	10				
C - 6	不整方形	方形	36	26	-	16	16	-	-			
B - 6	不整方形	不整円形	22	20	-	14	12	-	-			
B - 6	隅丸方形	不整形	30	28	-	20	20	-	-			
C - 7	不整方形	隅丸方形	22	18	20	7	7	-	-			
C - 7	不整方形	楕円形	46	30	20	28	26	-	-			
C - 7	不整方形	不整楕円形	22	13	18	10	6	-	-			
C - 7	円形	円形	18	18	-	8	8	-	-			
C - 4	隅丸長方形		34	24	-	-	-	-	-	焼石あり		
A - 3	方形	方形	22	20	-	12	12	-	-			
A - 3	隅丸方形	隅丸方形	20	14	-	12	9	-	-			
A - 3	楕円形	楕円形	26	16	-	18	9	-	-			
B - 1	隅丸方形	隅丸方形	18	14	20	18	12	-	-			壁穴内、西辺上
B - 1	方形	方形	20	20	-	10	9	-	-			215・216間にある柱穴
C - 1	長方形	不整長方形	30	14	-	24	6	-	-			
C - 1	隅丸長方形	長方形	26	18	-	18	10	-	-			
C - 1	不整形	不整形	16	14	-	10	8	-	-			
C - 1	楕円形	楕円形	28	22	-	14	8	-	-			
C - 1			20	20	20	20	20	-	-			
B - 1	長方形	楕円形	20	14	11	12	12	-	-			
B - 1	不整円形	不整円形	-	-	-	-	-	-	-			
A - 0	方形	方形	10	10	7	-	-	-	-			焼土下から検出した柱穴
A - 0	円形	円形	18	18	-	10	10	-	-			上面に丸石、この付近施設している
A - 0			35	30	43	28	26	○	-			
A - 0	楕円形	不整円形	24	20	-	12	10	-	-			

表7 グリッド別柱穴一覧

グリッド	No.	上部平面形	グリッド	No.	上部平面形	グリッド	No.	上部平面形	グリッド	No.	上部平面形
A - 0	184	隅丸方形	A - 0	422	隅丸方形	A - 1	178	方形	A - 2	136	長方形
	185	隅丸方形		424	方形		180	隅丸方形		137	隅丸方形
	186	隅丸長方形		425	不整方形		181	隅丸方形		138	円形
	192	不整方形		426	方形		182	長方形		139	隅丸方形
	195	隅丸長方形		429	方形		183	方形		140	方形
	202	隅丸方形		430	長方形		188	不整方形		142	隅丸方形
	204	長方形		432	方形		189	方形		143	隅丸長方形
	205	方形		433	隅丸方形		190	楕円形		145	不整形
	208	隅丸方形		434	隅丸方形		194	長方形		146	円形
	208	隅丸方形			方形		207	方形		149	不整形
	220	不整形			円形		217	長方形		148	(3基重複)
	224	不整形			楕円形		218	楕円形		150	
	225	長方形		141	楕円形		219	方形		151	方形
	246	長方形		144	隅丸方形		400	楕円形		152	楕円形
	255	長方形		154	隅丸方形		404	楕円形		155	隅丸長方形
	256	円形		157	隅丸方形		405	不整形		441	方形
	257	方形		158	隅丸方形		441	不整方形		486	隅丸方形
	258	長方形		159	不整形		458	不整形		A - 3	110 不整円形
	259	不整方形		160	長方形		488	不整円形			112 不整形
	401	方形		161	方形						114 隅丸方形
	402	円形		162	方形						115 楕円形
	403	不整円形		163	円形						116 隅丸方形
	406	楕円形		164	方形						127 不整円形
	409	隅丸方形		165	隅丸方形						方形状
	410	円形		166	隅丸方形						隅丸方形
	411	不整円形		167	不整円形						楕円形
	412	隅丸方形		168	円形						2 不整円形
	413	不整形		169	隅丸方形						3 楕形
	415	隅丸方形		170	楕円形						4 円形
	416	不整円形		171	不整形						6 方形
	417	隅丸方形		172	不整方形						8 不整方形
	418	隅丸方形		173	長方形						9 隅丸方形
	419	円形		174	長方形						10 長方形
	420	楕円形		176	円形						11 円形
	421	隅丸長方形		177	方形						12 隅丸方形

グリッド	No.	上部平面形
A - 4	13	円形
	17	不整形
	19	不整円形
	20	方形
	22	椭円形
	23	長方形
A - 5	14	椭円形
	15	方形
	21	不整円形
	26	隅丸方形
	25	隅丸長方形
	30	隅丸長方形
	31	円形
	32	隅丸方形
	35	方形
	36	椭円形
	37	隅丸方形
	43	椭円形
	50	円形
A - 6	51	円形
	65	方形
	66	?
	69	隅丸方形
	70	円形
	78	方形
	79	隅丸方形
	85	不整形
	97	隅丸方形
	98	隅丸方形
	478	不整隅円形
	479	不整椭円形
	483	円形
A - 7	485	隅丸方形
	71	隅丸方形
	72	不整円形
	73	不整円形
	80	不整形
	83	不整形
	84	隅丸長方形
	92	円形
	94	不整形
	102	不整方形
	103	隅丸方形
	104	円形
	484	円形
B - 0	196	不整円形
	197	不整方形
	198	不整円形
	199	隅丸方形
	200	方形
	213	隅丸方形
	218	隅丸方形
	219	椭円形
	395	隅丸方形
	396	隅丸長方形
	398	隅丸方形
	399	隅丸方形
	423	隅丸長方形
B - 1	427	隅丸方形
	428	円形
	431	不整長方形
	435	隅丸方形
	436	方形
	437	方形
	438	不整椭円形
	439	隅丸方形
	440	不整方形
	443	隅丸長方形
	444	不整方形
	153	菱形
	179	不整方形
B - 2	191	隅丸方形
	193	隅丸方形
	203	方形
	206	隅丸方形
	214	隅丸方形
	215	方形
B - 3	216	隅丸方形
	221	不整方形
	222	隅丸方形
	223	椭円形
	227	椭円形
	228	円形
	229	隅丸方形
	230	方形
	231	隅丸方形
	231	隅丸長方形
	232	不整形
	233	椭円形
	234	隅丸方形
B - 4	235	方形
	236	隅丸方形
	237	隅丸方形
	238	隅丸方形
	239	不整形
	240	椭円形
	241	方形
	243	円形
	244	不整方形
	245	方形
	248	隅丸方形
	249	円形
	250	隅丸方形
B - 5	251	隅丸方形
	252	隅丸方形
	253	隅丸方形
	254	隅丸方形
	260	不整円形
	261	不整円形
	262	長方形
	266	隅丸方形
	268	長方形
	270	方形
	271	隅丸方形
	272	方形
	273	不整方形
B - 6	273	不整形
	276	方形
	277	椭円形
	337	方形
	360	不整長方形
	360	不整形
	391	不整方形
	392	方形
	393	隅丸方形
	394	隅丸長方形
	397	?
	407	円形
	408	隅丸方形
B - 7	452	椭円形
	454	隅丸方形
	455	隅丸方形
	456	方形
	457	隅丸方形
	458	隅丸方形
	476	隅丸方形
	477	隅丸方形
	480	隅丸方形
	481	不整方形
	486	隅円形
	487	不整形
	487	不整長方形
C - 1	264	椭円形
	265	隅丸方形
	267	円形
	269	円形
	274	椭円形
	275	方形
	278	隅丸方形
	279	隅丸方形
	280	椭円形
	281	円形
	282	椭円形
	283	不整方形
	284	椭円形
B - 8	285	円形
	287	隅丸方形
	288	隅丸方形
	289	椭円形
	290	隅丸方形
	291	椭円形
	292	?
	293	方形
	294	隅丸方形
	295	不整椭円形
	296	円形
	297	長方形
	298	方形
B - 9	299	不整方形
	300	不整形
	301	方形
	302	方形
	303	不整方形
	304	不整方形
	305	隅丸方形
	306	隅丸方形
	307	椭円形
	308	不整形
	309	方形
	310	隅丸方形
	311	隅丸方形
B - 10	312	隅丸方形
	313	隅丸方形
	314	不整方形
	315	不整円形
	317	隅丸方形
	318	円形
	321	隅丸方形
	326	隅丸方形
	328	不整椭円形
	329	不整形
	358	方形
	359	不整形

グリッド	No.	上部平面形
C - 1	376	不整椭円形
	384	隅丸方形
	463	隅丸方形
	464	隅丸方形
	465	隅丸方形
		長方形
		隅丸長方形
		不整形
		椭円形
C - 2	314	方形
	315	不整円形
	319	隅丸長方形
	320	長方形
	322	方形
	323	隅丸方形
	324	方形
	325	隅丸方形
	327	長方形
	330	椭円形
	331	不整方形
C - 3	332	長方形
	333	椭円形
	334	不整形
	338	円形
	339	椭円形
	340	椭円形
	343	不整円形
	345	不整方形
	346	隅丸方形
	347	隅丸方形
C - 4	349	不整形
	353	隅丸方形
	368	長方形
	370	円形
	377	不整形
	378	長方形
	395	隅丸形
	460	方形
	461	不整形
	470	不整形
C - 5	351	隅丸方形
	352	方彌形
C - 6	375	方形
	385	椭円形
	387	椭円形
	388	不整椭円形
	390	長方形
	445	隅丸方形
	446	隅丸方形
	447	椭円形
	449	不整長方形
	450	隅丸方形
C - 7	451	隅丸方形
	467	不整円形
	468	不整方形
	470	不整方形
	471	方形

表 8 : 繩文・弥生・古代土器一覧

No.	器種	部分	点数	出土地点		年代	写真No.	図No.	摘要
				グリッド	遺構・層				
1	深鉢形土器	胴下部	1	C - 8		早期後半	57 - 1	22 - 1	
2	深鉢形土器	胴部	1	A - 3		中期初頭	57 - 2	22 - 2	
3	深鉢形土器	胴上部	1	A - 4		中期後葉			
4	深鉢形土器	胴部	2(1)	A - 4	柱穴 3	中期後葉	22 - 52		
5	深鉢形土器	胴下部	1	A - 4		中期後葉			
6	深鉢形土器	胴下部	1	A - 4		中期後葉			
7	深鉢形土器	胴上部	1	A - 3		中期後葉	58 - 29	22 - 29	
8	深鉢形土器	口縁部	1	A - 4	柱穴 3	中期後葉	57 - 12	22 - 12	
9	深鉢形土器	底部	1	A - 3		中期後葉			
10	深鉢形土器	-	1	A - 6	柱穴 106	中期後葉			
11	深鉢形土器	胴上部	1	A - 7	柱穴 104	中期後葉	58 - 27	22 - 27	
12	深鉢形土器	胴上部	1	A - 7	柱穴 104	中期後葉			
13	深鉢形土器	胴部	1	A - 6	柱穴 478	中期後葉			
14	深鉢形土器	口縁部	1	A - 5		中期後葉	57 - 3	22 - 3	
15	深鉢形土器	胴部	1	A - 5		中期後葉			
16	深鉢形土器	胴部	1	A - 5		中期後葉			
17	深鉢形土器	胴 - 底部	65(1)	C - 7		中期後葉	48	22 - 64 23 - 20	
18	深鉢形土器	口縁部	1	B - 1		中期後葉	57 - 7	22 - 7	
19	深鉢形土器	胴部	1	B - 1		中期後葉	58 - 30	22 - 30	
20	深鉢形土器	胴上部	1	B - 1		中期後葉		22 - 54	
21	深鉢形土器	胴部	1	B - 3	柱穴 121	中期後葉	58 - 44	22 - 44	
22	深鉢形土器	胴部	1	B - 4		中期後葉		22 - 63	
23	深鉢形土器	胴部	1	B - 4		中期後葉		22 - 53	
24	深鉢形土器	胴部	1	B - 4		中期後葉			
25	深鉢形土器	胴部	1	B - 4	柱穴 7	中期後葉	58 - 37	22 - 37	
26	深鉢形土器	胴上部	1	B - 3		中期後葉	58 - 26	22 - 26	
27	深鉢形土器	胴部	1	B - 5		中期後葉	58 - 39	22 - 39	
28	深鉢形土器	口縁部	1	B - 5		中期後葉	57 - 16	22 - 16	
29	深鉢形土器	胴下部	1	B - 5		中期後葉	58 - 42	22 - 42	
30	深鉢形土器	胴下部	1	B - 5		中期後葉		22 - 50	
31	深鉢形土器	口縁部	1	B - 5		中期後葉	57 - 8	22 - 8	
32	深鉢形土器	胴部	1	B - 6		中期後葉			
33	深鉢形土器	胴上部	1	B - 5		中期後葉	58 - 28		
34	深鉢形土器	胴下部	1	B - 1		中期後葉	58 - 35	22 - 35	
35	深鉢形土器	口縁部	1	B - 2	土坑 2	中期後葉	57 - 11	22 - 11	
36	深鉢形土器	胴上部	1	B - 5		中期後葉	58 - 34	22 - 34	
37	深鉢形土器	胴部	1	B - 22		中期後葉	58 - 33	22 - 33	
38	深鉢形土器	胴下部	1	C - 1	土坑 102	中期後葉	58 - 38	22 - 38	
39	深鉢形土器	胴下部	1	C - 2		中期後葉			
40	深鉢形土器	胴下部	1	C - 3	耕作土	中期後葉	58 - 41	22 - 41	
41	深鉢形土器	胴下部	1	C - 1		中期後葉	58 - 45	22 - 45	
42	深鉢形土器	-	1	C - 5		中期後葉			
43	深鉢形土器	-	1	C - 1		中期後葉	58 - 40		
44	深鉢形土器	口縁部	1	C - 2		中期後葉		22 - 51	
45	深鉢形土器	胴部	1	C - 1		中期後葉			
46	深鉢形土器	胴下部	1	C - 1		中期後葉		22 - 59	

No.	器種	部分	点数	出土地點		年代	写真No.	図No.	摘要
				グリッド	遺構・層				
47	深鉢形土器	口縁部	1	C-1		中期後葉			
48	深鉢形土器	口縁部	1	C-2	配石遺構	中期後葉	57-5	22-5	
49	深鉢形土器	胴部	1	C-2		中期後葉	58-31	22-31	
50	深鉢形土器	胴上部	1	C-3		中期後葉	57-18	22-18	
51	深鉢形土器	口縁部	1	C-3		中期後葉	57-14	22-14	
52	深鉢形土器	口縁部	1	C-4		中期後葉	57-9	22-9	
53	深鉢形土器	胴部	1	C-4		中期後葉		22-56	
54	深鉢形土器	底部	1	C-4		中期後葉			
55	深鉢形土器	胴部	1	C-4		中期後葉	58-46	22-46	
56	深鉢形土器	胴部	1	C-5		中期後葉			
57	深鉢形土器	胴部	1	C-5		中期後葉			
58	深鉢形土器	口縁部	1	C-5		中期後葉	57-4	22-4	
59	深鉢形土器	胴部	1	C-5		中期後葉	58-32	22-32	
60	深鉢形土器	胴部	1	C-6		中期後葉	58-36	22-36	
61	深鉢形土器	口縁部	1		竪穴内	中期後葉	49-8	22-60	
62	深鉢形土器	胴上部	1		竪穴内	中期後葉	49-9	22-61	
63	深鉢形土器		10		竪穴内	中期後葉			
64	深鉢形土器		1		マウンド13			22-49	
65	深鉢形土器	胴上部	1	C-7		中期後葉		22-55	
66	深鉢形土器	口縁部	1	C-2		中期後葉			
67	深鉢形土器	胴部	1	C-6		中期後葉	57-21	22-21	
68	深鉢形土器	胴上部	1	C-6		中期後葉	58-25	22-25	
69	深鉢形土器	口縁部	1	C-6		中期後葉	57-15	22-15	
70	深鉢形土器	胴部	1	C-6		中期後葉		22-47	
71	深鉢形土器	口縁部	1	C-6		中期後葉		22-62	
72	深鉢形土器	胴上部	1	C-6		中期後葉		22-48	
73	深鉢形土器	口縁部	1	C-6		中期後葉	57-6	22-6	
74	深鉢形土器	胴下部	1	C-6		中期後葉			
75	深鉢形土器	口縁部	1	C-6		中期後葉			
76	深鉢形土器	口縁部	1	C-6		中期後葉	57-10	22-10	
77	深鉢形土器	胴部	1	C-6		中期後葉	58-43	22-43	
78	深鉢形土器	胴部	1	C-6		中期後葉			
79	深鉢形土器	胴部	1	C-6		中期後葉		22-58	
80	深鉢形土器	胴下部	3(1)	C-7		中期末	57-24	22-24	
81	深鉢形土器	胴上部	3(1)	C-7		中期末	57-19	22-19	
82	深鉢形土器	胴上部	1	C-7		中期末	57-17	22-17	
83	深鉢形土器	胴部	3(1)	C-7		中期末	57-20	22-20	
84	深鉢形土器	胴部	1	C-7		中期末	57-22	22-22	
85	深鉢形土器	胴部	1	C-7		中期末		22-57	
86	深鉢形土器	-	1	C-4	瓦の下の黒土	不明			腐減多い
87	土製円板		1	B-4			49-5	23-4	
88	つる状把手	一部	1	A-5			49-1	23-1	
89	土偶?		1	B-2			49-3	23-3	
90	土製円板		1	A-1			49-4	23-5	
91	つる状把手	一部	1	C-2			49-2	23-2	
92	甕	口縁部	1	A-7		弥生後期	56-6	23-6	都目波紋文
93		胴部	1	C-1			56-5	23-8	
94		胴部	1	C-7			57-13	23-7	弥生後期か土師器
95	土師器蓋?	口縁部	1	C-6	ロームマウンド	5-6C	56-7	23-11	
96	土師器蓋?	頸部	1	A-3		5-6C	56-9		
97	台付甕		3(1)	B-7	9C?		56-1	23-14	
98	台付甕		1	B-7	9C?		56-4	23-13	
99	环	底部	1	A-3	9C?		56-8		内墨环
100	須恵器	底部	1	A-5	9C?		39-11	23-17	高台付
101	須恵器	胴上部	1		9C?		34-22		内外に黒色釉
102	土師器蓋?	口縁部	1	B-5			56-2	23-10	
103	土師器蓋?	口縁部	1	C-4			56-3	23-9	
104	土師器蓋?	胴部	1	C-3				23-12	
105	土師器环?	底部	1	C-2	9C		34-15	23-16	内部に緑色釉
106	灰釉陶器(蓋)	胴部	1	B-2	9C		30-15		塗被黒苔期
107	灰釉陶器(長頸瓶)	口縁部	1	C-4	9C		31-17	23-15	塗被黒苔期

表9 石器一覧

No.	器種	部分	石質	点数	出土地點		規模(cm)	写真No.	図No.	摘要
					グリッド	層				
1	石鎌		黒曜石	1	A-5		1.8×1.3×0.2	50-5	24-5	
2	石鎌		黒曜石	1	A-3		2.1×2.1×0.6	50-6	24-6	
3	2次加工のある剝片		黒曜石	1	A-5		3.7×1.7×0.4	50-7	24-7	
4	-	剝片	黒曜石	40						
5	-	剝片	チャート	1						

No.	器種	部分	石質	点数	出土地点			規模(cm)	写真No.	図No.	摘要
					グリッド	追跡	層				
6	磨製石斧	刃部折	粘板岩	1	C - 2	耕作土		4.0×2.1×0.75	50 - 1	24 - 1	
7	半磨製石斧	刃部折	粘板岩	1	B - 1			5.6×3.1×1.5	50 - 2	24 - 2	
8	定角式磨製石斧?	細部1/3	粘板岩	1	B - 7			4.3×3.7×1.4	50 - 3	24 - 3	
9	打製石斧(短骨形)	全形	砂岩	1	C - 4			11.7×4.4×1.8	51 - 17	24 - 17	
10	打製石斧(短骨形)	刃部折	綠色岩	1	B - 6			7.3×4.6×1.5	51 - 13	24 - 13	
11	打製石斧(短骨形)	全形	粘板岩	1		耕作土		12.5×5.1×2.5	51 - 15	24 - 15	
12	打製石斧(短骨形)	全形	砂岩	1	B - 6			5.5×3.6×1.8		24 - 31	
13	打製石斧(短骨形)	頭中央?	綠色岩	1	C - 4			8.4×6.5×1.8	51 - 14	24 - 14	
14	打製石斧	全形	砂岩	1	B - 6			10.2×8.3×1.6	51 - 23	24 - 23	
15	打製石斧	破片?	綠色岩	1	A - 8			4.0×3.5×1.2		24 - 32	
16	打製石斧(短骨形)	頭部折	砂岩	1	C - 4			9.3×6.7×2.8	51 - 18	24 - 18	
17	打製石斧(短骨形)	全形	砂岩	1	B - 4			9.3×4.7×2.0	51 - 21	24 - 21	
18	打製石斧(短骨形)	刃部折	綠色岩	1	C - 7			8.9×4.2×0.9	50 - 10	24 - 10	
19	打製石斧(棒状)	全形	蛇紋岩	1	A - 1	耕作土		15.4×5.8×3.5	51 - 25		
20	打製石斧(短骨形)	頭上部2/3	砂岩	1		表探		8.8×5.8×1.6	51 - 20	24 - 20	
21	打製石斧(短骨形)	全形	砂岩	1		表探		11.2×6.8×2.0	51 - 22	24 - 22	
22	打製石斧(大型石匙形)	全形	砂岩	1		耕作土		7.3×7.4×1.4	51 - 19	24 - 19	
23	打製石斧(短骨形)	全形	砂岩	1	A - 5	耕作土		14.6×5.6×2.2	51 - 16	24 - 16	
24	打製石斧(短骨形)	基部	砂岩	1		石坑4		6.4×4.5×1.5	51 - 24	24 - 24	
25	打製石斧(短骨形)	全形	砂岩	1	B - 2	土坑上		8.9×3.9×1.0	50 - 11	24 - 11	
26	砾片?	全形	チャート	1	C - 2			3.8×2.7×0.7		24 - 30	
27	砾片	全形	砂岩	1	C - 4			6.9×4.1×0.7			
28	船石	全形	チャート	1	B - 2			8.3×5.2×1.1	51 - 12	24 - 12	
29	石錐	全形	砂岩	1	A - 1			7.3×3.7×0.8	50 - 9	24 - 9	
30	石錐	全形	砂岩	1		表探		4.7×3.6×0.9			
31	石錐	全形	砂岩	1		表探		5.0×4.0×1.3			
32	敲石	全形	砂岩	1	D - 7			16.6×6.0×3.6		24 - 29	
33	敲石	全形	砂岩	1	B - 0			9.8×2.9×3.0	52 - 27	24 - 27	
34	敲石	2/3		1		柱穴439		6.6×2.8×7.3	52 - 28	24 - 28	
35	敲石	全形	粘板岩	1		耕作土		6.3×3.2×1.4	50 - 4	24 - 4	
36	敲石	剥片		1	B - 5			5.7×3.0×1.1	52 - 26	24 - 26	

表10 中世陶磁器产地別一覧

地 点 (点数)	器種	点数	型式	年 代	部分	出土地点			写真No.	図No.	摘要
						グリッド	追跡	層			
戸 (118(103))	1 灰陶輪反彎少丸足?	1(1)	大腹1か2	16C前	底部	B - 5		H	38 - 10	27 - 62	
	2 灰陶輪反彎少丸足?	1(1)	大腹1か2	16C前	底部	A - 6		壁上	39 - 7	27 - 57	
	3 灰陶輪反彎?	1(1)	大腹?		口縁部					27 - 61	
	4 灰陶丸足?	1(1)	大腹2か3	16C後	底部	A - 1			33 - 6		
	5 灰陶丸足?	2(1)	大腹3	16C後	口縫-底部	B - 7		壁上	39 - 1	27 - 58	
	6 灰陶丸足?	1(1)	大腹3	16C後	口縫部	B - 7		壁上	39 - 2	27 - 59	
	7 灰陶内壳腹?	1(1)	大腹3か3後	16C後	底部	B - 5		H	39 - 21	27 - 60	
	8 宽筋鉢足?	1(1)	第1-3期	15C末	口縫部	B - 4		I	38 - 4		
	9 黑漆耳杯	1(1)	第1-3期	15C末	口縫部			表探	-	写真なし 表探	
	10 鍋脚	1(1)	後IV	15C後	口縫部	C - 5			34 - 7	27 - 53	
	11 鍋脚	1(1)	後IV-V	15C後	口縫部	B - 1	獨立1		32 - 4	27 - 54	
	12 鍋脚	1(1)	後IV-V	15C後	口縫部	C - 2		H	34 - 5		
	13 鍋脚	1(1)	後IV-V	15C後	胴部	C - 2	柱330		29 - 10		
	14 鍋脚	1(1)	後IV-V	15C後	底部	C - 2		H	34 - 27	27 - 56	
	15 鍋脚	1(1)	後IV	15C後	胴部	B - 1		I	35 - 4		
	16 鍋脚	3(3)	後IV-大腹1	15C後	胴部	A - 1			35 - 10		
	17 鍋脚	2(2)	後IV-大腹1	15C後	胴部	A - 3	堆		33 - 13		
	18 鍋脚	1(1)	後IV-大腹1	15C後	胴部	B - 1	柱270		29 - 14		
	19 鍋脚	1(1)	後IV-大腹1	15C後	胴部	A - 3	堆		33 - 16		
	20 鍋脚	1(1)	後IV-大腹1	15C後	口縫部	A - 1			35 - 5		
	21 鍋脚	3(3)	大腹1	16C前	胴部	A 4/B-6		壁上	35 - 3	27 - 55	
	22 鍋脚?	1(1)	大腹?		口縫部	B - 3			33 - 12		
	23 天目茶碗	1(1)	後III	15C前	口縫部	C - 1			36 - 7	26 - 29	
	24 天目茶碗	2(2)	後IV古	15C中	口縫部	A 4/C - 1			30 - 1	26 - 27	
	25 天目茶碗	1(1)	後IV古	15C中	口縫部	C - 5		I	30 - 2	26 - 28	
	26 天目茶碗	1(1)	後IV新?	15C後	胴部	C - 2		I	30 - 7		
	27 天目茶碗	1(1)	後IV新?	15C後	胴下部	C - 1		H	31 - 13		
	28 天目茶碗	1(1)	後IV	15C後	胴下部	C - 1			36 - 10		
	29 天目茶碗	1(1)	後IV	15C後	胴下部	A - 0	土壤5		33 - 4		
	30 天目茶碗	2(2)	後新小大腹1	15C後	胴下部	A - 4			34 - 28		
	31 天目茶碗	1(1)	後期	15C	胴下部	A - 1	獨立1		32 - 9		
	32 天目茶碗	1(1)	大腹1	16C前	底部	A - 6		H	31 - 26	27 - 66	
	33 天目茶碗	1(1)	大腹1	16C前	口縫部	C - 1			36 - 6		
	34 天目茶碗	1(1)	大腹2	16C中	胴-底部				37 - 12	27 - 67	
	35 天目茶碗	1(1)	大腹3か4	16C後	胴上部				37 - 4		
	36 天目茶碗	1(1)	大腹4前	16C後	口縫部	A - 4		I	38 - 2	27 - 65	
	37 天目茶碗	1(1)	後IV古	15C中	口縫部	B - 1		H	31 - 7		
	38 天目茶碗	1(1)	後IV古	15C中	口縫部	A - 1	獨立1		32 - 2	27 - 38	
	39 天目茶碗	1(1)	後IV古	15C中	口縫部	B - 1	獨立1		32 - 1	27 - 37	

地 点 (点数)	器 種	点数	型 式	年 代	部 分	出 土 地 点			写 真 №	圖 №	備 要
						グリッド	遺 様	番			
瀬 戸	灰陶平碗	1(1)	後IV古	15C中	口縁部	B - 1	壇立 1	32 - 7			
	灰陶平碗	5(2)	後IV新	15C後	口縁~底部	B / 1 C	壇立 1	31 - 1	27 - 39		高台は削り出し? B - 1 - 2 点。B - 2 - 1 点。C - 2 - 2 点
						1 / B 0	ほか				
	灰陶平碗	1(1)	後IV新	15C後	底部	C - 1	I	30 - 23	27 - 43		削り出し高台
	灰陶平碗	1(1)	後IV新	15C後	口縁部	B - 1		31 - 2	27 - 41		
	灰陶平碗	2(1)	後IV新	15C後	口縁部	B - 1	柱273	29 - 3			
	灰陶平碗	1(1)	後IV新	15C後	口縁部	C - 2	壇立 2	配石下	36 - 2	27 - 42	
	灰陶平碗	2(1)	後IV新	15C後	口縁~底下部	B - 1	壇立 1	32 - 6			
	灰陶平碗	1(1)	後IV新	15C後	口縁部	B - 1	柱236	29 - 1			48と接合
	灰陶平碗	1(1)	後IV新	15C後	口縁部	B - 1		31 - 6	27 - 44		48と接合
	灰陶平碗	1(1)	後IV新	15C後	口縁部	A - 0	柱117	29 - 2	27 - 40		
	灰陶平碗	5(2)	後IV新	15C後	底部	C - 2	II	31 - 24			削り出し高台
	灰陶平碗	1(1)	後IV	15C後	崩下部	C - 2	柱330	29 - 9			
	灰陶平碗	1(1)	後IV	15C後	崩下部	A - 4	柱13	32 - 8			
	灰陶平碗	1(1)	後IV	15C後	崩部	B - 4	I	36 - 19			
	灰陶平碗	1(1)	後IV	15C後	崩部	B - 1	壇立 1	32 - 3			
	灰陶平碗	1(1)	後IV	15C後	崩下部	C - 1	柱282	29 - 7			
	灰陶平碗	1(1)	後IV	15C後	崩下部	C - 1	柱279	29 - 15			
	灰陶腹壓印	1(1)	後IV新	15C後	底部	A - 3		39 - 4	27 - 51	58と接合、削り出し高台	
	灰陶腹壓印	1(1)	後IV新	15C後	底部	B - 7	壇上	31 - 21	27 - 51	57と接合、削り出し高台	
	灰陶腹壓印	1(1)	後IV - IV	15C中 - 後	底部	C - 1	II	31 - 22	27 - 47		
	灰陶腹壓印	1(1)	後IV古	15C中	口縁部	C - 2	II	31 - 3			
	灰陶腹壓印	1(1)	後IV古	15C中	口縁部	C - 2	I	31 - 9			
	灰陶腹壓印	1(1)	後IV古	15C中	口縁部	B - 3	土坑21	33 - 2			
	灰陶腹壓印	1(1)	後IV古	15C中	口縁部	C - 1		31 - 8			
	灰陶腹壓印	1(1)	後IV古	15C中	底部	C - 2	II	42 - 29	27 - 64		
	灰陶腹壓印	1(1)	後IV新	15C後	底部	A - 1	I	42 - 26	27 - 48		
	铁輪轆轤小盾	1(1)	後IV - IV	15C中 - 後	底部	A - 0		39 - 8	27 - 49		
	铁輪轆轤小盾	1(1)	後IV古	15C中	口縁部	C - 2	II	31 - 3			
	铁輪轆轤小盾	1(1)	後IV古	15C中	口縁部	C - 2	I	31 - 9			
	铁輪轆轤小盾	1(1)	後IV古	15C中	口縁部	B - 3	土坑21	33 - 2			
	铁輪轆轤小盾	1(1)	後IV古	15C中	口縁部	C - 1		31 - 8			
	铁輪轆轤小盾	1(1)	後IV	15C後	底部	C - 2	II	29 - 18	27 - 50		
	铁輪轆轤小盾	1(1)	後IV - IV	15C中 - 後	底部	C - 2	II	34 - 16	27 - 45		
	铁輪轆轤小盾	1(1)	後IV - IV	15C中 - 後	口縁部	C - 3	I	34 - 17	27 - 46		
	铁輪轆轤小盾	1(1)	後IV - IV	15C中 - 後	口縁部	D - 3		31 - 19			外面に油煙あり
	铁輪轆轤小盾	1(1)	後IV - IV	15C中 - 後	崩下部	C - 3	I	46 - 5			
	铁輪轆轤小盾	1(1)	後IV - IV	15C中 - 後	底部	C - 6	II	46 - 21			
	铁輪轆轤小盾	1(1)	後IV - IV	15C中 - 後	口縁部	C - 6	II	35 - 2			
	灰陶輪形香炉	1(1)	後IV古	15C後	口縁部	C - 3		36 - 3			
	铁輪轆轤形香炉	1(1)	後IV新	15C後	口縁~底部	B - 1	II	39 - 9	26 - 34		
	铁輪轆轤形香炉	1(1)	後期	15C	崩部	A - 1	柱458	29 - 17			
	铁輪轆轤形香炉	1(1)	後期	15C	崩部	A - 8		34 - 29			
	铁輪轆轤形香炉	1(1)	後期	15C	崩部	B - 1		38 - 16			
	铁輪轆轤形香炉	1(1)	後期	15C	底部	C - 2	II	31 - 20			
	灰陶西耳环	2(2)	消II	13C前	崩上部	A - 6/B - 4	壇上	30 - 13			
	灰陶西耳环	1(1)	中I - II	14C前	崩上部	C - 7	壇上	39 - 8			
	灰陶西耳环?	1(1)	中I - II ?	14C崩	崩上部	C - 6	II	46 - 10			
	灰陶輪形?	1(1)	中I - II ?	14C崩	崩部	C - 3		33 - 15			
	灰陶輪形?	1(1)	後IV - II ?	14C崩	崩部	A - 3	壇	33 - 15			
	灰陶輪形?	1(1)	後IV ?	15C後	口縁部	C - 1	II	33 - 11			
	灰陶輪形?	1(1)	後IV ?	15C後	底部	B - 3	I	36 - 18	26 - 36		
	灰陶輪形?	1(1)	後IV	15C後	底部	A - 1	I	36 - 20	26 - 33		
	灰陶輪形?	1(1)	後IV	15C後	底部	C - 4	I	36 - 22	26 - 32		
	灰陶輪形?	1(1)	後IV古	15C中	崩上部	C - 1	II	31 - 15			
	灰陶輪形?	1(1)	後IV古	15C中	崩部	B - 1	II	31 - 14			
	灰陶輪形?	1(1)	後IV古	15C中	崩部	A - 3	壇	33 - 15			
	灰陶輪形?	1(1)	後IV古	15C中	崩部	B - 1	II	33 - 11			
	灰陶輪形大皿	1(1)	後(回) - IV古	15C中	口縁部	C - 1	壇立 2	36 - 5			
	灰陶輪形大皿	1(1)	後IV古	15C中	口縁部	B - 3	I	33 - 1	27 - 52		
	灰陶輪形大皿	1(1)	中II	14C崩	口縁部	B - 3	I	36 - 6			98と接合
	灰陶輪形大皿	1(1)	中II	14C崩	口縁部	C - 1	II	36 - 4			98と接合
	灰陶輪形小皿	1(1)	後III - IV	15C中 - 後	崩上部	B - 2	II	31 - 23	26 - 30		
	灰陶輪形小皿	1(1)	後IV - IV	15C中 - 後	底部	C - 5	II	42 - 5			
	灰陶輪形小皿	1(1)	後IV - IV	15C中 - 後	底部	B - 4	I	42 - 11			
	灰陶輪形小皿	1(1)	後IV - IV	15C中 - 後	底部	B - 4	II	42 - 19			
	灰陶輪形小皿	1(1)	後IV - IV	15C中 - 後	底部	B - 5	II	43 - 7			
	東瀛山茶碗	1(1)	5型式新	13C崩	崩~底部	C - 3	柱445 壇上	28 - 79			
	東瀛山茶碗	1(1)	5型式新	13C崩	崩部	A - 3	壇	33 - 10	28 - 77		
	東瀛山茶碗	1(1)	5型式新	13C崩	口縁部	A - 7	壇上	42 - 1	28 - 74		
	東瀛山茶碗	1(1)	5型式新	13C崩	口縁部	B - 5	II	42 - 2	28 - 75		
	東瀛山茶碗	1(1)	5型式新	13C崩	口縁部	B - 6	II	42 - 3			
	東瀛山茶碗	1(1)	5型式新	13C崩	口縁部	B - 6	II	42 - 4			
	東瀛山茶碗	1(1)	5型式新	13C崩	口縁部	A - 4		42 - 6			

墓地 〔点数〕	No.	器種	点数	型式	年代	部分	出土地点			写真No.	図No.	摘要
							グリップ	追跡	層			
東鏡・尾端	117	東鏡山茶碗	2(1)	5型式新	13C前	口縁部	C-1	H	42-7			
	118	東鏡山茶碗	1(1)	5型式新	13C前	口縁部	C-5	I	42-8			
	119	東鏡山茶碗	1(1)	5型式新	13C前	口縁部	A-7	H	42-10 28-76			
	120	東鏡山茶碗	1(1)	5型式新	13C前	口縁部	C-4	I	42-12			
	121	東鏡山茶碗	1(1)	5型式新	13C前	肩下部	C-6	H	42-13			
	122	東鏡山茶碗	1(1)	5型式新	13C前	肩下部	C-4	H	42-14			
	123	東鏡山茶碗	1(1)	5型式新	13C前	肩上部	C-4	H	42-15			
	124	東鏡山茶碗	1(1)	5型式新	13C前	肩上部	B-4	I	42-16			
	125	東鏡山茶碗	1(1)	5型式新	13C前	肩部	B-6	H	42-17			
	126	東鏡山茶碗	1(1)	5型式新	13C前	肩部	C-7	I	42-18			
	127	東鏡山茶碗	1(1)	5型式新	13C前	肩部	B-6	H	42-20			
	128	東鏡山茶碗	1(1)	5型式新	13C前	肩部	B-7	I	42-21			
	129	東鏡山茶碗	1(1)	5型式新	13C前	肩部	C-7	I	42-22			
	130	東鏡山茶碗	1(1)	5型式新	13C前	肩部	C-4	I	42-23			
	131	東鏡山茶碗	1(1)	5型式新	13C前	肩部	A-5	I	42-24			
	132	東鏡山茶碗	1(1)	5型式新	13C前	肩下部	B-4	I	42-25			
	133	東鏡山茶碗	1(1)	5型式新	13C前	肩下部	B-4	H	42-27 28-78			
	134	東鏡山茶碗	1(1)	5型式新	13C前	底部	B-5	I	42-28			
	135	東鏡山茶碗	1(1)	11型式古	13C前	口縁部	A-2	柱122	29-13			
	136	子持山茶碗(変型)	1(1)	4型式	12C中	肩下部~底部	C-4	I	39-24 28-80			
山系鏡(強形)	137	5型式古	1(1)	2C後		肩下部	C-2	柱122	36-8			
	138	山茶碗(中津川7)	1(1)	4~5型式	12C	肩下部	B-1	I	45-9			
	139	片口鉢(中津川)	1(1)		13C後	肩下部	A-1	柱163	29-6			
	140	片口鉢(中津川)	1(1)		13C後	肩部	A-1	柱163	29-12			
	141	片口鉢(中津川)	1(1)		13C後	肩上部	A-2	柱129	29-16			
	142	片口鉢(中津川)	1(1)		13C後	口縁部	B-5	倒木3	32-13			
	143	片口鉢(中津川)	1(1)		13C後	肩上部	B-2	I	33-5			
	144	片口鉢(中津川)	1(1)		13C後	口縁部	A-6	I	43-1			
	145	片口鉢(中津川)	1(1)		13C後	口縁部	B-4	I	43-2 29-93			
	146	片口鉢(中津川)	1(1)		13C後	口縁部	B-5	I	43-3			
	147	片口鉢(中津川)	1(1)		13C後	口縁部	C-7	I	43-4 29-89			
	148	片口鉢(中津川)	1(1)		13C後	口縁部	C-7	I	43-5 29-88			
	149	片口鉢(中津川)	1(1)		13C後	口縁部	B-3	I	43-8 29-91			
	150	片口鉢(中津川)	1(1)		13C後	肩上部	B-1	I	43-10			
	151	片口鉢(中津川)	1(1)		13C後	口縁部	C-2	I	43-12			
	152	片口鉢(中津川)	1(1)		13C後	肩部	B-5	I	43-13			
	153	片口鉢(中津川)	1(1)		13C後	肩上部	A-7	倒木3	43-14			
	154	片口鉢(中津川)	1(1)		13C後	肩部	A-3	I	43-15			
	155	片口鉢(中津川)	1(1)		13C後	肩上部	C-3	I	43-16			
	156	片口鉢(中津川)	1(1)		13C後	肩下部	B-5	I	43-17			
	157	片口鉢(中津川)	1(1)		13C後	肩下部~底部	A-5	耕作土	43-18 29-92			
	158	片口鉢(中津川)	1(1)		13C後	肩部	A-7	I	43-20			
	159	片口鉢(中津川)	1(1)		13C後	肩部	B-6	I	43-21			
	160	片口鉢(中津川)	1(1)		13C後	底部	C-6	I	43-22			
	161	片口鉢(中津川)	1(1)		13C後	肩下部	A-6	I	43-24			
	162	片口鉢(中津川)	1(1)		13C後	底部	B-3	I	43-25 29-98			
	163	片口鉢(中津川)	1(1)		13C後	肩下部~底部	B-4	I	43-26 29-96			
	164	片口鉢(中津川)	1(1)		13C後	口縁部		I	29-90			
	165	片口鉢(中津川)	1(1)		13C後	肩上部						
	166	片口鉢(中津川)	1(1)		13C後	肩下部						
	167	片口鉢(中津川)	1(1)		13C後	肩下部~底部			29-97			
	168	片口鉢(中津川)	1(1)		13C後	肩下部~底部			29-94			
	169	片口鉢(中津川)	1(1)		13C後	肩部						
	170	片口鉢(中津川)	1(1)		13C後	肩上部						
	171	片口鉢(中津川)	1(1)		13C後	肩下部						
	172	片口鉢(中津川)	1(1)		13C後	肩部						
	173	片口鉢(中津川)	1(1)		13C後	底部						
	174	片口鉢(中津川)	1(1)		13C後	肩部						
	175	片口鉢(中津川)	1(1)		13C後	肩部			29-95			
	176	片口鉢(中津川)	1(1)		13C後	肩下部						
	177	こね鉢(尾端)	1(1)		12C末	口縁部	A-2	柱123	29-5			
	178	こね鉢(尾端)	1(1)		12C末	肩部	C-1	土吹塗	36-17			
	179	こね鉢(尾端)	1(1)		12C末	口縁部	D-2	耕作土	43-6 29-84			
	180	こね鉢(尾端)	1(1)		12C末	口縁部	A-7	I	43-9			
	181	こね鉢(尾端)	1(1)		12C末	肩上部	B-5	III	43-19			
	182	こね鉢(尾端)	1(1)		12C末	肩下部	B-5	I	43-23 187と複合			
	183	こね鉢(尾端)	1(1)		12C末	肩下部~底部	C-4	I	43-27 29-87			
	184	こね鉢(尾端)	1(1)		12C末	肩下部	D-2	I	45-11			
	185	こね鉢(尾端)	1(1)		12C末	肩部	B-7	I	46-17			
	186	こね鉢(尾端)	1(1)		12C末	肩下部	C-7	I	46-22			
	187	こね鉢(尾端)	1(1)		12C末	肩下部	C-4	I	46-23 29-86 182と複合			
	188	こね鉢(尾端)	1(1)		12C末	肩部	A-4	I	46-26			
	189	こね鉢(尾端)	1(1)		12C末	口縁部			29-85			
	190	甕(中津川)	1(1)		13C後	肩部	A-1	掘立I	32-11			
	191	甕(中津川)	1(1)		13C後	肩部	C-2	柱立2	36-12			
	192	甕(中津川)	1(1)		13C後	肩部	C-2	柱立2	36-16			
	193	甕(中津川)	1(1)		13C後	肩部	C-1	掘立2	36-18			
	194	甕(中津川)	1(1)		13C後	底部	A-7	粘土	44-25			
	195	甕(中津川)	1(1)		13C後	肩部	C-7	壁上	45-1			
	196	甕(中津川)	1(1)		13C後	肩上部	C-4	I	45-2			

產地 (点数)	Na	器種	点数	型式	年代	部分	出土地点			写真No	図No	摘要
							グリッド	道様	層			
東濃・尾張	197	甕 (中津川)	1(1)	13C後		胴部	B - 7	I	45 - 3			
	198	甕 (中津川)	1(1)	13C後		胴部	A - 6	II	45 - 4			
	199	甕 (中津川)	1(1)	13C後		胴部	B - 5	上	45 - 5			
	200	甕 (中津川)	1(1)	13C後		胴部	C - 5	I	45 - 6			
	201	甕 (中津川)	1(1)	13C後		胴部上部	A - 1	I	45 - 7			
	202	甕 (中津川)	1(1)	13C後		胴部上部	B - 6		45 - 8			
	203	甕 (中津川)	1(1)	13C後		胴部	B - 6	上	45 - 10			
	204	甕 (中津川)	1(1)	13C後		胴部	B - 6	土	45 - 11			
	205	甕 (中津川)	1(1)	13C後		胴部上部	B - 1	上	45 - 12			
	206	甕 (中津川)	1(1)	13C後		胴部	B - 5	II	45 - 13			
	207	甕 (中津川)	1(1)	13C後		胴部	C - 2	II	45 - 14			
	208	甕 (中津川)	1(1)	13C後		胴部	A - 6	III	45 - 15			
	209	甕 (牛津川)	1(1)	13C後		胴部	B - 7	上	45 - 16			
	210	甕 (牛津川)	1(1)	13C後		胴部		表	45 - 17			
	211	甕 (牛津川)	1(1)	13C後		胴下部 - 肩部	B - 7	上	45 - 18	28 - 73		
	212	甕 (牛津川)	1(1)	13C後		胴部		表	45 - 19			
	213	甕 (牛津川)	1(1)	13C後		胴部	A - 6	II	45 - 20			
	214	甕 (牛津川)	1(1)	13C後		胴部	C - 7	II	45 - 21			
	215	甕 (牛津川)	1(1)	13C後		胴部	B - 5	I	45 - 22			
	216	甕 (牛津川)	1(1)	13C後		胴下部 - 肩部				28 - 72		
	217	甕 (牛津川)	1(1)	13C後		胴部						
	218	甕 (牛津川)	1(1)	13C後		胴部						
	219	甕 (牛津川)	1(1)	13C後		胴部						
	220	甕 (牛津川)	1(1)	13C後		胴部						
	221	甕 (牛津川)	1(1)	13C後		胴部						
	222	甕 (牛津川)	1(1)	13C後		胴部						
	223	甕 (牛津川)	1(1)	13C後		胴部						
	224	甕 (牛津川)	1(1)	13C後		胴部						
	225	甕 (牛津川)	1(1)	13C後		胴部						
	226	甕 (牛津川)	1(1)	13C後		胴部						
	227	甕 (牛津川)	1(1)	13C後		胴部						
	228	甕 (牛津川)	1(1)	13C後		胴部						
	229	甕 (牛津川)	1(1)	13C後		胴部						
	230	甕 (牛津川)	1(1)	13C後		胴部						
	231	甕 (牛津川)	1(1)	13C後		胴部						
	232	甕 (牛津川)	1(1)	13C後		胴部						
	233	甕 (牛津川)	1(1)	13C後		胴部						
東濃か常滑	234	甕 (中津川か常滑)	1(1)	13C後		胴部						
	235	甕 (中津川か常滑)	1(1)	13C後		胴部						
常	236	広口甕	5(1)	中野縦年3~4	12C後	胴上部	B - 1	II	46 - 2	28 - 71	耳がつく	237と複合
(57(51))	237	広口甕	1(1)	中野縦年3~4	12C後	胴上部	C - 1	獨立2	36 - 1	28 - 71	236と複合	
	238	甕 (常滑)	1(1)	中野縦年2	12C後	口輪部	C - 1		36 - 11		12C第3四半期	
	239	甕 (常滑)	1(1)	中野縦年2	12C後	口輪部	C - 6	II	44 - 1	28 - 70	12C第3四半期	245と複合
	240	甕 (常滑)	1(1)	中野縦年2	12C後	口輪部	B - 6	腰用中	44 - 2	28 - 69	12C第3四半期	
	241	甕 (常滑)	1(1)	中野縦年2	12C後	口輪部	B - 6	II	44 - 3	28 - 68	12C第3四半期	
	242	甕 (常滑)	1(1)	中野縦年2	12C後	口輪部	C - 5	II	44 - 4		12C第3四半期	
	243	甕 (常滑)	1(1)	中野縦年2	12C後	口輪部	B - 5	II	44 - 5		12C第3四半期	
	244	甕 (常滑)	1(1)	中野縦年2	12C後	口輪部	C - 7	II	44 - 6		12C第3四半期	
	245	甕 (常滑)	1(1)	中野縦年2	12C後	頸部	B - 7	II	44 - 7		12C第3四半期	239と複合
	246	甕 (常滑)	2(1)	中野縦年2~4	12C後	胴部	C - 4		44 - 8		12C第3四半期	
	247	甕 (常滑)	1(1)	中野縦年2	12C後	胴部	C - 5	I	44 - 9		12C第3四半期	
	248	甕 (常滑)	1(1)	中野縦年2	12C後	胴部	C - 6	II	44 - 10		12C第3四半期	
	249	甕 (常滑)	1(1)	中野縦年2	12C後	口輪部	C - 6	II	44 - 11		12C第3四半期	
	250	甕 (常滑)	1(1)	中野縦年2	12C後	胴部	C - 6	II	44 - 12		12C第3四半期	
	251	甕 (常滑)	1(1)	中野縦年2	12C後	胴部	B - 3	I	44 - 14		12C第3四半期	
	252	甕 (常滑)	1(1)	中野縦年2	12C後	胴部	C - 4	I	44 - 15		12C第3四半期	
	253	甕 (常滑)	1(1)	中野縦年2	12C後	胴部	C - 6	II	44 - 16		12C第3四半期	
	254	甕 (常滑)	1(1)	中野縦年2	12C後	胴部	B - 5	II	44 - 17		12C第3四半期	
	255	甕 (常滑)	1(1)	中野縦年2	12C後	胴部	B - 7	II	44 - 18		12C第3四半期	
	256	甕 (常滑)	1(1)	中野縦年2	12C後	胴部	B - 4	I	44 - 19		12C第3四半期	
	257	甕 (常滑)	1(1)	中野縦年2	12C後	胴部	A - 7	II	44 - 20		12C第3四半期	
	258	甕 (常滑)	1(1)	中野縦年2	12C後	胴部	C - 7	II	44 - 21		12C第3四半期	
	259	甕 (常滑)	1(1)	中野縦年2	12C後	胴部	C - 6	II	44 - 22		12C第3四半期	
	260	甕 (常滑)	1(1)	中野縦年2	12C後	胴部	C - 6	II	44 - 23		12C第3四半期	
	261	甕 (常滑)	1(1)	中野縦年2	12C後	胴部	B - 4		44 - 24		12C第3四半期	
	262	甕 (常滑)	1(1)	中野縦年2	12C後	胴部	B - 5	II	44 - 26		12C第3四半期	
	263	甕 (常滑)	1(1)	中野縦年2	12C後	胴部			44 - 27		12C第3四半期	
	264	甕 (常滑)	1(1)	中野縦年2	12C後	胴部			44 - 28		12C第3四半期	
	265	甕 (常滑)	1(1)	中野縦年2~3	12C後	口輪部			46 - 1			
	266	甕 (常滑)	1(1)	12C?	胴部	A - 1	I	46 - 12			口縁部ないため詳細不明も12Cの可能性高い	
	267	甕 (常滑)	1(1)	12C?	胴部	C - 5	I	46 - 9			同上	
	268	甕 (常滑)	1(1)	12C?	胴部	C - 3	I	46 - 8			同上	
	269	甕 (常滑)	2(1)	12C?	胴部	B - 1 獨立1	- / II	32 - 5			同上	
	270	甕 (常滑)	1(1)	12C?	胴部	C - 6	II	46 - 15			同上	
	271	甕 (常滑)	1(1)	12C?	胴部	B - 6	II	46 - 14			同上	
	272	甕 (常滑)	1(1)	12C?	胴部	A - 2	I	46 - 19			同上	
	273	甕 (常滑)	1(1)	12C?	胴部	B - 2	II	46 - 24			同上	
	274	甕 (常滑)	1(1)	12C?	胴部	C - 6	II	46 - 13			同上	

產地 (底款)	No.	器種	点数	型式	年代	部分	出土地点			写真No.	図No.	摘要
							グリップ	追跡	層			
宮 墓	275	甕(常滑)	1(1)	12C?		胴部	C-7	H	46-16			同上
	276	甕(常滑)	1(1)	12C?		胴部	C-3	I	46-20			同上
	277	甕(常滑)	1(1)	12C?		胴部	B-3	I	46-7			同上
	278	甕(常滑)	1(1)	12C?		胴部	B-2		製作土	36-5		同上
	279	甕(常滑)	1(1)	12C?		胴部	C-2	I	46-25			同上
	280	甕(常滑)	1(1)	12C?		胴部	C-3	I	46-13			同上
	281	甕(常滑)	1(1)	12C?		胴部	A-6	H	46-27			同上
	282	甕(常滑)	1(1)	12C?		胴部	C-3	複文2	I	33-8		同上
	283	甕(常滑)	1(1)	12C?		胴部	A-6	H	46-26			同上
	284	甕(常滑)	1(1)	12C?		胴部	C-4	H	46-18			同上
	285	甕(常滑)	1(1)	12C?		胴部	B-6	H	46-6			同上
	286	広口甕	1(1)	中野綱年2~3	12C後	胴部	C-3	I	46-3			
中 國 〔61(61)〕	287	白磁碗	1(1)	4類	12C後~13C前	口縁部	C-6	H	40-5	26-17		
	288	白磁碗	1(1)	4類	12C後~13C前	口縁部	B-7	H	40-6	26-14		
	289	白磁碗	1(1)	4類	12C後~13C前	口縁部	C-7	H	40-7	26-18		
	290	白磁碗	1(1)	4類	12C後~13C前	口縁部	C-6	H	40-12	26-12		
	291	白磁碗	1(1)	4類	12C後~13C前	口縁部	B-4	H	40-13	26-13		
	292	白磁碗	1(1)	4類	12C後~13C前	胴下部	C-6	H	40-17			
	293	白磁碗	1(1)	4類	12C後~13C前	胴下部	A-5	I	40-18			
	294	白磁碗	1(1)	4類	12C後~13C前	胴部	B-5	H	40-19			
	295	白磁碗	1(1)	4類	12C後~13C前	胴下部	C-6	I	40-20			
	296	白磁碗	1(1)	4類	12C後~13C前	胴下部	A-4	I	40-21			
	297	白磁碗	1(1)	4類	12C後~13C前	胴下部	D-6		40-22			
	298	白磁碗	1(1)	4類	12C後~13C前	胴下部~底部	C-2	H	40-25			
	299	白磁碗	1(1)	4類	12C後~13C前	底部	C-3	I	40-26	26-20		
	300	白磁碗	1(1)	4類	12C後~13C前	底部	C-5	H	40-28	26-19		
	301	白磁碗	1(1)	4類	12C後~13C前	底部	B-5	H	40-29	26-16		
	302	白磁碗	1(1)	4類	12C後~13C前	底部	B-2		41-12	B-2とC-2の幾少部分		
	303	白磁碗	1(1)	4類以外	12C後~13C前	口縁部	C-6		40-3	26-15		
	304	白磁碗	1(1)	4類以外	12C後~13C前	口縁部	B-6	H	40-9			
	305	白磁碗	1(1)	4類以外	12C後~13C前	口縁部	C-5	H	40-10			
	306	白磁碗	1(1)	4類以外	12C後~13C前	口縁部	C-5	H	40-14			
	307	同安窯系青磁碗	1(1)		12C後~13C前	胴部	C-5	H	41-9			
	308	同安窯系青磁碗	1(1)		12C後~13C前	胴部	C-7	H	41-10			
	309	同安窯系青磁碗	1(1)		12C後~13C前	胴部	B-5	I	41-16			
	310	同安窯系青磁碗	1(1)		12C後~13C前	胴下部~底部	B-5		41-17	26-5		
	311	同安窯系青磁碗	1(1)		12C後~13C前	胴下部	B-5		41-18			
	312	同安窯系青磁碗	1(1)		12C後~13C前	胴部			41-19			
	313	同安窯系青磁碗	1(1)		12C後~13C前	胴下部	B-4		41-21			
	314	同安窯系青磁碗	1(1)		12C後~13C前	胴下部~底部	B-8		41-23	26-4		
	315	同安窯系青磁碗	1(1)		12C後~13C前	底部	C-7		41-24	26-9		
	316	同安窯系青磁碗	1(1)		12C後~13C前	胴部	C-7					
	317	同安窯系青磁盤	1(1)		12C後~13C前	口縁部	C-5	H	40-2	26-3		
	318	同安窯系青磁盤	1(1)		12C後~13C前	底部	C-1	H	40-24			
	319	同安(器種不明)	1(1)		12C後~13C前	口縁部	C-7	H	41-4			
	320	剪花文甕	1(1)		13C前	口縁部	C-6	H	41-20			
	321	剪花文甕	1(1)		13C前	底部	B-1		41-25	26-6		
	322	白磁口先尾	1(1)		13C後~14C初	口縁部	C-6	H	40-11	26-24		
	323	白磁口先尾	1(1)		13C後~14C初	底部	C-3	I	40-23	26-25		
	324	東安窯系青磁碗	1(1)	B-1群	13C後~14C初	胴部	B-3	土坂21	33-3			
	325	東安窯系青磁碗	1(1)	B-1群	13C後~14C初	胴下部	C-6	H	38-15			
	326	東安窯系青磁碗	1(1)	B-1群	13C後~14C初	口縁部	C-6	H	41-1	26-1		
	327	東安窯系青磁碗	1(1)	B-1群	13C後~14C初	口縁部	C-4	H	41-2			
	328	東安窯系青磁碗	1(1)	B-1群	13C後~14C初	口縁部	B-6	H	41-3			
	329	東安窯系青磁碗	1(1)	B-1群	13C後~14C初	口縁部	B-4	I	41-7	26-2		
	330	東安窯系青磁碗	1(1)	B-1群	13C後~14C初	口縁部	C-6	H	41-8			
	331	東安窯系青磁碗	1(1)	B-1群	13C後~14C初	口縁部	B-6	H	41-11			
	332	東安窯系青磁碗	1(1)	B-1群	13C後~14C初	胴部	C-7	H	41-13			
	333	東安窯系青磁碗	1(1)	B-1群	13C後~14C初	底部	B-4	I	41-14	26-7		
	334	東安窯系青磁碗	1(1)	B-1群	13C後~14C初	胴部	C-4	I	41-15			
	335	東安窯系青磁碗	1(1)	B-1群	13C後~14C初	胴下部	C-7		41-22	26-8		
	336	青白磁水注	1(1)		13C後~14C初	胴部	B-4	H	40-8			
	337	青か紙の瓶	1(1)		14C以前	胴部	A-9	社410	上層	29-8		
	338	青か紙の瓶	1(1)		14C以前	胴部	B-3		33-11			
	339	青か紙の瓶	1(1)		14C以前	胴~底部	C-8		40-36	26-23		
	340	青白磁系青磁碗	1(1)		13C前	口縁部	C-1	H	41-6	26-10	常文帯がつく	
	341	青白磁系青磁碗	1(1)		13C前	口縁部	A-7	H	41-5	26-11		
	342	麻竹籠	1(1)	B-1群	13C前	底部	C-4		37-14	26-22		
	343	白磁吸風瓶	1(1)		13C後~14C初	口縁部	A-7		40-15			
	344	不明白器	1(1)			口縁部	B-5	H	40-1			
	345	不明白器	1(1)			口縁部	C-5	H	40-4	26-21		
	346	不明白器	1(1)			胴部	C-2		40-16			
	347	不明白器	1(1)			底部	B-1	H	40-27	26-26		
產地不明	348	鉢(產地不明)	1(1)			胴部	C-6	H	35-8	28-83	35と接合	349も同一固体
	349	鉢(產地不明)	1(1)			口縁部	C-6	H	35-9		348、350と同一器体	
	350	鉢(產地不明)	1(1)			底部	C-6	H	35-12	28-83	348と接合	349も同一固体
	?	351	瓦器	1(1)	15C		A-6	H	34-4	28-83		

点数の欄には、まず後扱前の点数を記し、カッコ内に後扱後の点数を記した。総点数は「373(351)」。このほか、中空には在地産と思われる内耳錐
或片(時期不明)が55点出土している。

表II 中世陶磁器出土グリッド別一覧

グリッド	No.	器種	年代	グリッド	No.	器種	年代	グリッド	No.	器種	年代
A-0	337	窓か瓶の類	14C以前	B-2	302	白磁碗	12C後～13C前	B-4	53	灰釉平碗	15C後
	66	鉄輪縁小皿	15C中	143	片口鉢(中津川)	13C後	8	志野系茶碗	15C末		
	29	天日茶碗	15C後	99	灰釉茶碗か小瓶	15C中～後	C-4	136	東山茶碗(束縫)	12C中	
	49	灰釉平碗	15C後	65	鉄輪縁小皿	15C後	246	甕(常滑)	12C後		
	24	天日茶碗	15C中	213	山茶碗(尾張)	12C後	252	甕(常滑)	12C後		
B-0	41	灰釉平碗	15C後	279	白磁碗	12C後～13C前	183	こね林(尾張)	12C末		
D-0	297	白磁碗	12C後～13C前	298	白磁碗	12C後～13C前	187	こね林(尾張)	12C末		
A-1	266	甕(常滑)	12C?	151	片口鉢(中津川)	13C後	284	甕(常滑)	12C?		
	139	片口鉢(中津川)	13C後	191	甕(中津川)	13C後	120	東波瀬茶碗	13C前		
	140	片口鉢(中津川)	13C後	192	甕(中津川)	13C後	122	東山茶碗	13C前		
	190	甕(中津川)	13C後	207	甕(中津川)	13C後	123	東波瀬茶碗	13C前		
	201	甕(中津川)	13C後	82	鉄輪縁茶葉茶	15C	130	東波瀬茶碗	13C前		
	31	天日茶碗	15C	60	灰釉縁小皿	15C中	195	甕(中津川)	13C後		
	79	鉄輪縁母母懐茶葉	15C	61	灰釉縁小皿	15C中	327	同安窯系青磁碗	13C後～14C初		
	38	灰釉平碗	15C中	70	鉄輪内耳鉢	15C中～後	334	毛足窯系青磁碗	13C後～14C初		
	65	灰釉縁小皿	15C中～後	12	溜鉢	15C後	342	付合皿	15C前		
	16	溜鉢	15C後	13	溜鉢	15C後	90	灰釉縁瓶	15C後		
	20	溜鉢	15C後	14	溜鉢	15C後	A-5	293	白磁碗	12C後～13C前	
	89	灰釉盤類	15C後	45	灰釉平碗	15C後	131	東波瀬茶碗	13C前		
	4	灰釉丸皿?	16C後	50	灰釉平碗	15C後	157	片口鉢(中津川)	13C後		
B-1	236	広口甕	12C後	51	灰釉平碗	15C後	243	甕(常滑)	12C後		
	138	山茶碗(中津川)?	12C	26	天目茶碗	15C後?	254	甕(常滑)	12C後		
	269	甕(常滑)	12C?	64	灰釉ハサミ皿?	16C前?	262	甕(常滑)	12C後		
	321	新井文碗	13C前	346	不明白磁		181	こね林(尾張)	12C末		
	150	片口鉢(中津川)	13C後	A-3	111	東波瀬山茶碗	13C前	182	こね林(尾張)	12C末	
	205	甕(中津川)	13C後	184	こね林(尾張)	12C末	294	白磁碗	12C後～13C前		
	81	鉄輪縁母母懐茶葉	15C	191	片口鉢(中津川)	13C後	301	白磁碗	12C後～13C前		
	37	灰釉平碗	15C中	93	灰釉盤類	15C中	309	同安窯系青磁碗	12C後～13C前		
	39	灰釉平碗	15C中	17	溜鉢	15C後	310	同安窯系青磁碗	12C後～13C前		
	40	灰釉平碗	15C中	19	溜鉢	15C後	311	同安窯系青磁碗	12C後～13C前		
	67	鉄輪灰供	15C中	57	灰釉腰折皿	15C後	113	東波瀬山茶碗	13C前		
	92	灰釉盤類	15C中	A-3	251	甕(常滑)	12C後	134	東波瀬茶碗	13C前	
	94	灰釉盤類	15C中	277	甕(常滑)	12C?	146	片口鉢(中津川)	13C後		
	102	鉄輪小坪か小瓶	15C中～後	149	片口鉢(中津川)	13C後	152	片口鉢(中津川)	13C後		
	11	溜鉢	15C後	162	片口鉢(中津川)	13C後	156	片口鉢(中津川)	13C後		
	15	溜鉢	15C後	324	竜泉窯系青磁碗	13C後～14C初	199	甕(中津川)	13C後		
	18	溜鉢	15C後	97	灰釉折腰盤皿	14C前	206	甕(中津川)	13C後		
	41	灰釉平碗	15C後	338	溜か楕の瓶	14C以前	215	甕(中津川)	13C後		
	43	灰釉平碗	15C後	80	灰釉印皿	15C	142	片口鉢(中津川)	13C後		
	44	灰釉平碗	15C後	62	灰釉縁小皿	15C中	1	灰釉腰折皿か丸皿	16C前		
	46	灰釉平碗	15C後	95	灰釉即付大皿	15C中	7	灰釉灰壳皿	16C前		
	47	灰釉平碗	15C後	42	溜鉢?	16C?	344	不明白磁			
	48	灰釉平碗	15C後	C-3	286	広口甕	12C後	C-5	242	甕(常滑)	12C後
	54	灰釉平碗	15C後	268	甕(常滑)	12C?	247	甕(常滑)	12C後		
	69	鉄輪縁小皿	15C後	276	甕(常滑)	12C?	267	甕(常滑)	12C?		
	78	鉄輪腰折香炉	15C後	280	甕(常滑)	12C?	104	灰釉小皿	12C後～13C前		
	347	不明白磁		282	甕(常滑)	12C?	105	夏波瀬里	12C後～13C前		
C-1	237	広口甕	12C後	299	白磁碗	12C後～13C前	300	白磁碗	12C後～13C前		
	238	甕(常滑)	12C後	110	東波瀬山茶碗	13C前	305	白磁碗	12C後～13C前		
	17	こね林(尾張)	12C末	155	片口鉢(中津川)	13C後	306	白磁碗	12C後～13C前		
	318	同安窯系青磁碗皿?	12C後～13C前	323	白磁口直皿	13C後～14C初	307	同安窯系青磁碗	12C後～13C前		
	117	東波瀬山茶碗	13C前	71	鉄輪内耳鉢	15C中～後	317	同安窯系青磁皿	12C後～13C前		
	193	甕(中津川)	13C後	72	鉄輪内耳鉢	15C中～後	118	東波瀬山茶碗	13C前		
	98	灰釉折線深皿	14C前	74	鉄輪内耳鉢	15C中～後	200	甕(中津川)	13C後		
	23	天日茶碗	15C前	286	甕(中津川)	13C後	25	天目茶碗	15C中		
	340	竜泉窯系青磁碗	15C前	A-4	31	73	甕(中津川)	13C後	10	溜鉢	15C後
	24	天日茶碗	15C中	296	白磁碗	12C後～13C前	345	不明白磁			
	63	灰釉縁小皿	15C中	116	東波瀬山茶碗	13C前	A-6	281	甕(常滑)	12C?	
	77	灰釉腰折香炉	15C中	30	天日茶碗	15C後	282	甕(常滑)	12C?		
	91	灰釉盤類	15C中	52	灰釉平碗	15C後	63	灰釉内耳皿	13C前		
	95	灰釉直縁大皿	15C中	36	天目茶碗	16C後	144	片口鉢(中津川)	13C後		
	59	灰釉縁小皿	15C中～後	108	東波瀬山茶碗	12C後	161	片口鉢(中津川)	13C後		
	101	灰釉浅碗?	15C中～後	256	甕(常滑)	12C後	198	甕(中津川)	13C後		
	28	天日茶碗	15C後	261	甕(常滑)	12C後	208	甕(中津川)	13C後		
	41	灰釉平碗	15C後	105	東濃小皿	12C後～13C前	213	甕(中津川)	13C後		
	42	灰釉平碗	15C後	291	白磁碗	12C後～13C前	351	瓦器	15C		
	55	灰釉平碗	15C後	313	同安窯系青磁碗	12C後～13C前	2	灰釉腰折皿か丸皿	16C前		
	56	灰釉平碗	15C後	83	灰釉四耳釜	13C前	21	溜鉢	16C前		
	27	天日茶碗	15C後?	124	東波瀬山茶碗	13C前	32	天目茶碗	16C前		
	87	灰釉即付	15C後?	132	東波瀬山茶碗	13C前	B-6	107	東波瀬山茶碗	12C後	
	33	天日茶碗	16C前	133	東波瀬山茶碗	13C前	240	甕(常滑)	12C後		
A-2	177	こね林(尾張)	12C末	145	片口鉢(中津川)	13C後	241	甕(常滑)	12C後		
	272	甕(常滑)	12C?	163	片口鉢(中津川)	13C後	271	甕(常滑)	12C?		
	141	片口鉢(中津川)	13C後	329	竜泉窯系青磁碗	13C後～14C初	285	甕(常滑)	12C?		
	135	東波瀬山茶碗	15C前	333	竜泉窯系青磁碗	13C後～14C初	304	白磁碗	12C後～13C前		
B-2	273	甕(常滑)	12C?	336	青白磁水注	13C後～14C初	114	東波瀬山茶碗	13C前		
	278	甕(常滑)	12C?								

グリッド	No.	器種	年代
B-6	115	東瀛山茶碗	13C前
	125	東瀛山茶碗	13C前
	127	東瀛山茶碗	13C前
	159	片口鉢(中津川)	13C後
	202	甕(中津川)	13C後
	203	甕(中津川)	13C後
	204	甕(中津川)	13C後
	329	電風窯系青磁碗	13C後~14C初
	331	電風窯系青磁碗	13C後~14C初
	21	抹棒	16C前
C-6	239	甕(常滑)	12C後
	248	甕(常滑)	12C後
	249	甕(常滑)	12C後
	250	甕(常滑)	12C後
	253	甕(常滑)	12C後
	259	甕(常滑)	12C後
	260	甕(常滑)	12C後
	270	甕(常滑)	12C?
	274	甕(常滑)	12C?
	287	白磁碗	12C後~13C前
	290	白磁碗	12C後~13C前
	292	白磁碗	12C後~13C前
	295	白磁碗	12C後~13C前
	303	白磁碗	12C後~13C前
	121	東瀛山茶碗	13C前
	320	刻花文碗	13C前
	160	片口鉢(中津川)	13C後
	322	白磁碗(中津川)	13C後~14C初
	325	電風窯系青磁碗	13C後~14C初
	326	電風窯系青磁碗	13C後~14C初
	330	電風窯系青磁碗	13C後~14C初
	85	灰釉梅瓶?	14C前?
	75	鈎輪内耳罐	15C中~後
	76	鈎輪内耳罐	15C中~後
	103	铁物付匣	15C中?
	345	体(金地不明)	不明
	349	体(金地不明)	不明
	350	体(金地不明)	不明
A-7	257	甕(常滑)	12C後
	180	こね鉢(馬頭)	12C末
	112	東瀛山茶碗	13C前
	119	東瀛山茶碗	13C前
A-7	153	片口鉢(中津川)	13C後
	158	片口鉢(中津川)	13C後
	194	甕(中津川)	13C後
	341	電風窯系青磁碗	13C前
	343	白磁反皿	15C後~16C初
B-7	245	甕(常滑)	12C後
	255	甕(常滑)	12C後
	185	こね鉢(尾張)	12C末
	280	白磁碗	12C後~13C前
	128	東瀛山茶碗	13C前
	197	甕(中津川)	13C後
	209	甕(中津川)	13C後
	211	甕(中津川)	13C後
	58	灰釉腰折皿	15C後
	5	灰釉丸皿	16C後
	6	灰釉丸皿	16C後
C-7	244	甕(常滑)	12C後
	258	甕(常滑)	12C後
	186	こね鉢(尾張)	12C末
	275	甕(常滑)	12C?
	289	白磁碗	12C後~13C前
	308	同安窯系青磁碗	12C後~13C前
	315	同安窯系青磁碗	12C後~13C前
	316	同安窯系青磁碗	12C後~13C前
	319	同安(體格不明)	12C後~13C前
	216	東瀛山茶碗	13C前
	129	東瀛山茶碗	13C前
	147	片口鉢(中津川)	13C後
	148	片口鉢(中津川)	13C後
	195	甕(中津川)	13C後
	214	甕(中津川)	13C後
	332	電風窯系青磁碗	13C後~14C初
	335	電風窯系青磁碗	13C後~14C初
	84	灰釉四耳皿	14C前
A-8	80	鉄物付母子茶壺	15C前
B-8	314	同安窯系青磁碗	12C後~13C前
C-8	339	漁かし鉢の類	14C以前
不明	263	甕(常滑)	12C後
	264	甕(常滑)	12C後
	265	甕(常滑)	12C後
	189	こね鉢(尾張)	12C末
	312	同安窯系青磁碗	12C後~13C前
不明	164	片口鉢(中津川)	13C後
	165	片口鉢(中津川)	13C後
	166	片口鉢(中津川)	13C後
	167	片口鉢(中津川)	13C後
	168	片口鉢(中津川)	13C後
	169	片口鉢(中津川)	13C後
	170	片口鉢(中津川)	13C後
	171	片口鉢(中津川)	13C後
	172	片口鉢(中津川)	13C後
	173	片口鉢(中津川)	13C後
	174	片口鉢(中津川)	13C後
	175	片口鉢(中津川)	13C後
	176	片口鉢(中津川)	13C後
	210	甕(中津川)	13C後
	212	甕(中津川)	13C後
	216	甕(中津川)	13C後
	217	甕(中津川)	13C後
	218	甕(中津川)	13C後
	219	甕(中津川)	13C後
	220	甕(中津川)	13C後
	221	甕(中津川)	13C後
	222	甕(中津川)	13C後
	223	甕(中津川)	13C後
	224	甕(中津川)	13C後
	225	甕(中津川)	13C後
	226	甕(中津川)	13C後
	227	甕(中津川)	13C後
	228	甕(中津川)	13C後
	229	甕(牛津川)	13C後
	230	甕(中津川)	13C後
	231	甕(中津川)	13C後
	232	甕(中津川)	13C後
	233	甕(中津川)	13C後
	234	甕(中津川)茶筒	13C後
	235	甕(中津川)茶筒	13C後
	86	灰釉梅瓶?	14C前?
	100	灰釉小瓶	15C中~後
9	黄漆戶鉢	15C末	
	34	天目茶碗	16C中
	35	天目茶碗	16C後
	3	灰釉燒反皿?	?

表12 中世陶器年代別一覧

グリッド	年代	No.	器種
C-4	12C中	136	千手山茶碗(東瀛)
B-1	12C後	236	広口茶碗
C-1	12C後	237	広口鉢
C-1	12C後	238	甕(常滑)
C-2	12C後	137	山茶(尾張)
B-3	12C後	251	甕(常滑)
C-3	12C後	286	108 東瀛山茶碗
B-4	12C後	203	甕(常滑)
B-4	12C後	256	甕(常滑)
B-4	12C後	261	甕(常滑)
C-4	12C後	246	甕(常滑)
C-4	12C後	252	甕(常滑)
B-5	12C後	109	東瀛山茶碗
B-5	12C後	243	甕(常滑)
B-5	12C後	254	甕(常滑)
B-5	12C後	262	甕(常滑)
C-5	12C後	242	甕(常滑)
C-5	12C後	247	甕(常滑)
B-6	12C後	107	東瀛山茶碗
B-6	12C後	240	甕(常滑)
B-6	12C後	241	甕(常滑)
C-6	12C後	239	甕(常滑)
C-6	12C後	248	甕(常滑)
C-6	12C後	249	甕(常滑)
C-6	12C後	250	甕(常滑)
C-6	12C後	251	甕(常滑)
C-6	12C後	259	甕(常滑)
C-6	12C後	260	甕(常滑)
A-7	12C後	257	甕(常滑)
B-7	12C後	245	甕(常滑)
C-7	12C後	255	甕(常滑)
C-7	12C後	258	甕(常滑)
	12C	138	山茶(中津川)?
	12C	264	甕(常滑)
	12C	265	甕(常滑)
C-1	12C末	178	こね鉢(尾張)
A-2	12C末	177	こね鉢(尾張)
D-2	12C末	179	こね鉢(尾張)
D-2	12C末	184	こね鉢(尾張)
A-4	12C末	188	こね鉢(尾張)
C-4	12C末	183	こね鉢(尾張)
C-4	12C末	187	こね鉢(尾張)
B-5	12C末	181	こね鉢(尾張)
B-5	12C末	182	こね鉢(尾張)
A-7	12C末	180	こね鉢(尾張)
B-7	12C末	185	こね鉢(尾張)
C-7	12C末	186	こね鉢(尾張)
	12C末	189	こね鉢(尾張)
B-1	12C	138	山茶(中津川)?
	12C	266	甕(常滑)
A-1	12C?	267	甕(常滑)
B-1	12C?	269	甕(常滑)
A-2	12C?	272	甕(常滑)
B-2	12C?	273	甕(常滑)
B-2	12C?	278	甕(常滑)
C-2	12C?	279	甕(常滑)
B-3	12C?	277	甕(常滑)
C-3	12C?	268	甕(常滑)
C-3	12C?	276	甕(常滑)
C-3	12C?	280	甕(常滑)
C-3	12C?	282	甕(常滑)
C-4	12C?	284	甕(常滑)
C-4	12C?	272	甕(常滑)
C-5	12C?	287	甕(常滑)
C-5	12C?	288	甕(常滑)
C-5	12C?	289	甕(常滑)
C-5	12C?	290	甕(常滑)
C-5	12C?	291	甕(常滑)
C-5	12C?	292	甕(常滑)
C-5	12C?	293	甕(常滑)
C-5	12C?	294	甕(常滑)
B-5	12C?	301	白磁碗
B-5	12C?	302	白磁碗
B-5	12C?	310	同安窯系青磁碗
B-5	12C?	311	同安窯系青磁碗
C-5	12C?	318	同安窯系青磁碗
C-5	12C?	319	同安窯系青磁碗
C-5	12C?	320	同安窯系青磁碗
C-5	12C?	321	同安窯系青磁碗
C-5	12C?	322	同安窯系青磁碗
C-5	12C?	323	同安窯系青磁碗
C-5	12C?	324	同安窯系青磁碗
C-5	12C?	325	同安窯系青磁碗
C-5	12C?	326	同安窯系青磁碗
C-5	12C?	327	同安窯系青磁碗
C-5	12C?	328	同安窯系青磁碗
C-5	12C?	329	同安窯系青磁碗
C-5	12C?	330	同安窯系青磁碗
C-5	12C?	331	同安窯系青磁碗
C-5	12C?	332	同安窯系青磁碗
C-5	12C?	333	同安窯系青磁碗
C-5	12C?	334	同安窯系青磁碗
C-5	12C?	335	同安窯系青磁碗
C-5	12C?	336	同安窯系青磁碗
C-5	12C?	337	同安窯系青磁碗
C-5	12C?	338	同安窯系青磁碗
C-5	12C?	339	同安窯系青磁碗
C-5	12C?	340	白磁碗
C-6	12C?	285	甕(常滑)
C-6	12C?	271	甕(常滑)
C-6	12C?	285	甕(常滑)
C-6	12C?	270	甕(常滑)

グリッド	年代	No.	器種	グリッド	年代	No.	器種	グリッド	年代	No.	器種	
C-7	12C後～13C前	316	同安窯系青磁碗		13C後	167	片口鉢(中津川)	C-2	15C中～後	70	銷内耳鉢	
C-7	12C後～13C前	319	同安(種類不明)		13C後	168	片口鉢(中津川)	C-3	15C中～後	71	銷内耳鉢	
B-8	12C後～13C前	314	同安窯系青磁碗		13C後	169	片口鉢(中津川)	C-3	15C中～後	72	銷内耳鉢	
	12C後～13C前	312	同安窯系青磁碗		13C後	170	片口鉢(中津川)	C-3	15C中～後	74	銷内耳鉢	
B-1	13C前	321	蔚花文鏡		13C後	171	片口鉢(中津川)	D-3	15C中～後	75	銷内耳鉢	
C-1	13C前	1117	東嶽山茶碗		13C後	172	片口鉢(中津川)	C-6	15C中～後	75	銷内耳鉢	
A-3	13C前	1111	東嶽山茶碗		13C後	173	片口鉢(中津川)	C-6	15C中～後	76	銷内耳鉢	
C-3	13C前	1101	東嶽山茶碗		13C後	174	片口鉢(中津川)		15C中～後	100	灰陶小茶碗	
C-3	13C前	1161	東嶽山茶碗		13C後	175	片口鉢(中津川)	A-0	15C後	29	天目茶碗	
B-4	13C前	1241	東嶽山茶碗		13C後	176	片口鉢(中津川)	A-0	15C後	49	灰陶小碗	
B-4	13C前	1322	東嶽山茶碗		13C後	210	碗(中津川)	A-1	15C後	16	唐鉢	
B-4	13C前	133	東嶽山茶碗		13C後	212	碗(中津川)	A-1	15C後	20	唐鉢	
B-4	13C前	133	東嶽山茶碗		13C後	216	碗(中津川)	A-1	15C後	89	灰陶粗頭	
B-4	13C前	83	灰陶四耳罐		13C後	217	碗(中津川)	B-1	15C後	11	唐鉢	
C-4	13C前	120	東嶽山茶碗		13C後	218	碗(中津川)	B-1	15C後	15	唐鉢	
C-4	13C前	122	東嶽山茶碗		13C後	219	碗(中津川)	B-1	15C後	18	唐鉢	
C-4	13C前	123	東嶽山茶碗		13C後	220	碗(中津川)	B-1	15C後	43	灰陶平碗	
C-4	13C前	130	東嶽山茶碗		13C後	221	碗(中津川)	B-1	15C後	44	灰陶平碗	
A-5	13C前	131	東嶽山茶碗		13C後	222	碗(中津川)	B-1	15C後	46	灰陶平碗	
B-5	13C前	1113	東嶽山茶碗		13C後	223	碗(中津川)	B-1	15C後	47	灰陶平碗	
B-5	13C前	134	東嶽山茶碗		13C後	224	碗(中津川)	B-1	15C後	48	灰陶平碗	
C-5	13C前	1118	東嶽山茶碗		13C後	225	碗(中津川)	B-1	15C後	54	灰陶平碗	
B-6	13C前	1141	東嶽山茶碗		13C後	226	碗(中津川)	B-1	15C後	69	铁胎绿釉小皿	
B-6	13C前	115	東嶽山茶碗		13C後	227	碗(中津川)	B-1	15C後	78	铁胎绿釉香炉	
B-6	13C前	125	東嶽山茶碗		13C後	228	碗(中津川)	B-0	15C後	41	灰陶平碗	
B-6	13C前	127	東嶽山茶碗		13C後	229	碗(中津川)	B-1	15C後	28	天目茶碗	
C-6	13C前	121	東嶽山茶碗		13C後	230	碗(中津川)	C-1	15C後	42	灰陶茶碗	
C-6	13C前	320	新花文鏡		13C後	231	碗(中津川)	C-1	15C後	55	灰陶茶碗	
A-7	13C前	1111	東嶽山茶碗		13C後	232	碗(中津川)	C-1	15C後	56	灰陶平碗	
A-7	13C前	1119	東嶽山茶碗		13C後	233	碗(中津川)	B-2	15C後	68	铁胎绿釉小皿	
B-7	13C前	128	東嶽山茶碗		13C後	234	碗(中津川) [空冷]	C-2	15C後	12	唐鉢	
C-7	13C前	126	東嶽山茶碗		13C後	235	碗(中津川) [空冷]	C-2	15C後	13	唐鉢	
C-7	13C前	129	東嶽山茶碗		B-3	111C後～14C初	324	兔毫瓶系直瓶	C-2	15C後	14	唐鉢
A-1	13C後	139	片口鉢(中津川)		C-3	111C後～14C初	323	白口白碗	C-2	15C後	45	灰陶平碗
A-1	13C後	140	片口鉢(中津川)		B-4	111C後～14C初	329	兔毫瓶系直瓶	C-2	15C後	50	灰陶平碗
A-1	13C後	190	(中津川)		B-4	111C後～14C初	331	兔毫瓶系直瓶	C-2	15C後	51	灰陶平碗
A-1	13C後	201	(中津川)		B-4	111C後～14C初	332	青白釉水注	C-2	15C後	52	灰陶平碗
B-1	13C後	150	片口鉢(中津川)		C-4	111C後～14C初	327	兔毫瓶系直瓶	C-2	15C後	53	灰陶平碗
B-1	13C後	205	片口鉢(中津川)		C-4	111C後～14C初	324	兔毫瓶系直瓶	C-2	15C後	54	灰陶平碗
B-1	13C後	193	(中津川)		C-4	111C後～14C初	324	兔毫瓶系直瓶	A-3	15C後	17	唐鉢
A-2	13C後	1411	片口鉢(中津川)		B-6	111C後～14C初	328	兔毫瓶系直瓶	A-3	15C後	19	唐鉢
B-2	13C後	1433	片口鉢(中津川)		B-6	111C後～14C初	321	兔毫瓶系直瓶	A-3	15C後	57	灰陶壓手扇
C-2	13C後	151	片口鉢(中津川)		C-6	111C後～14C初	322	白口白碗	A-4	15C後	30	天目茶碗
C-2	13C後	191	(中津川)		C-6	111C後～14C初	325	兔毫瓶系直瓶	A-4	15C後	52	灰陶平碗
C-2	13C後	192	(中津川)		C-6	111C後～14C初	326	兔毫瓶系直瓶	B-4	15C後	53	灰陶平碗
C-2	13C後	297	瓶(中津川)		C-6	111C後～14C初	328	兔毫瓶系直瓶	C-4	15C後	99	灰陶綠瓶
A-3	13C後	1541	片口鉢(中津川)		C-6	111C後～14C初	329	兔毫瓶系直瓶	C-5	15C後	10	唐鉢
B-3	13C後	149	片口鉢(中津川)		C-7	111C後～14C初	324	兔毫瓶系直瓶	B-7	15C後	58	灰陶壓手扇
B-3	13C後	162	片口鉢(中津川)		C-7	111C後～14C初	325	兔毫瓶系直瓶	C-1	15C後	15	天目茶碗
C-3	13C後	155	片口鉢(中津川)		C-7	111C後～14C初	327	兔毫瓶系直瓶	C-1	15C後	87	灰陶瓶
B-4	13C後	1451	片口鉢(中津川)		C-7	111C後～14C初	328	兔毫瓶系直瓶	C-2	15C後	26	天目茶碗
B-4	13C後	163	片口鉢(中津川)		C-7	111C後～14C初	329	兔毫瓶系直瓶	B-4	15C後	8	灰陶瓶
C-4	13C後	196	(中津川)		C-7	111C後～14C初	330	兔毫瓶系直瓶	B-4	15C後	1	灰陶瓶
A-5	13C後	157	片口鉢(中津川)		C-7	111C後～14C初	331	兔毫瓶系直瓶	A-1	15C	31	天目茶碗
B-5	13C後	142	片口鉢(中津川)		C-7	111C後～14C初	332	兔毫瓶系直瓶	A-1	15C	79	铁胎绿釉棒槌
B-5	13C後	146	片口鉢(中津川)		C-8	14C前	98	灰陶压手扇	B-1	15C後	83	铁胎绿釉棒槌
C-5	13C後	155	片口鉢(中津川)		B-3	14C前	97	灰陶压手扇	C-1	15C後	87	灰陶瓶
B-5	13C後	1451	片口鉢(中津川)		C-7	14C前	84	灰陶四耳罐	C-2	15C後	87	灰陶瓶
B-5	13C後	156	片口鉢(中津川)		C-6	14C前?	85	灰陶瓶?	B-4	15C後	8	灰陶瓶
B-5	13C後	206	(中津川)		C-6	14C前?	86	灰陶瓶?	B-4	15C後	1	灰陶瓶
B-5	13C後	215	(中津川)		A-0	14C前?	337	查牙小盒	A-1	15C	31	天目茶碗
C-5	13C後	200	(中津川)		B-3	14C前?	338	查牙小盒	A-1	15C	73	铁胎绿釉棒槌
A-6	13C後	144	片口鉢(中津川)		C-1	14C前	98	灰陶压手扇	B-1	15C後	2	灰陶压手扇
A-6	13C後	161	片口鉢(中津川)		C-1	14C前	98	灰陶压手扇	A-6	16C前	2	灰陶压手扇
A-6	13C後	198	(中津川)		B-1	15C前	37	灰陶平碗	A-6	16C前	87	灰陶压手扇
B-6	13C後	152	片口鉢(中津川)		C-1	15C前	37	灰陶平碗	B-5	16C後	7	灰陶内壳
B-6	13C後	156	片口鉢(中津川)		C-1	15C前	39	灰陶平碗	B-7	15C後	5	灰陶丸底
B-6	13C後	195	(中津川)		C-1	15C前	40	灰陶平碗	B-7	16C後	6	灰陶丸底
B-6	13C後	206	(中津川)		B-1	15C前	62	灰陶併舟	C-2	16C後	35	天目茶碗
B-6	13C後	215	(中津川)		B-1	15C前	92	灰陶併舟	C-1	16C後	103	铁胎绿釉
C-5	13C後	200	(中津川)		B-1	15C前	94	灰陶併舟	A-1	16C後	4	灰陶丸底
A-6	13C後	144	片口鉢(中津川)		B-1	15C前	63	灰陶併舟小皿	A-4	16C後	36	天目茶碗
A-6	13C後	161	片口鉢(中津川)		C-1	15C前	77	灰陶併舟青磁	B-5	16C後	7	灰陶内壳
A-6	13C後	198	(中津川)		C-1	15C前	91	灰陶併舟	B-7	15C後	5	灰陶丸底
A-6	13C後	208	(中津川)		C-1	15C前	95	灰陶併舟大皿	B-7	16C後	6	灰陶丸底
A-6	13C後	213	(中津川)		C-2	15C前	60	灰陶併舟小皿	C-6	16C後	35	天目茶碗
B-6	13C後	159	片口鉢(中津川)		C-2	15C前	61	灰陶併舟小皿	B-3	16C?	22	唐鉢
B-6	13C後	202	(中津川)		B-1	15C前	93	灰陶併舟	B-1	不明	347	不明白
B-6	13C後	203	(中津川)		B-1	15C前	62	灰陶併舟	C-2	不明	346	不明白
B-6	13C後	204	(中津川)		B-1	15C前	94	灰陶併舟	A-2	不明	345	不明白
C-6	13C後	160	片口鉢(中津川)		B-1	15C前	77	灰陶併舟青磁	B-5	不明	344	不明白
A-7	13C後	153	片口鉢(中津川)		C-1	15C前	95	灰陶併舟	C-5	不明	345	不明白
A-7	13C後	158	片口鉢(中津川)		C-1	15C前	59	灰陶併舟小皿	C-6	不明	345	灰陶(底地不明)
A-7	13C後	194	(中津川)		C-2	15C前	99	灰陶併舟小皿	C-6	不明	350	灰陶(底地不明)
B-7	13C後	197	(中津川)		C-2	15C前	61	灰陶併舟小皿	C-7	不明	3	灰陶罐反皿
B-7	13C後	209	(中津川)		A-3	15C前	93	灰陶併舟				
B-7	13C後	211	(中津川)		B-3	15C前	62	灰陶併舟				
C-7	13C後	147	片口鉢(中津川)		B-3	15C前	94	灰陶併舟				
C-7	13C後	148	片口鉢(中津川)		C-3	15C前	96	灰陶即日大皿				
C-7	13C後	195	(中津川)		C-5	15C前	25	天目茶碗				
C-7	13C後	214	(中津川)		C-5	15C前	65	灰陶併舟小皿				
B-6	13C後	164	片口鉢(中津川)		B-1	15C中～後	102	铁胎小坪小皿				
B-6	13C後	165	片口鉢(中津川)		C-1	15C中～後	59	灰陶併舟小皿				
B-6	13C後	166	片口鉢(中津川)		B-2	15C中～後	99	灰陶併舟小皿				



図6 若森社遺跡全体図 (1:100)

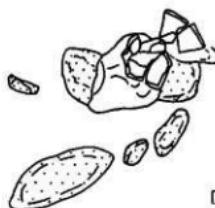
上部



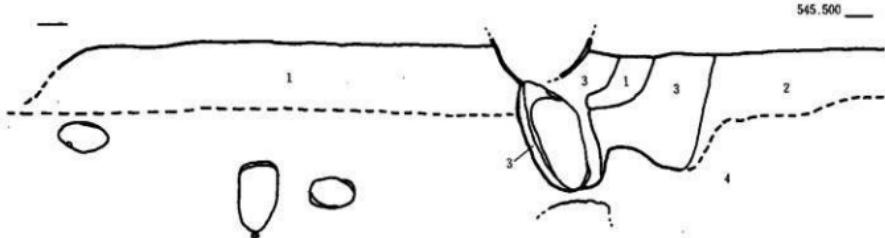
中部



下部



は30cm程下の石



- 1 灰黃褐色土 粘りのある砂が多く混じる。
2 灰褐色土
3 黑褐色土
4 黑褐色土 粘りのある砂が多く混じる灰褐色土に茶色い鉄分が点々と混じる。



図 7 埋立状造構実測図 (1 : 10)

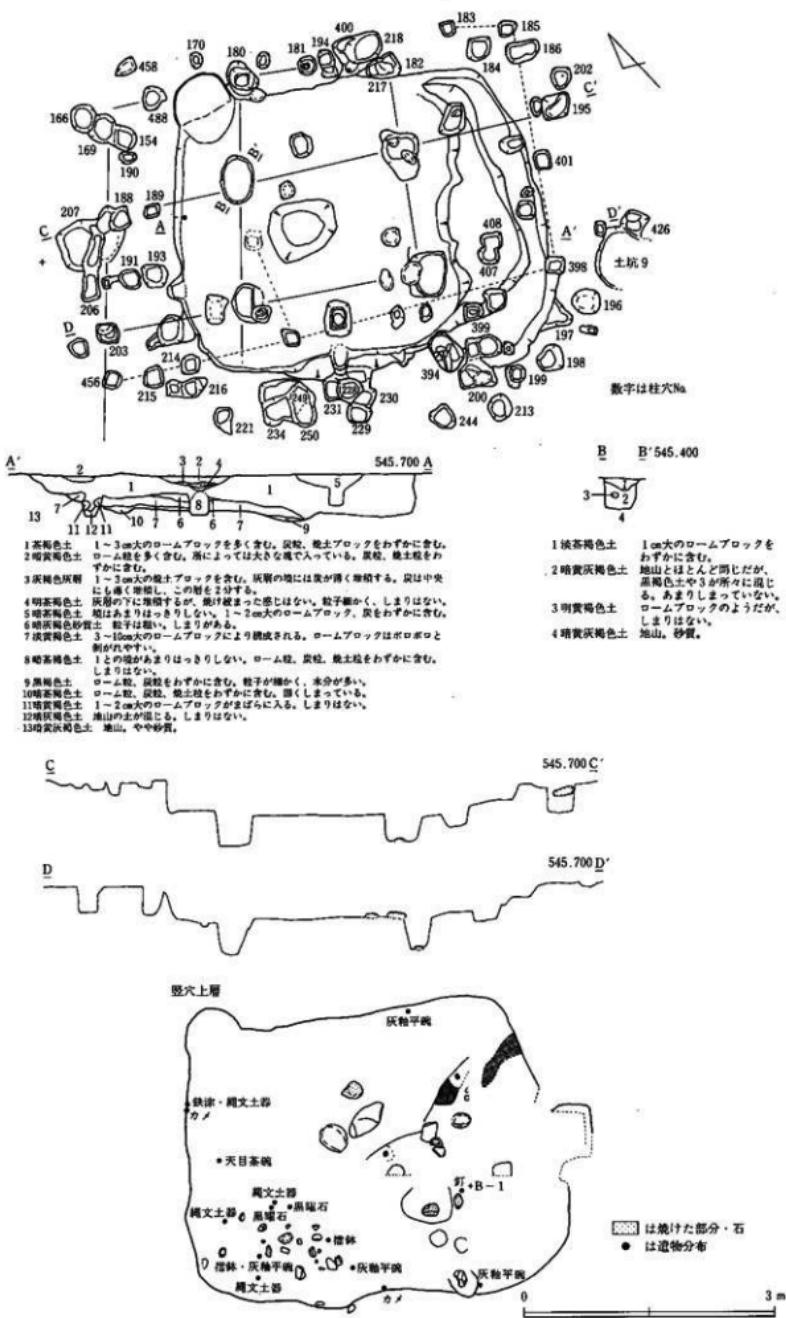


図 8 掘立柱建物 I・竪穴実測図 (1:60)

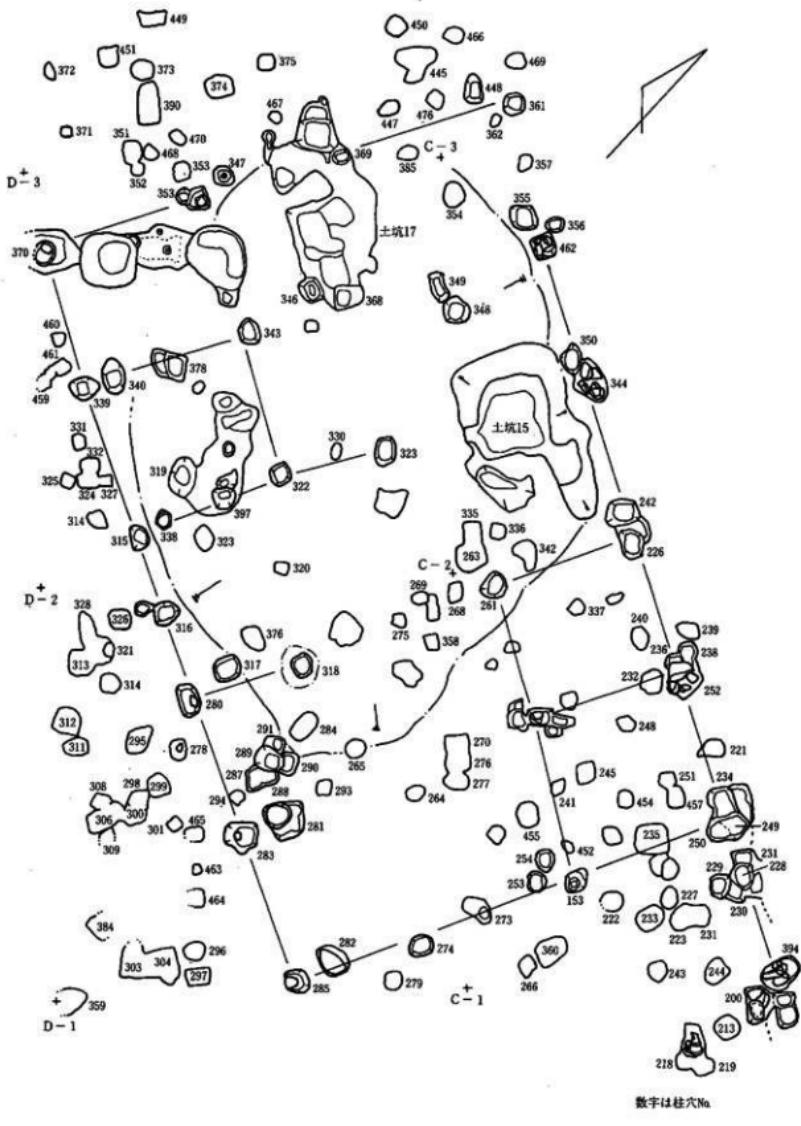


図9 掘立柱建物2実測図(1:60)

1 黄褐色土 ローム粘、ロームアロックを多く含む。腐植、炭土質をわずかに含む。
2 黄白色土 地山。



図10 浅くくほんだ遺構配石図 (1:60)

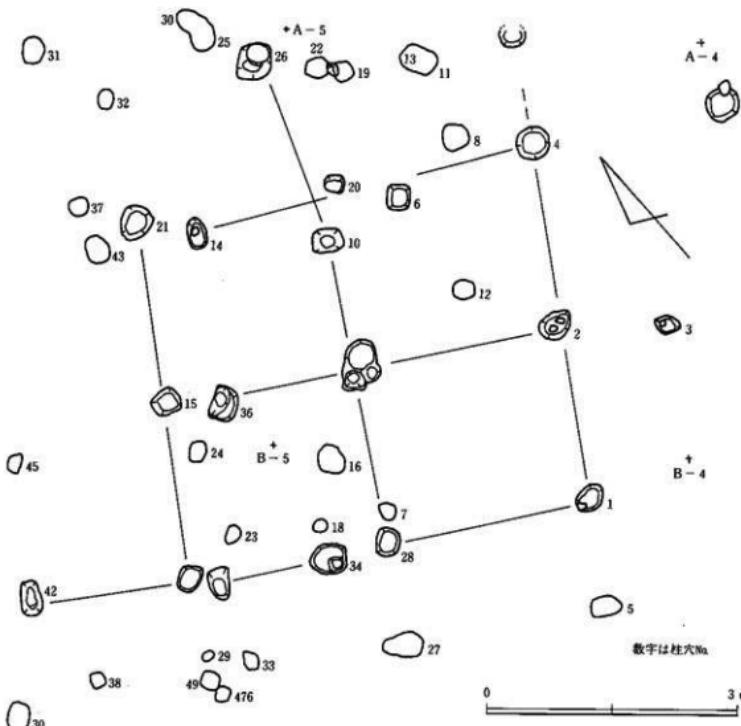


図11 据立柱建物3実測図（1:60）

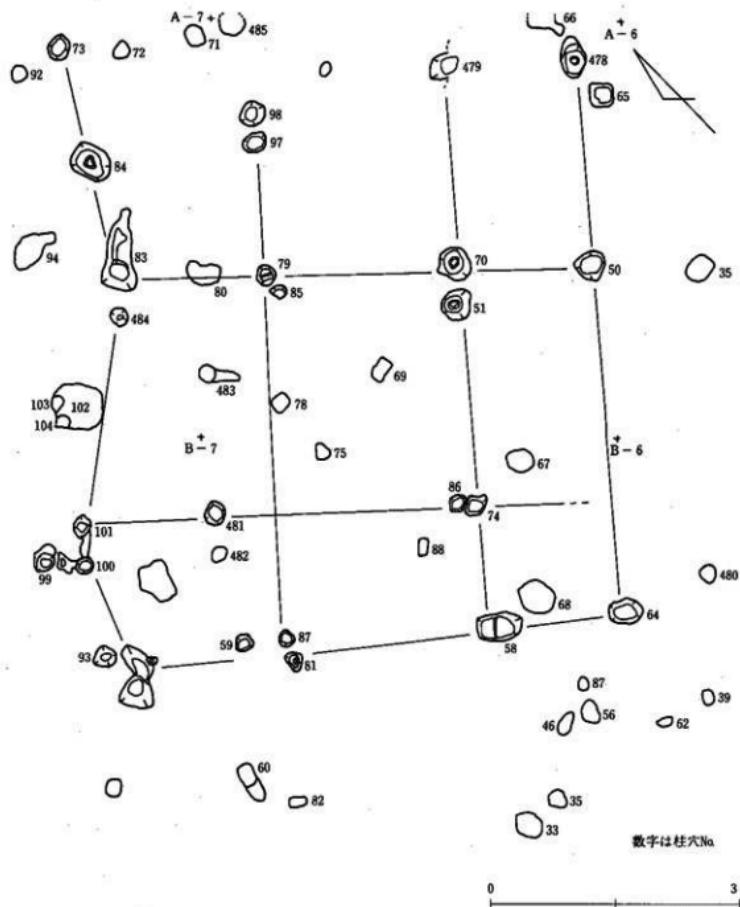


図12 振立柱建物4 実測図 (1 : 60)



図13 土坑実測図 (1 : 40)

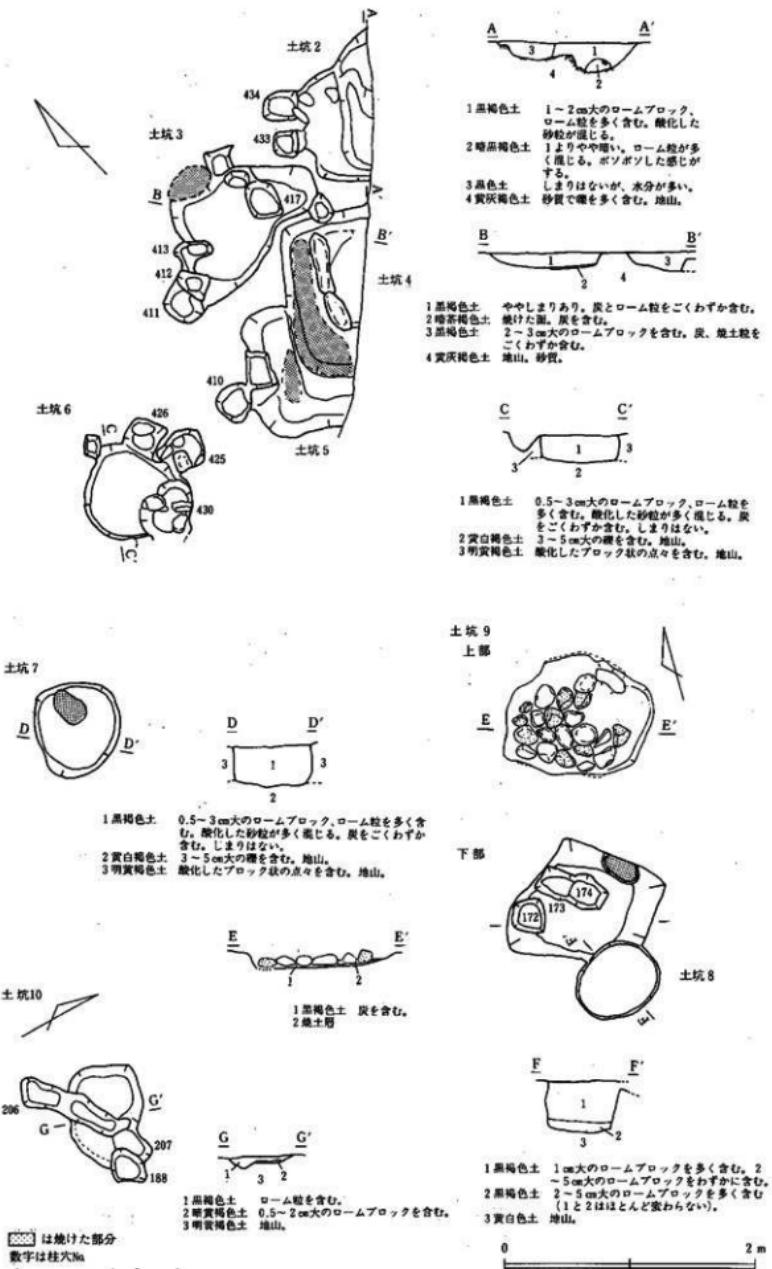
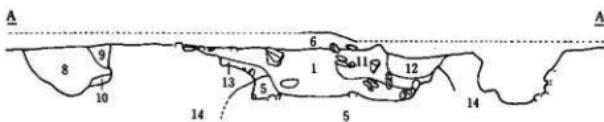
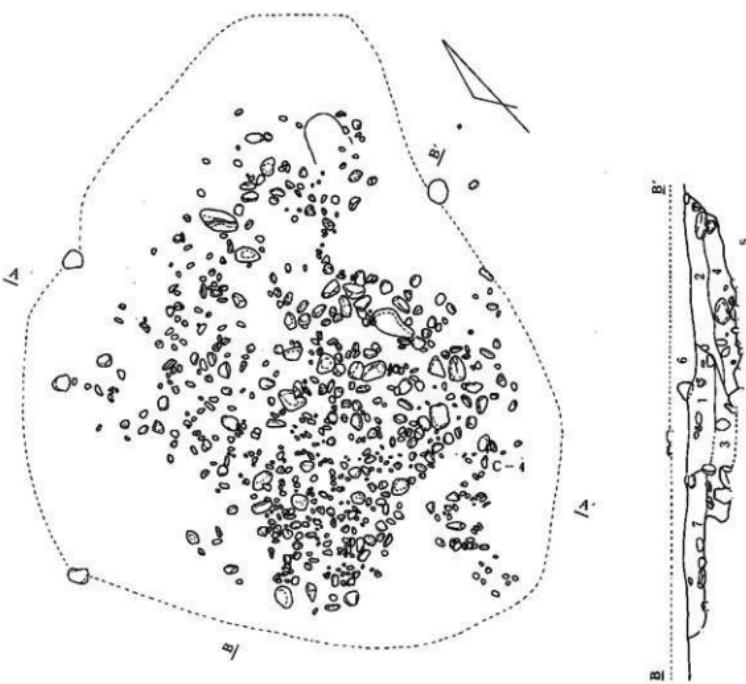


図14 土坑実測図 (1 : 40) 標高はすべて 545.700m



- 1 深部褐色土 1~10cmの大の礫を多く含む。
 2 黄褐色土 磐をほとんど含まない。
 3 深部褐色土 ローム粒を含む。2~20cmの大の礫を多く含む。
 4 不育色土 1~20cmの大の礫を多く含む。
 5 植被褐色土 やや砂質、風化した花崗岩を含む礫が多く風じる。堆山の下の礫層。
 6 黑褐色土 しまりがあり、酸化した粒を多く含む。上部は礁層の盛り上がりの検出面。
 7 砂質灰褐色土 1~10cmの大の礫を多く含む。
 8 黑褐色土 ローム粒、波紋、礁土粒、酸化した粒をわずかに含む。粘質。
 9 灰褐色土 ローム粒、酸化した粒を含む。粘質。
 10 黑褐色土 酸化した粒をわずかに含む。粘質。
 11 黑褐色土 1~10cmの大の礫を多く含む。
 12 深部褐色土 0.5~5cmの大の礫を非常に多く含む。風化した花崗岩を含む。
 13 深部褐色土 11と似ているが、礫をほとんど含まず、色調もやや暗い。
 14 黄白色土 地山。

0 2 m

図20 磐の盛り上がり実測図 (1:40) 標高はすべて545.700m

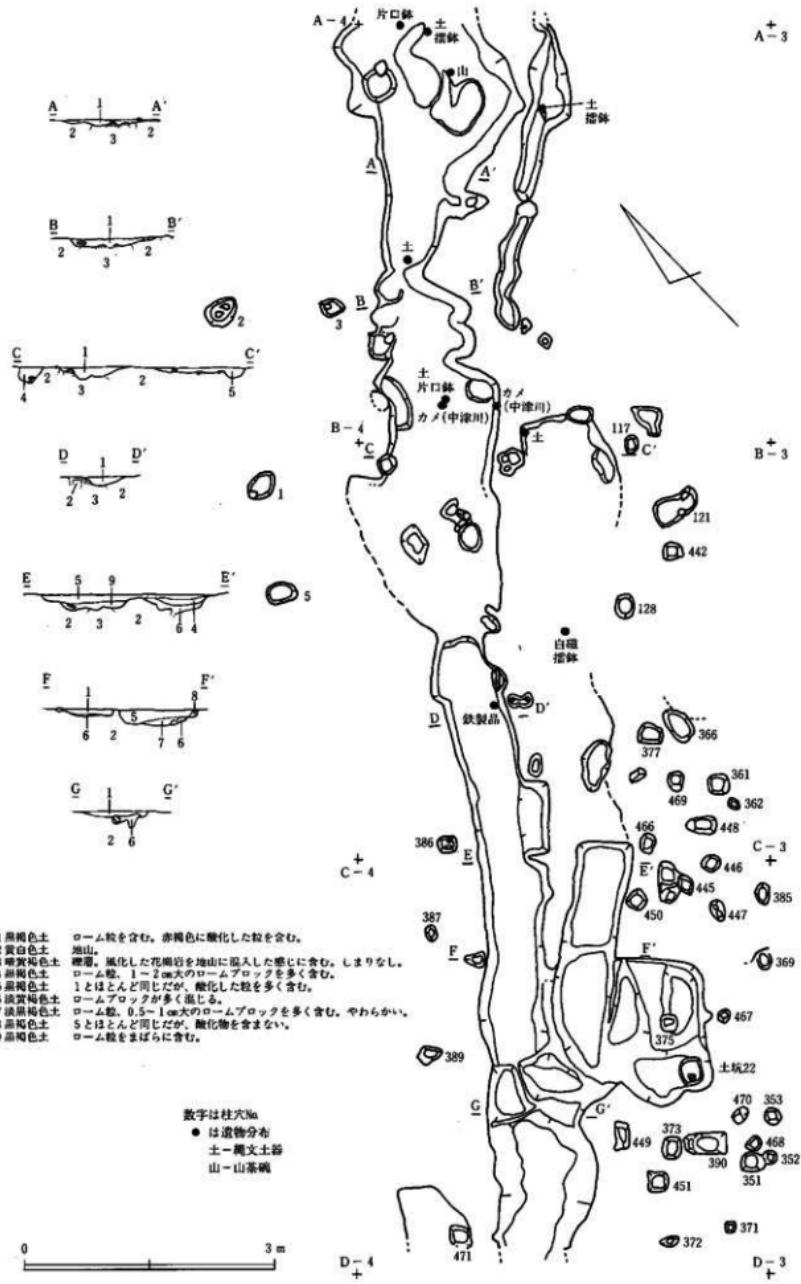
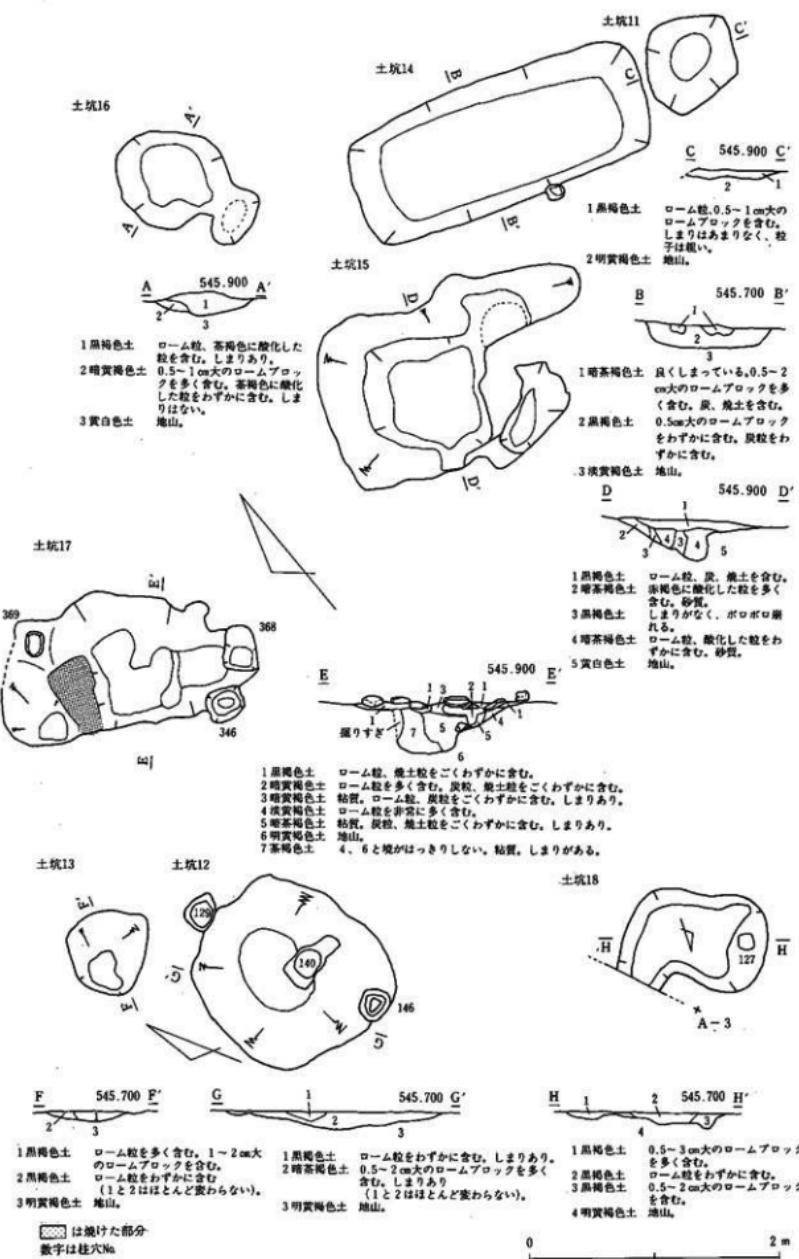


図19 壇状遺構実測図 (1:60) 標高はすべて545.700m



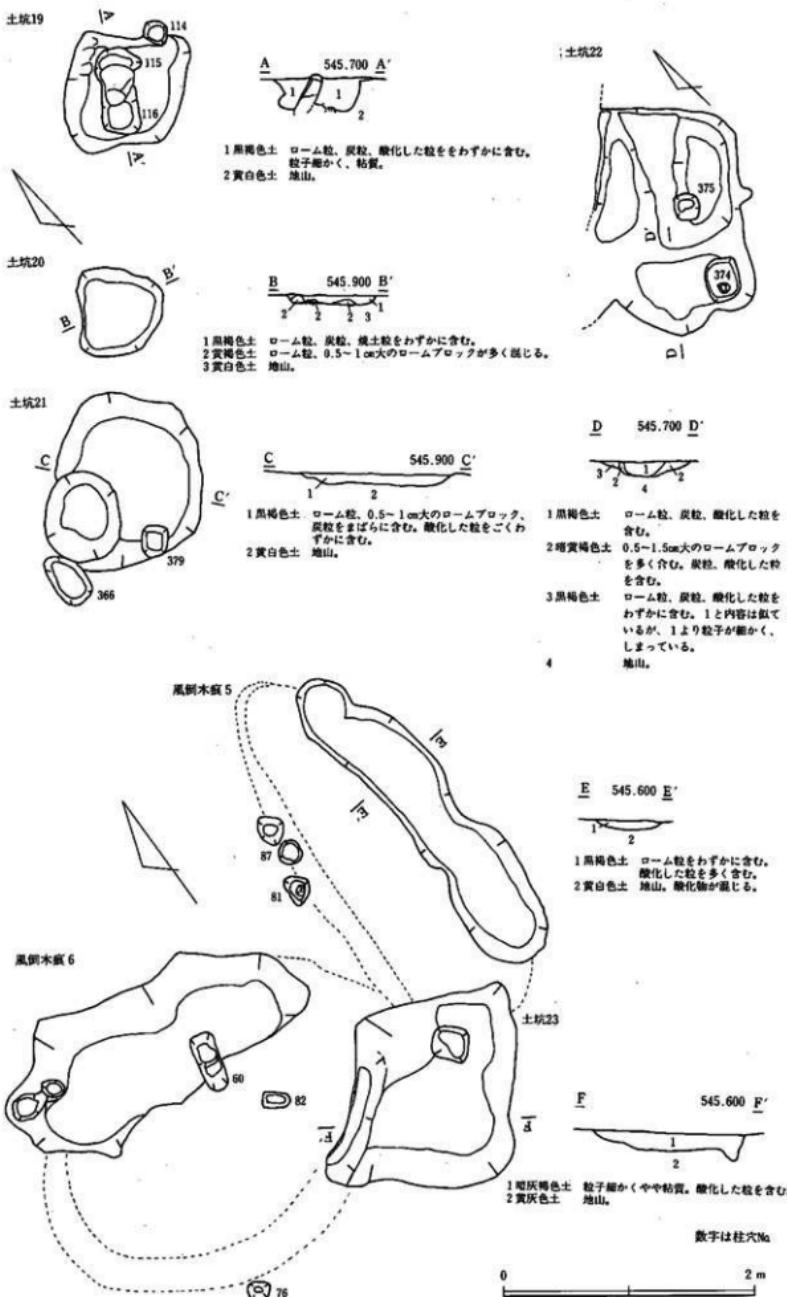
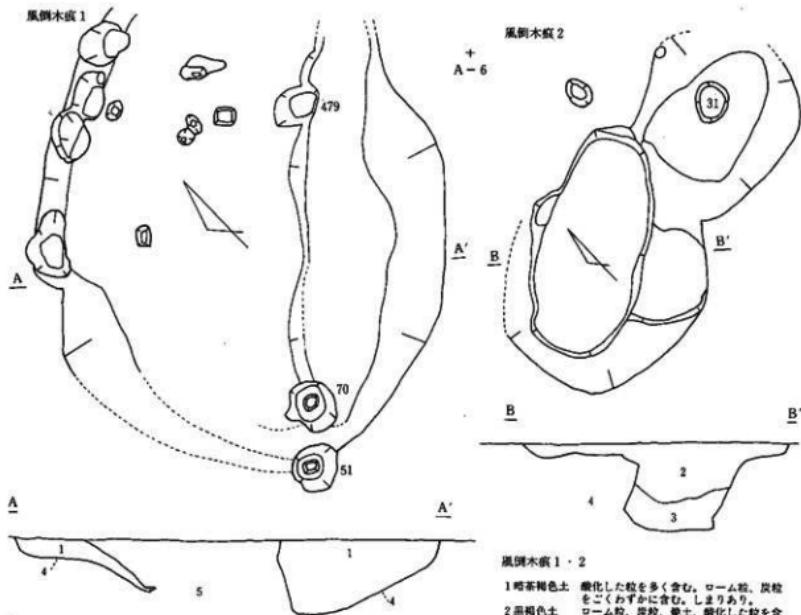


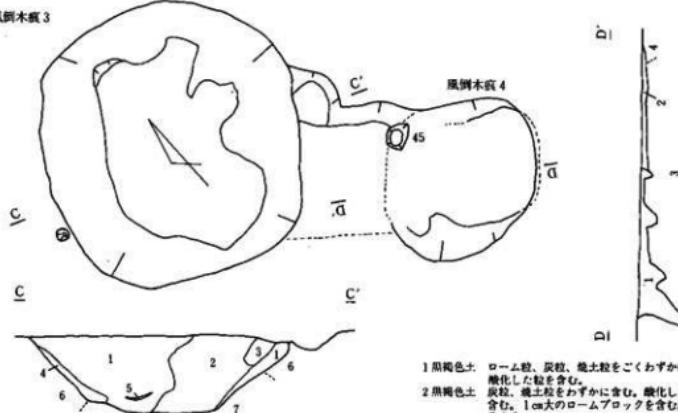
図16 土坑・風倒木痕実測図 (1 : 40)



風倒木痕 1・2

- 1 黒茶褐色土 糜化した粒を多く含む。ローム粒、炭粒をごくわずかに含む。しまりあり。
2 黒褐色土 炭粒、堆土粒をわずかに含む。糜化した粒を含む。粒子が細かい。
3 黑茶褐色土 ローム粒を多く含む。炭粒をわずかに含む。やわらかい。
4 黄白色土 地山。
5 黄白色土 地山。粒子の細かい砂質土。

風倒木痕 3



- 1 黒褐色土 ローム粒、炭粒、堆土粒をごくわずかに含む。糜化した粒を含む。
2 黒褐色土 炭粒、堆土粒をわずかに含む。糜化した粒を含む。1cm大的ロームブロックを含む。しまりあり。
3 黄白色土 地山。
4 黄白色土 地山。粒子の細かい砂質土。

- 1 黒褐色土 ローム粒、炭粒、堆土粒をごくわずかに含む。糜化した粒を多く含む。しまりなし。
2 黑茶褐色砂質土 2と4の漸移層。
3 黑茶褐色砂質土 しまりなし。1と5の漸移層。
4 墓茶褐色土 しまりなし。
5 墓茶褐色土 ローム粒が集まつた層。
6 黑褐色土 地山。
7 墓茶褐色砂質土 地山の下の層。

数字は柱穴No



図17 風倒木痕実測図 (1:40) 標高はすべて545.700m

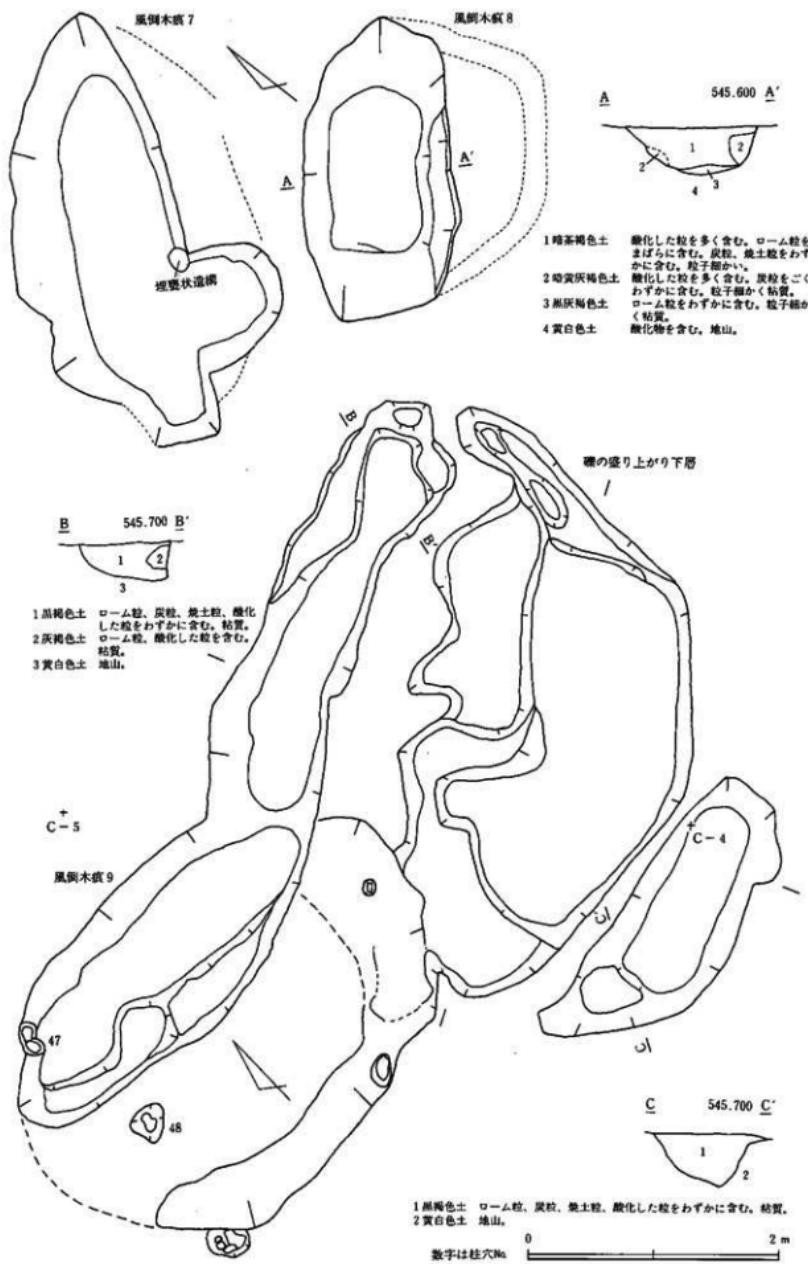


図18 風倒木痕実測図 (1 : 40)

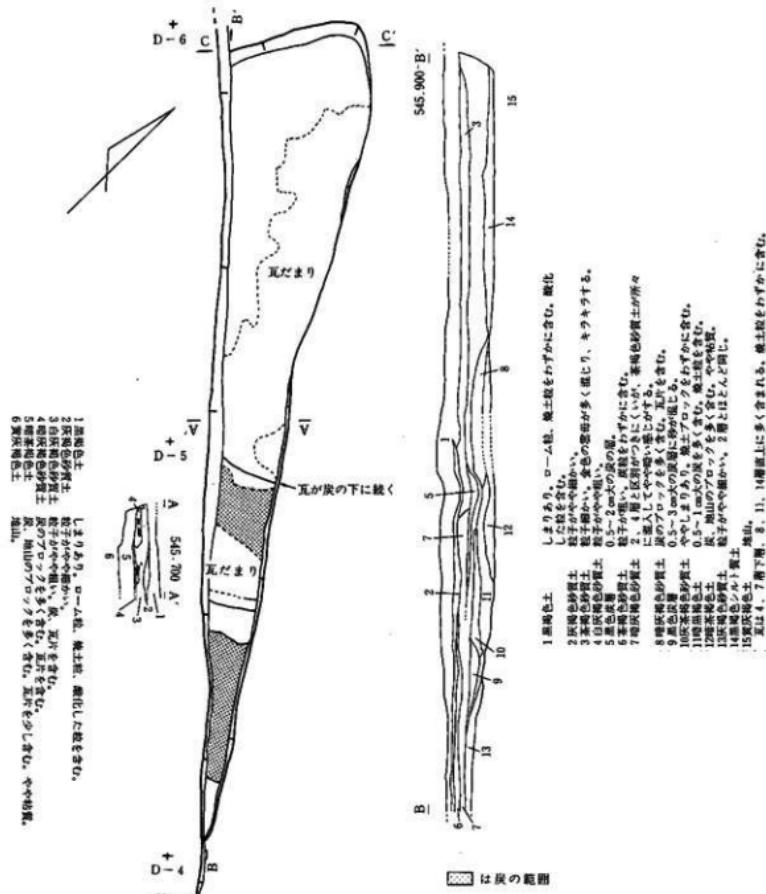


図21 瓦捨て造構実測図 (1 : 60)

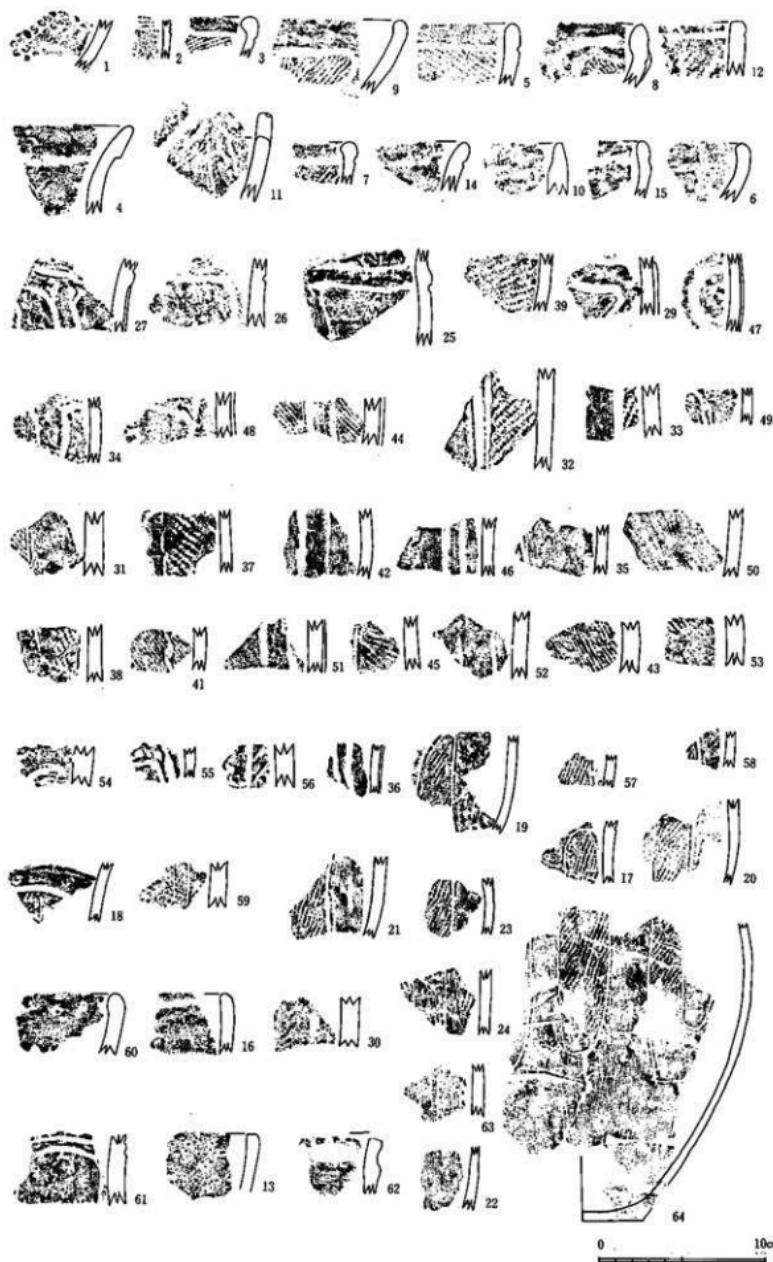


図22 純文土器実測図および拓影（1：3）

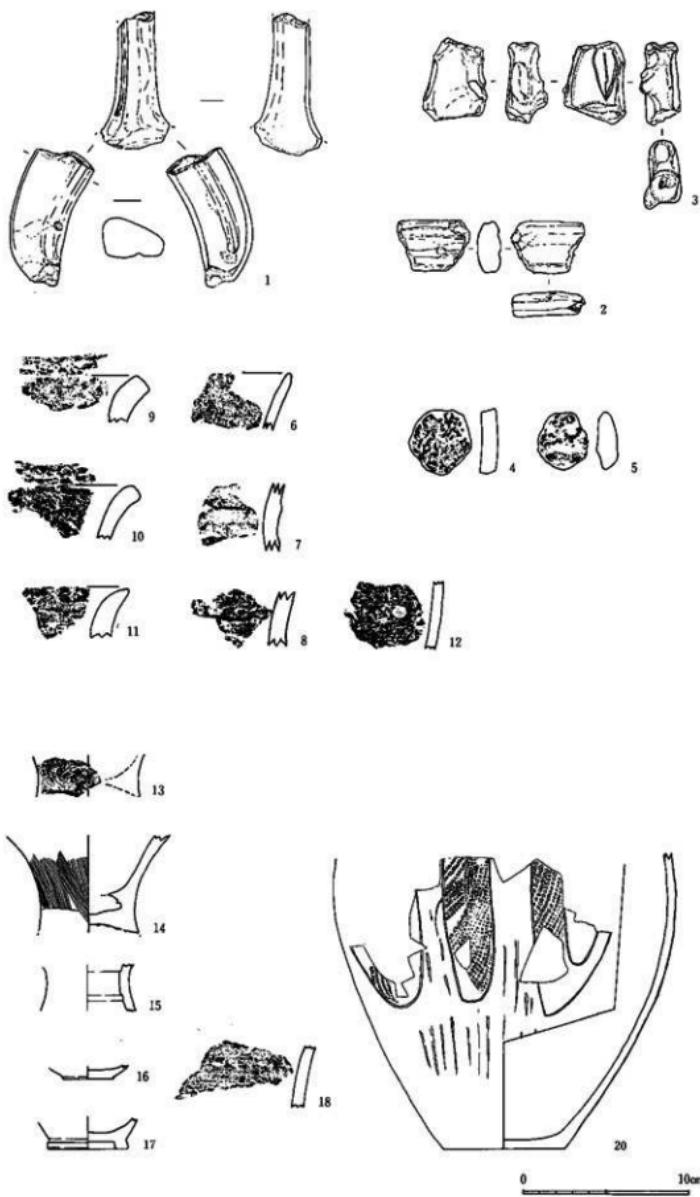


図23 縄文土器・弥生土器・古代の土器実測図および拓影（1：3）

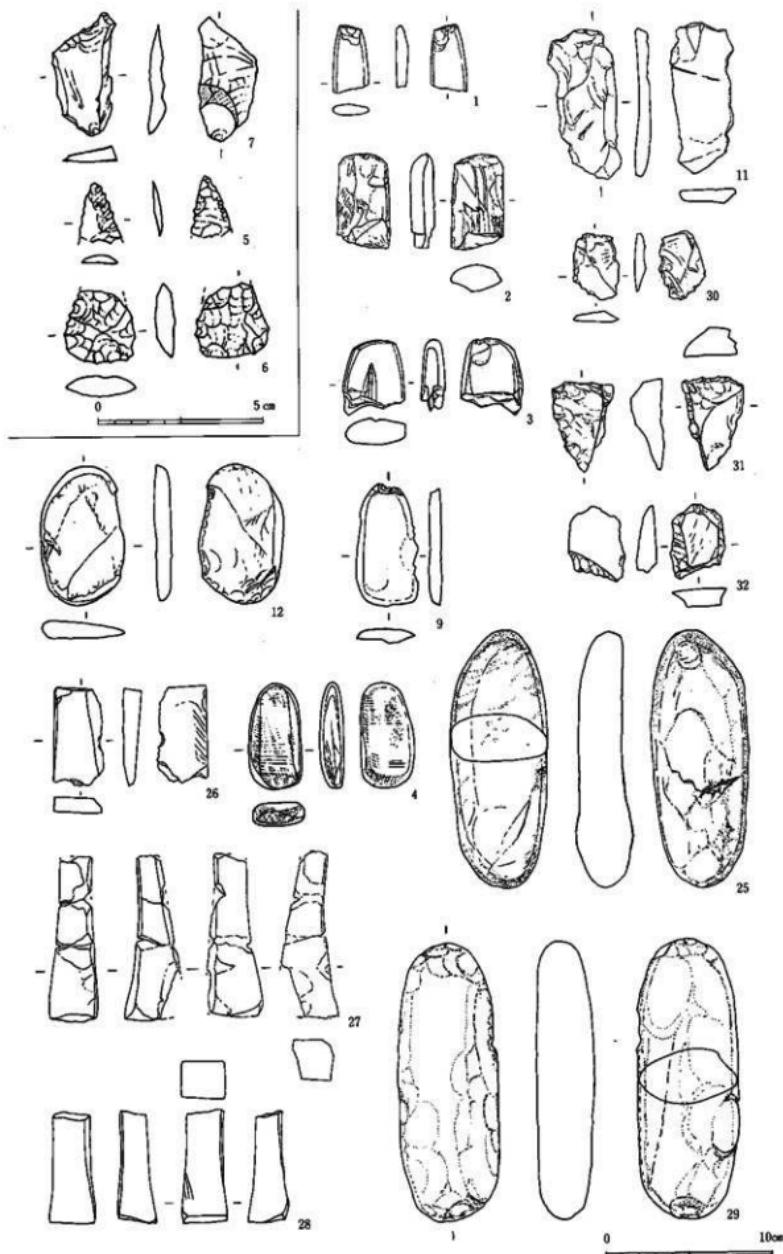


図24 石器・石製品実測図 (1 : 3、2 : 3)

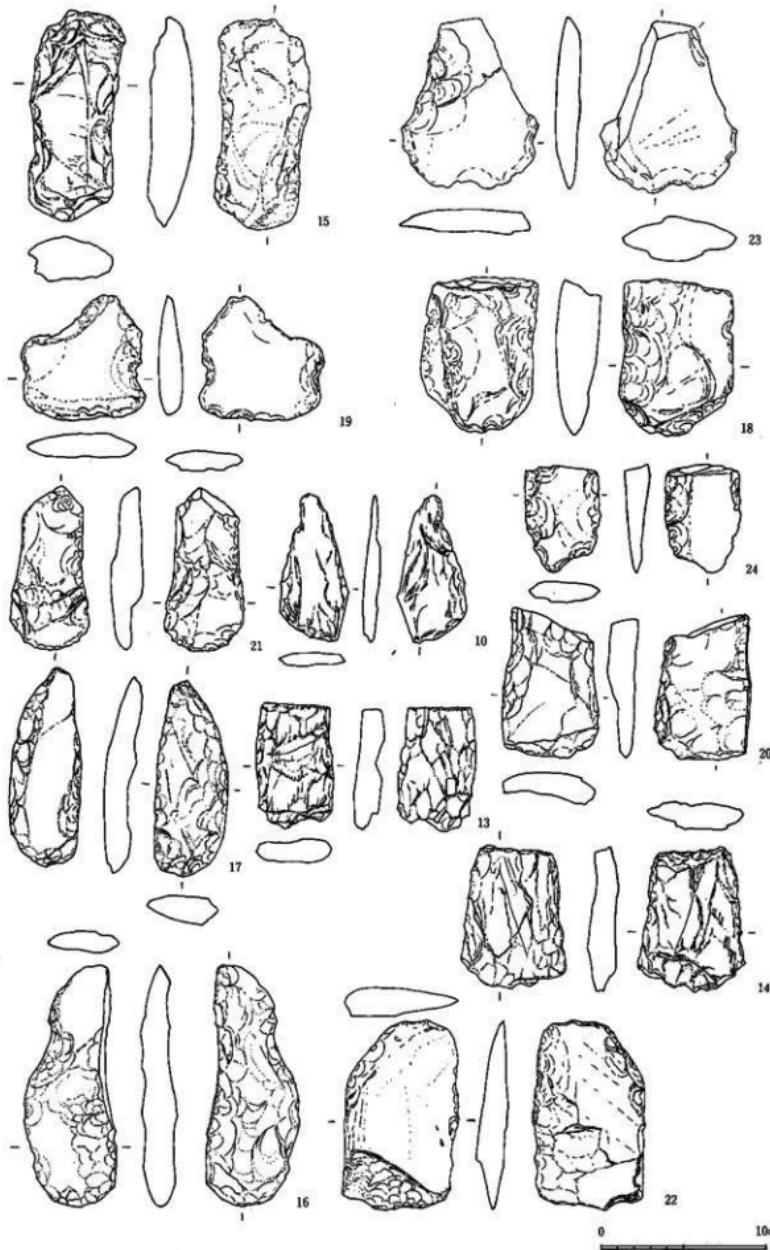


图25 石器实测图 (1 : 3)

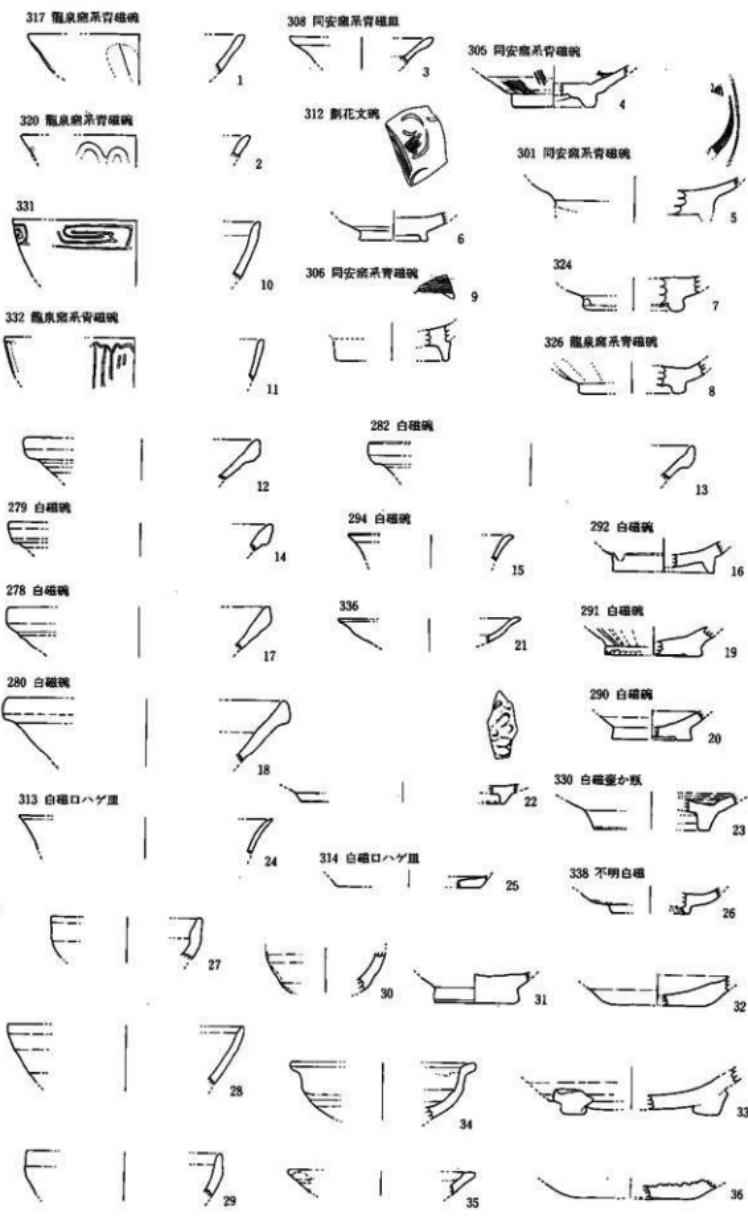


図26 陶磁器実測図 (1 : 3)

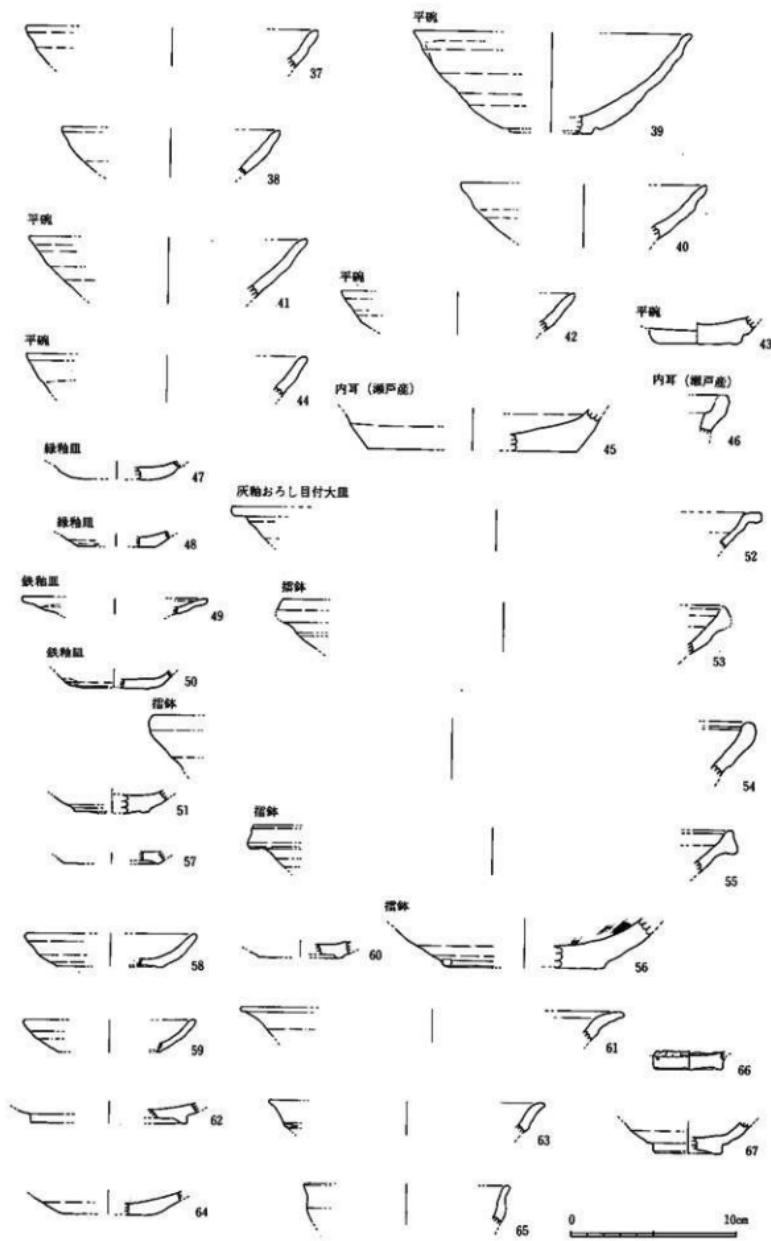


図27 陶器実測図 (1:3)

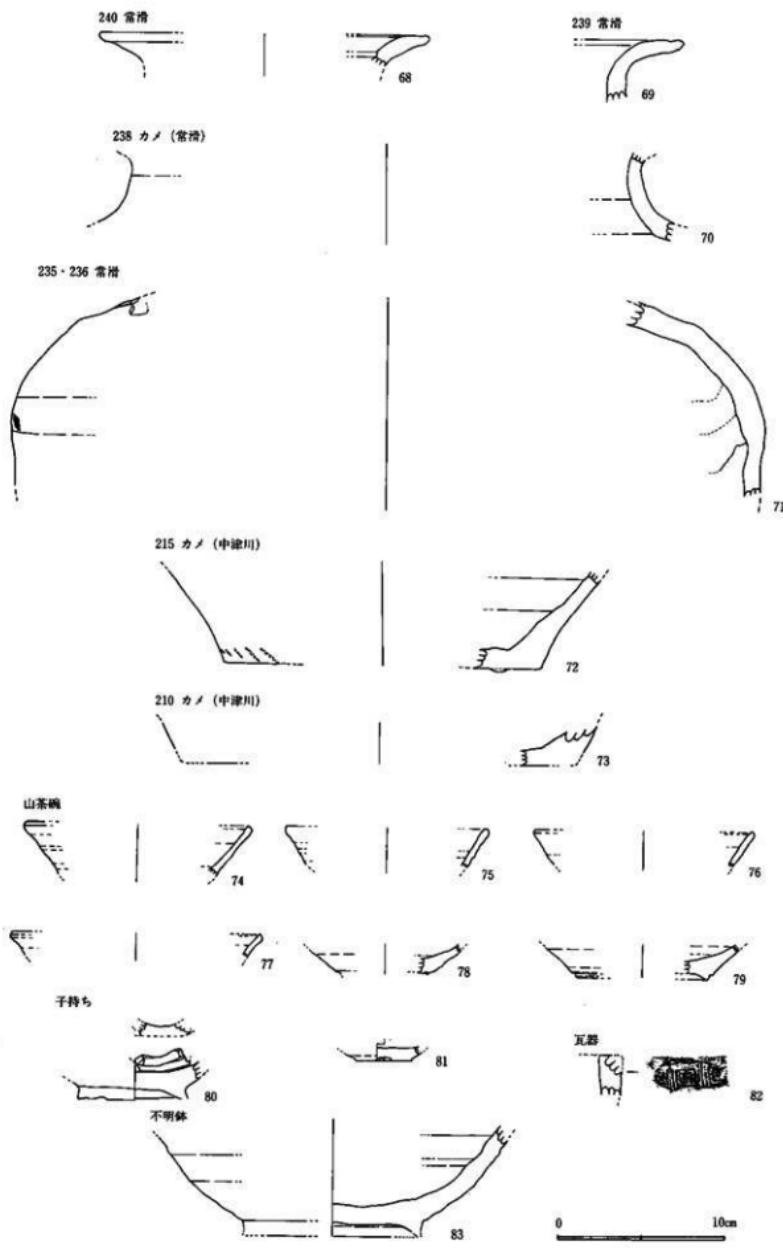


図28 陶器・土器実測図(I) (1 : 3)

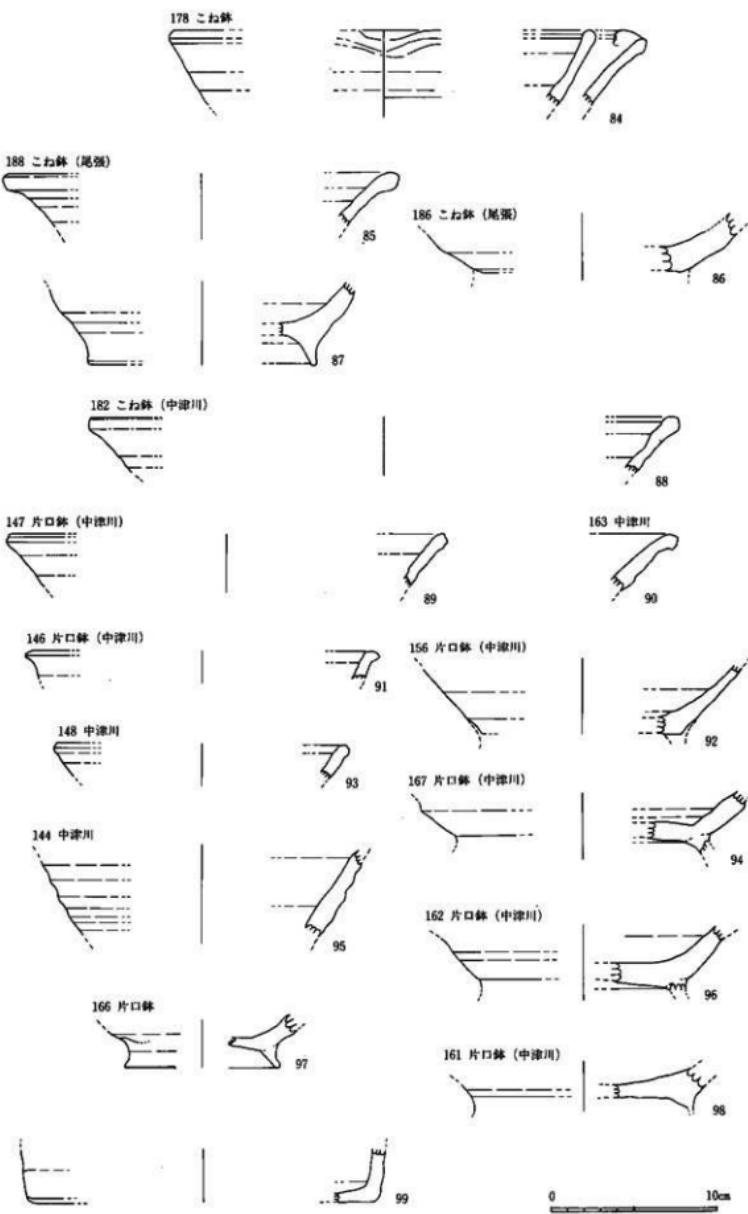


図29 説明・土器実測図(2) (1 : 3)

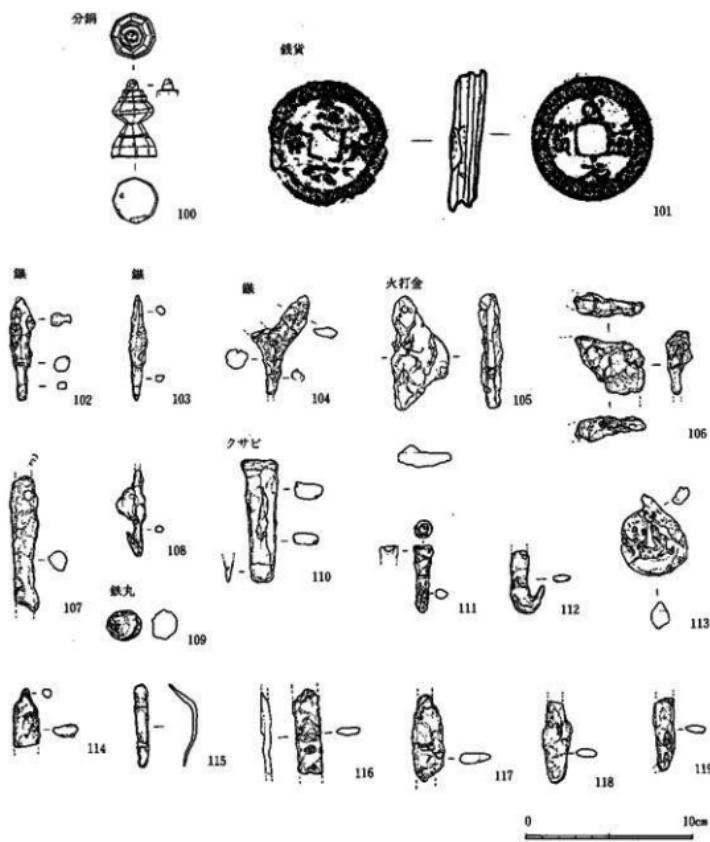


図30 金属製品実測図 (1 : 3、錢貨のみ1 : 1)

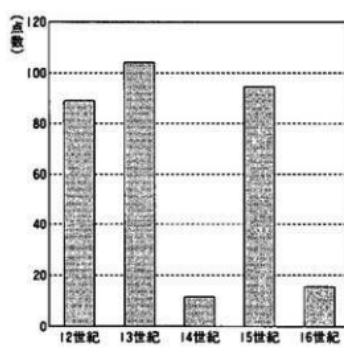
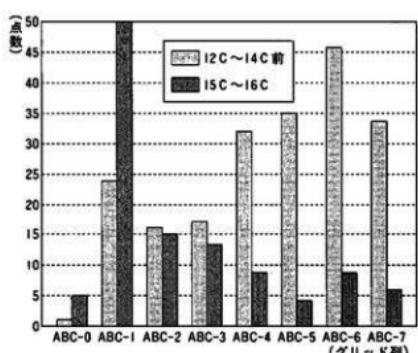
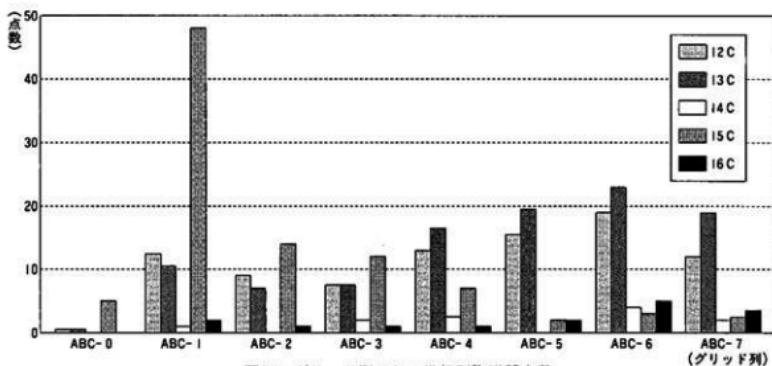
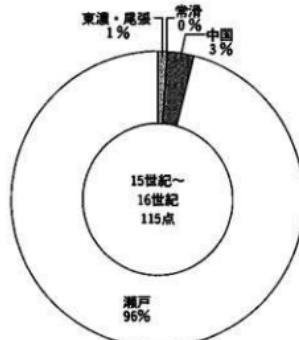


図32: グリッド列ごとの2時期別陶磁器点数

図33: 世紀別陶磁器点数



※図31～33のグラフでは、例えば「I2C後～I3C前」のように判断された遺物について、便宜上、I2CとI3Cに各0.5点として数値化している。

12世紀	8	7	6	5	4	3	2	1	0	
A	0	20	20	5	15	0	20	10	0	
B	5	35	55	35	45	20	25	80	0	
C	0	65	115	65	70	20	25	35	0	
D						0	20		5	

13世紀	8	7	6	5	4	3	2	1	0	
A	0	50	60	25	15	20	10	40	0	
B	5	45	95	115	90	25	15	30	0	
C	0	95	75	55	60	30	45	35	0	
D						0	0		5	

14世紀	8	7	6	5	4	3	2	1	0	
A	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
B	0	0	10	0	15	15	0	10	0	
C	0	20	30	0	10	5	0	0	0	
D						0	0		0	

15世紀	8	7	6	5	4	3	2	1	0	
A	10	15	10	0	30	50	10	90	40	
B	0	10	0	0	20	30	20	230	10	
C	0	0	20	20	20	30	110	160	0	
D						10	0		0	

16世紀	8	7	6	5	4	3	2	1	0	
A	0	5	30	0	10	0	0	10	0	
B	0	30	10	20	0	10	0	0	0	
C	0	0	10	0	0	0	10	10	0	
D						0	0		0	

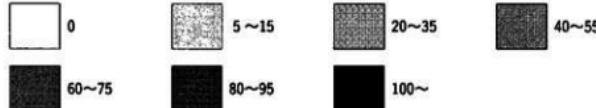


図35：各世紀のグリッド別陶磁器出土状況

*遺物1点につき10ポイントを与え、指数として示している。ただし、例えば「12C後～13C前」のように判断される遺物は、12Cと13Cに各5ポイントを与える。

図 版

写真6 埋甕状遺構上部



写真7 埋甕状遺構下部



写真8
据立柱建物1内竪穴上部



図版2



写真9 挖立柱建物1および土坑1・3・4・5・6・7・8・9・10(空中写真)



写真10 挖立柱建物2内浅くくぼんだ遺構上部

写真11 挖立柱建物 2

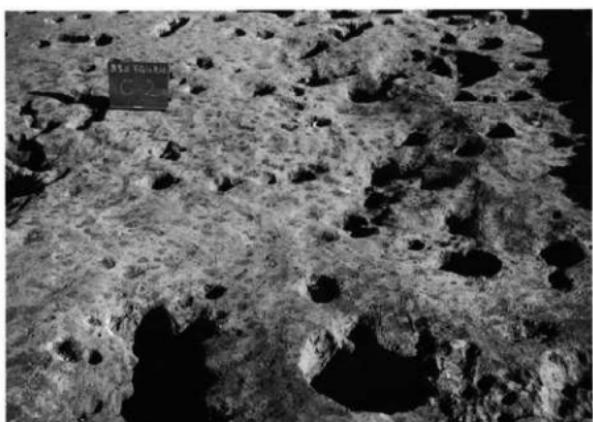


写真12 土坑 3・4



写真13 土坑 4・5



図版 4



写真14 土坑 6



写真15 土坑 9 上部配石

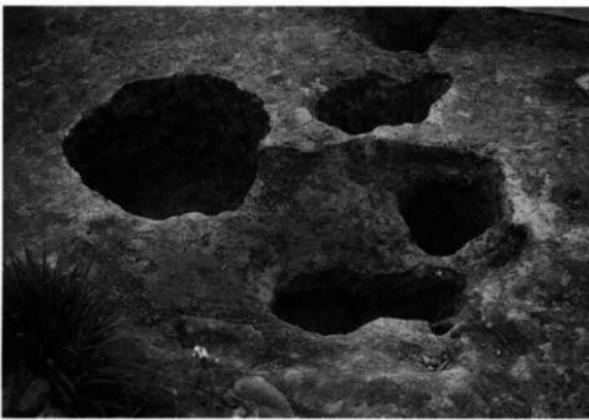


写真16 土坑 8・9

写真17 土坑11・14・15



写真18 土坑12・13・18

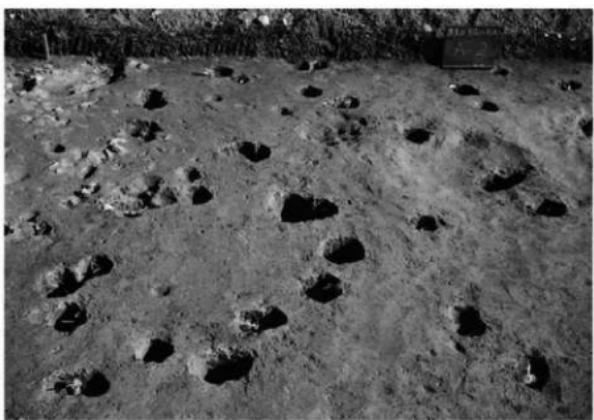
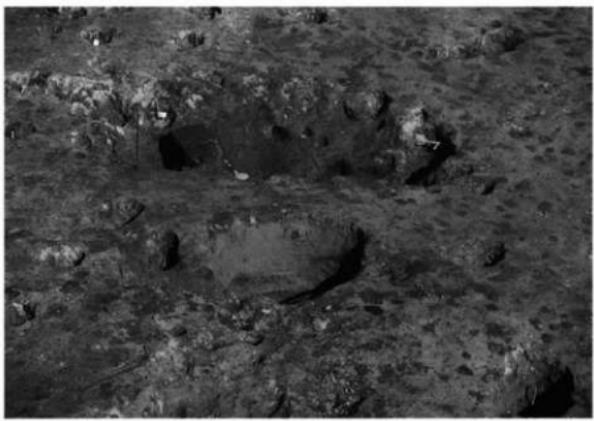


写真19 土坑17



図版 6

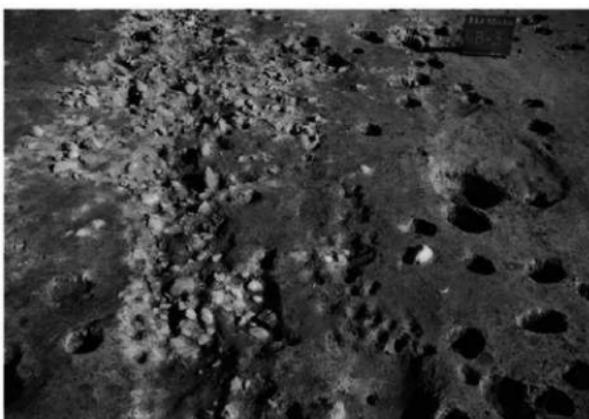


写真20 坑状遺構、
土坑19・20・21



写真21 土坑23、風倒
木痕 5・6



写真22 風倒木痕1断
面

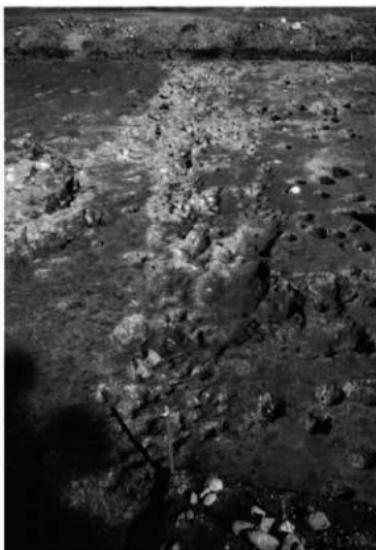


写真23 壕状遺構、土坑22



写真24 瓦捨て遺構



写真25 瓦捨て遺構

図版 8



写真26 風倒木痕 3



写真27 圖倒木痕 9

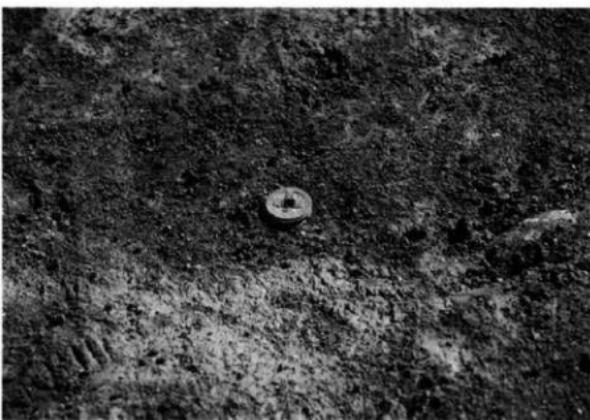


写真28 級貨出土状況

図版9

写真29 陶磁器(1)

中世瀬戸産 1・2・3・
7・9・10・14・15・17・
18
東濃・尾張産 5・6・
11・12・13・15
中国産 8

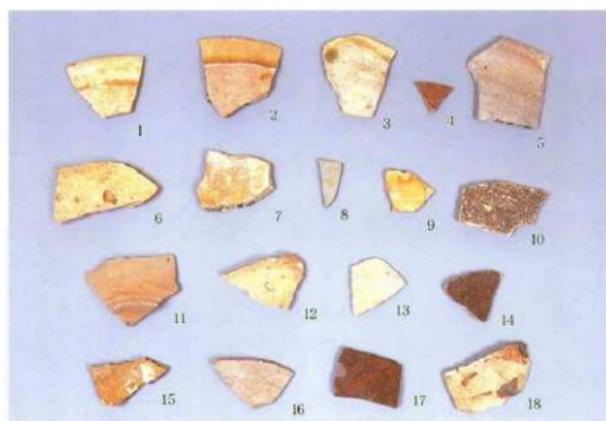


写真30 陶磁器(2)

中世瀬戸産 1・2・6・
7・8・12・13・18・19・
20・21・22・23
東濃産10・24



写真31 陶磁器(3)

中世瀬戸産 1・2・3・
5・7・8・9・10・13・
14・15・18・19・20・21・
22・23・24・26



図版10



写真32 陶磁器(4)

中世瀬戸産 1・2・3・4、
6・7・8・9
東濃産 11-13
常滑産 5

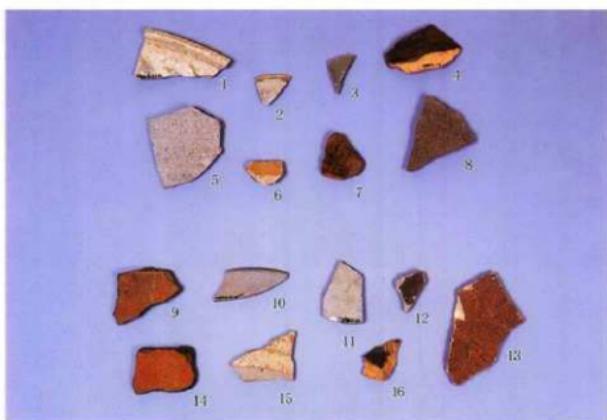


写真33 陶磁器(5)

中世瀬戸産 1・2・4・6、
11-12・13・15・16
東濃産 5・10
常滑産 8
中国産 3・11



写真34 陶磁器(6)

中世瀬戸産 3・5・7・16、
17-27・28-29
瓦器 4

図版11

写真35 陶磁器(7)

中世瀬戸産 2・3・4・
5・10
不明 8・9・12



写真36 陶磁器(8)

中世瀬戸産 2・3・4・
5・6・7・10
尾張・東濃産 8・12・
16・17・18
常滑産 1・11・15



写真37 陶磁器(9)

中世瀬戸産 4・12
中国産 14



図版12



写真38 陶磁器(10)

中世瀬戸産 2・4・10-16
中国産15



写真39 陶磁器(11)

中世瀬戸産 1・2・4・7・
8・9-12



写真40 陶磁器(12)

すべて中国産磁器

写真41 陶磁器(13)

すべて中国産磁器



写真42 陶磁器(14)

中世瀬戸産 14・26・29
東濃産 1・2・3・4・
5・6・7・8・10・12・
13・14・15・16・17・18・
20・21・22・23・24・25・
27・28



写真43 陶磁器(15)

11以外東濃・尾張産



図版14



写真44 陶磁器(16)

25は中津川産
ほかは常滑産



写真45 陶磁器(17)

9は中津川産?山茶窯
ほかは中津川産



写真46 陶磁器(18)

中世窯戸産 4・5・10-21
尾張産11-17・22-23・28
ほかは常滑産

写真47 銭貨・青銅
製品



写真48 埋甕状遺構
出土縄文土器



写真49
縄文時代土製品と堅
穴内出土の土器



図版16



写真50 石器(1)

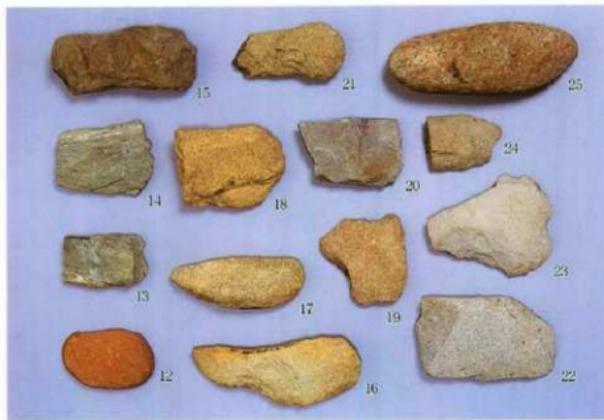


写真51 34石器(2)



写真52 石器・石製品

写真53 中世土器(1)

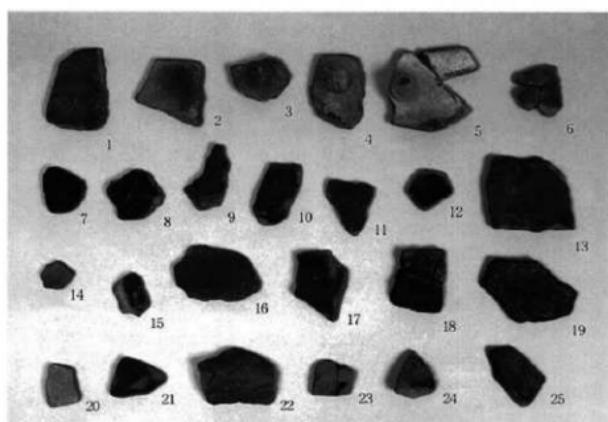


写真54 中世土器(2)

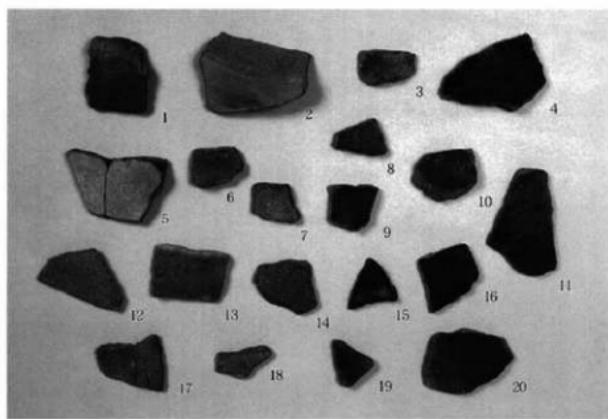
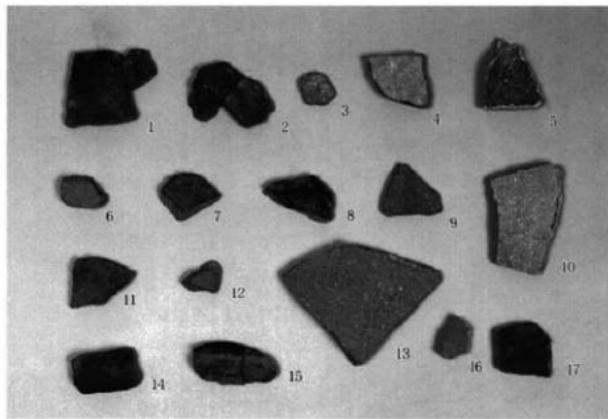


写真55 21柱穴内出土の中世土器・陶器



図版18



写真56 拝生・古代
土器

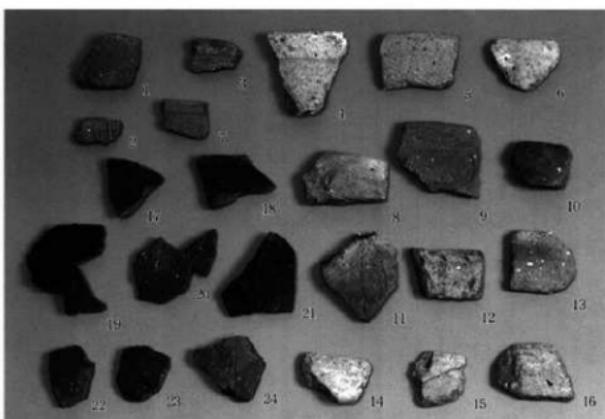


写真57 繩文土器(1)

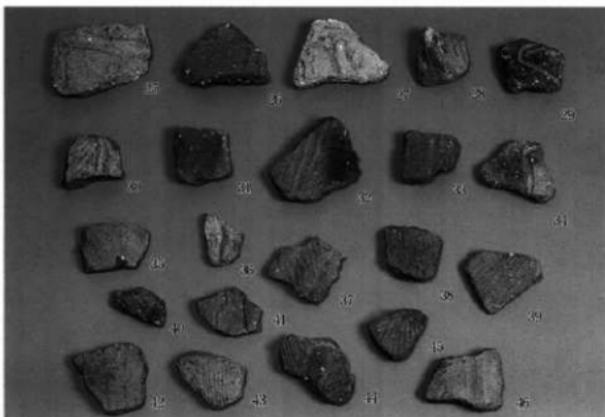


写真58 繩文土器(2)

写真59 鉄製品(1)

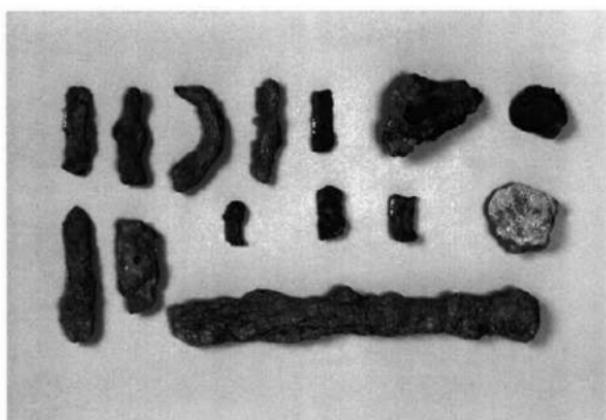


写真60 鉄製品(2)

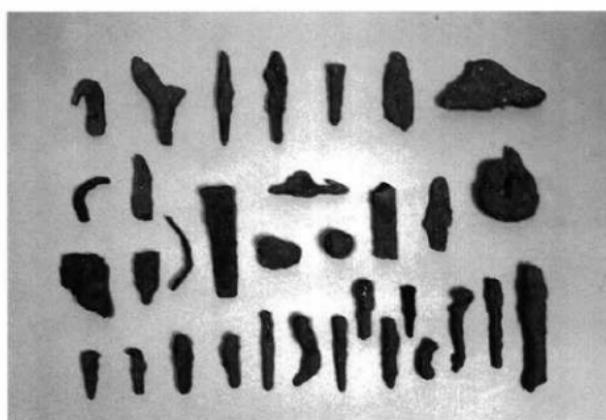
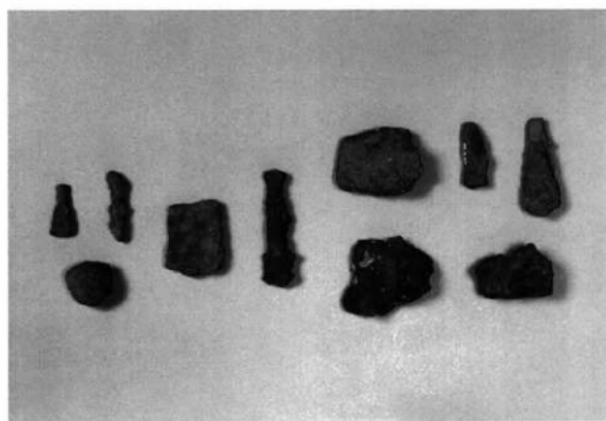


写真61 鉄製品(3)



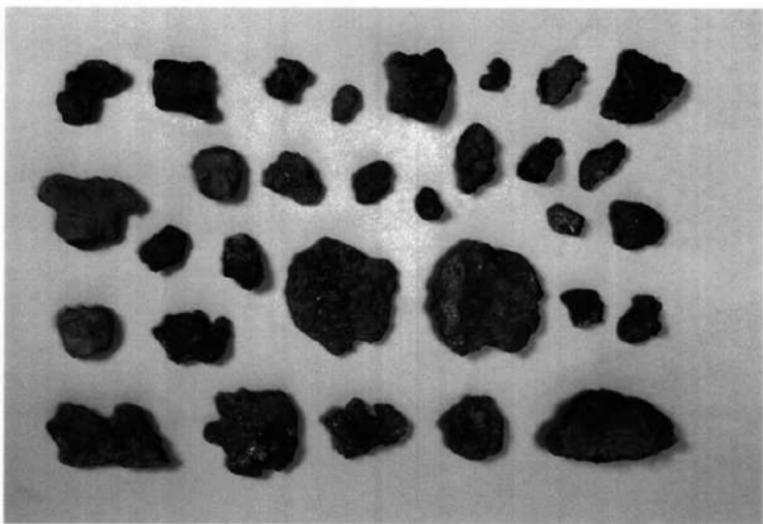


写真62 鉄滓



写真63 瓦（明治時代）

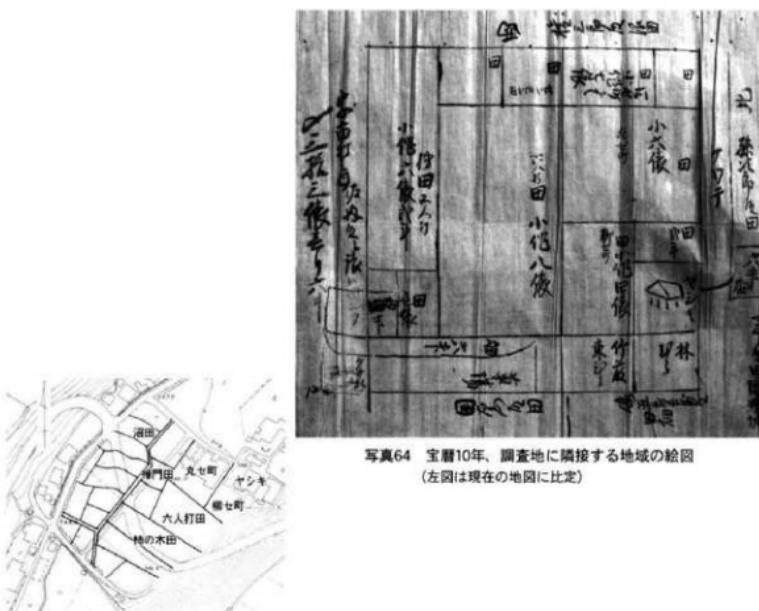


写真64 宝曆10年、調査地に隣接する地域の絵図
(左図は現在の地図に比定)

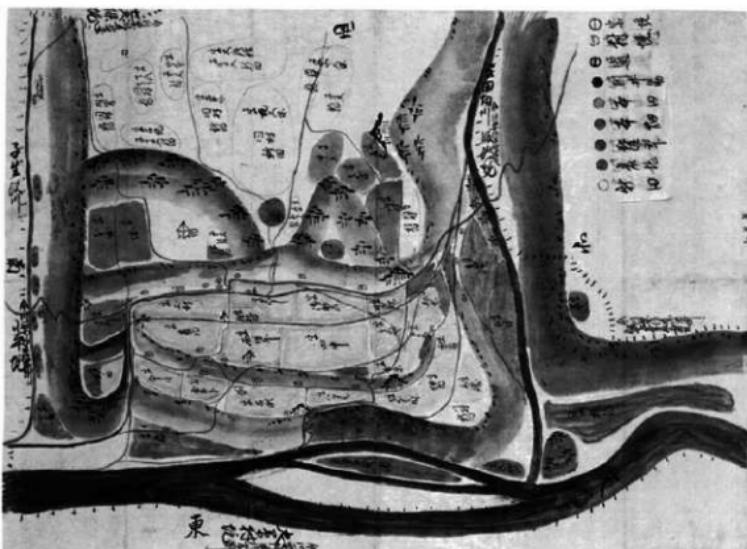


写真65 文久2年の本郷村絵図



写真66 文化5年の本郷・飯沼境墨引絵図

報告書抄録

ふりがな	わかもりしやいせき
書名	若森社遺跡
副書名	農業集落排水事業本郷東部地区処理施設新築工事 埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	丸山浩隆・倉沢敏一・太田保・中島誠雄
編集機関	飯島町教育委員会
所在地	〒399-3702 長野県上伊那郡飯島町飯島2489
発行年月日	西暦2001年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡 番号					
わかもりしや 若森社	長野県 上伊那郡 飯島町 本郷551	203840	71	35° 39' 19"	137° 46' 44"	19990901 19991130	570	農業集落排水 事業本郷東部 地区処理施設 新築工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
若森社	居館跡	縄文 中世	埋甕状遺構 掘立柱建物跡4 土坑10 柱穴 垣状遺構	土器・石器 陶磁器・土器・金属 製品・砥石	12~13世紀、および 15世紀の陶磁器片 が多く出土。飯島氏 に従属する人びとの 居住域か。

農業集落排水事業本郷東部地区処理施設新築工事
埋蔵文化財発掘調査報告書

若森社遺跡

2001年3月30日 発行

発行者 飯島町
飯島町教育委員会

印刷所 ほおづき書籍株式会社